

平成 2 3 年度

農作物有害動植物発生予察事業年報

和歌山県農作物病虫害防除所

目 次

I. 事業目的	1
II. 事業実施方針	1
III. 対象病虫害の種類	1
IV. 職員	4
V. 病虫害発生予察情報の提供	
1. 発生予察情報の提供回数	5
2. 発生予察注意報の内容	7
3. 防除技術情報の内容	15
4. 発生予報の内容	19
5. 病虫害の診断・同定の件数	68
VI. 病虫害の発生経過の概要	69
VII. 水稻病虫害の発生状況調査	
1. 水稻の生育概況	77
2. 県予察ほ場などにおける定点調査	79
3. 水稻巡回ほ場調査	80
1) ほ場における病虫害の発生状況	81
2) 主要病虫害の発生程度別面積	93
4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況	101
VIII. 野菜・花き病虫害の発生状況調査	
1. 巡回調査における発生状況	106
2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況	114
3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況	123
IX. 果樹病虫害の発生状況調査	
1. 予察ほ場における調査成績	124
2. 巡回調査結果	142

平成23年度農作物有害動植物発生予察事業年報

I. 事業目的

農作物に発生する有害動植物（以下「病害虫」という）の防除を的確かつ経済的に行うために、病害虫の発生、増殖、気象、農作物の生育状況等を調査して、病害虫の発生時期、発生量、発生地域、農作物が受ける損害の程度を予測し、関係者に迅速かつ適期に情報を提供して、防除効果の向上に資することを目的とする。

II. 事業実施方針

農作物有害動植物発生予察事業調査実施基準に基づいて、定点における定期調査と巡回による病害虫の発生状況調査を重点的に実施し、定期または適期に病害虫防除員や関係機関に発生予察情報を提供して、適切な防除の推進を図る。その他、県内で問題となる病害虫や侵入害虫、新規発生病害虫に関する調査なども重点に事業を実施する。

III. 対象病害虫の種類

作物名	対象病害虫
水 稲	(指 定) いもち病、紋枯病 ヒメトビウンカ、トビイロウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、ニカメイガ、コブノメイガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ）、イネミズゾウムシ (指定外) 白葉枯病、萎縮病、縞葉枯病、ばか苗病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯病、稲こうじ病、内穎褐変病 イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネクロカメムシ、イネハモグリバエ、コバネイナゴ、フタオビコヤガ、イネヨトウ、アワヨトウ、イネシンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ
麦	(指 定) 赤かび病、うどんこ病
大 豆	(指 定) 吸実性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ、イチモンジカメムシ、プチヒメカメムシ、クサギカメムシ）
キャベツ	(指 定) 黒腐病、菌核病 コナガ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ） (指定外) モンシロチョウ、ヨトウガ
ハクサイ	(指 定) アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナガ、ハスモンヨトウ (指定外) べと病、黒斑病、軟腐病、キュウリモザイクウイルス病、カブモザイクウイルス病、カリフラワーモザイクウイルス病、根こぶ病、白斑病 ハイマダラノメイガ

作物名	対象病虫害
ダイコン	(指定外) 黒斑細菌病、キュウリモザイクウイルス病、カブモザイクウイルス病 キスジノミハムシ、モンシロチョウ、ハイマダラノメイガ
レタス	(指定) 菌核病、灰色かび病 (指定外) キュウリモザイクウイルス病、レタスモザイクウイルス病
タマネギ	(指定) さび病 (指定外) 白色疫病、べと病、葉枯病、ネギアザミウマ
スイカ	(指定) アブラムシ類 (ワタアブラムシ) (指定外) つる枯病、うどんこ病、疫病、キュウリ緑斑モザイクウイルス病、 キュウリモザイクウイルス病、カボチャモザイクウイルス病、炭そ病 カンザワハダニ、ナミハダニ、シロイチモジヨトウ、ウリハムシ
キュウリ	(指定) べと病、うどんこ病、灰色かび病 アブラムシ類 (ワタアブラムシ) (指定外) 斑点細菌病、疫病、キュウリ緑斑モザイクウイルス病、キュウリモザイク ウイルス病、カボチャモザイクウイルス病 ナミハダニ、カンザワハダニ、ミナミキイロアザミウマ、オンシツコナ ジラミ、ワタヘリクロノメイガ、トマトハモグリバエ
ナス	(指定) うどんこ病、灰色かび病 アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハスモンヨトウ (指定外) 青枯病 ナミハダニ、カンザワハダニ、オンシツコナジラミ、ミナミキイロアザ ミウマ、ミカンキイロアザミウマ、トマトハモグリバエ、ダイズウスイ ロアザミウマ、ネギアザミウマ
トマト	(指定) 灰色かび病、疫病 (指定外) キュウリモザイクウイルス病、タバコモザイクウイルス病 オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、トマトハモグリバエ
ピーマン	(指定) うどんこ病
エンドウ	(指定) ハスモンヨトウ (指定外) 褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、つる枯細菌病 ナミハダニ、カンザワハダニ、ウラナミシジミ、ナモグリバエ、 シロイチモジヨトウ、オオタバコガ
イチゴ	(指定) 灰色かび病 アブラムシ類 (ワタアブラムシ) (指定外) うどんこ病、ナミハダニ、カンザワハダニ、ミカンキイロアザミウマ

作物名	対象病害虫
キク	(指 定) 白さび病 (指定外) 黒斑病、褐斑病 カスミカメムシ類（ウスモンミドリカスミカメ）、ミカンキイロアザミウマ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナミハダニ
カンキツ	(指 定) かいよう病、黒点病、そうか病 ミカンハダニ、カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）、ハマキムシ類 (指定外) 灰色かび病 ミカンサビダニ、ヤノネカイガラムシ、ロウムシ類（ツノロウムシ、ルビーロウムシ）、チャノキイロアザミウマ、アブラムシ類（ワタアブラムシ、ミカンクロアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ）、ゴマダラカミキリ、ナシマルカイガラムシ、クワゴマダラヒトリ、ミカンハモグリガ
カキ	(指 定) ハダニ類、カキノヘタムシガ、カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）、ハマキムシ類 (指定外) 炭そ病、うどんこ病、灰色かび病、角斑落葉病、円星落葉病 チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ、フジコナカイガラムシ
モモ	(指 定) せん孔細菌病 シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）、ハダニ類（ミカンハダニ、カンザワハダニ）、カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）、ハマキムシ類 (指定外) 黒星病、灰星病 モモハモグリガ、コスカシバ、アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、カイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ）
ウメ	(指定外) かいよう病、黒星病、すす斑症 アブラムシ類（モモアカアブラムシ、オカボノアカアブラムシ、ウメクビレアブラムシ）、ウメシロカイガラムシ、カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
ブドウ	(指定外) 黒とう病、晩腐病

IV. 職員

区 分	所 在 地	職 名	氏 名
本 所	和歌山県紀の川市貴志川町高尾160 (農業試験場内) TEL0736(64)2300 FAX0736(65)2016	所 長 主 任 主 査 主 査 副主査 副主査	辻 圭索 井口 雅裕 岩橋 良典 間佐古将則 岡本 晃久 衛藤 夏葉
有田川 駐在	和歌山県有田郡有田川町奥751-1 (果樹試験場内) TEL0737(52)4320 FAX0737(53)2037	副主査 副主査	井沼 崇 貴志 学
紀の川 駐在	和歌山県紀の川市粉河3336 (果樹試験場かき・もも研究所内) TEL0736(73)2274 FAX0736(73)4690	副主査 副主査	森本 涼子 安井 洋子
みなべ 駐在	和歌山県日高郡みなべ町東本庄 1416-7 (果樹試験場うめ研究所内) TEL0739(74)3780 FAX0739(74)3790	主 任 技 師	中 一晃 武田 知明

V. 病害虫発生予察情報の提供

1. 発生予察情報の提供回数

種 類	対象作物	病 害 虫 名 と 提 供 回 数
注 意 報	水稲	イネ縞葉枯病（紀北地域）：注意報第1号 （発表日：平成23年4月25日）
	カキ	灰色かび病（全域）：注意報第2号 （発表日：平成23年6月3日）
	カンキツ （甘夏、ネーブル、 伊予柑等の 羅病性品種）	かいよう病（全域）：注意報第3号 （発表日：平成23年6月24日）
	スイカ	炭そ病（全域）：注意報第4号 （発表日：平成23年6月24日）
	カンキツ	果樹カメムシ類（紀南地域）：注意報第5号 （発表日：平成23年9月15日）
防除技術 情報	カンキツ （甘夏、ネーブル、 伊予柑等の 羅病性品種）	かいよう病（全域）：防除技術情報第1号 （発表日：平成23年7月15日）
	カンキツ	褐色腐敗病（台風12号の被害により冠水した地域） ：防除技術情報第2号 （発表日：平成23年9月12日）
発生予報	水稲	いもち病5回、ばか苗病1回、縞葉枯病4回、紋枯病4回、 白葉枯病1回、褐条病1回、もみ枯細菌病による苗腐敗症1回、 ツマグロヨコバイ5回、ニカメイガ3回、ヒメトビウンカ5回、 セジロウンカ3回、トビイロウンカ4回、コブノメイガ3回、 イネミズゾウムシ2回、イチモンジセセリ2回、 斑点米カメムシ類2回
	タマネギ	白色疫病1回、べと病2回、灰色かび病2回、軟腐病1回、
	エンドウ	褐斑病3回、褐紋病3回、うどんこ病3回、つる枯細菌病2回、 ハダニ類1回
	ウリ類	モザイク病2回、斑点細菌病1回、うどんこ病2回、疫病2回、 べと病2回、つる枯病2回
	キャベツ	コナガ1回
	ダイコン ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病1回、コナガ2回、ヨトウガ1回、アブラムシ類1回

種 類	対象作物	病 害 虫 名 と 提 供 回 数
発生予報	トマト、ナス ピーマン、 シシトウ	疫病 1 回、モザイク病 1 回
	トマト ミニトマト	黄化葉巻病 2 回
	野菜全般	ウイルス病 1 回、疫病 1 回、モザイク病 1 回、灰色かび病 1 回、 アブラムシ類 5 回、ハダニ類 5 回、ハスモンヨトウ 2 回、 シロイチモジヨトウ 3 回、コナガ 1 回、 ミナミキイロアザミウマ 3 回、ミカンキイロアザミウマ 6 回
	野菜・花き 全般	アブラムシ類 1 回、タバココナジラミ 1 回、 オンシツコナジラミ 1 回、ハダニ類 1 回、ハスモンヨトウ 2 回、 オオタバコガ 2 回、シロイチモジヨトウ 2 回、 ミナミキイロアザミウマ 1 回、ミカンキイロアザミウマ 1 回
	カンキツ	黒点病 5 回、かいよう病 6 回、そうか病 2 回、灰色かび病 1 回、 果実腐敗病 1 回、ヤノネカイガラムシ 4 回、ミカンハダニ 8 回、 チャノキイロアザミウマ 5 回、ゴマダラカミキリ 2 回、 アブラムシ類 1 回、カメムシ類 1 回
	カキ	炭そ病 3 回、うどんこ病 6 回、円星落葉病 5 回、角斑落葉病 5 回、 フジコナカイガラムシ 4 回、カキクダアザミウマ 1 回、 チャノキイロアザミウマ 1 回
	ウメ	かいよう病 1 回
	モモ	せん孔細菌病 2 回
	果樹全般	カメムシ類 7 回

2. 発生予察注意報の内容

注意報第1号（発表日：平成23年4月25日）

1. 病害虫名：イネ縞葉枯病
2. 対象作物：水稲
3. 発生地域：紀北地域
4. 発生予想量：多
5. 注意報発令の根拠
 - (1) 和歌山市3地点およびかつらぎ町1地点におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、いずれも10%以上と前年に引き続き高かった（表1）。これらの保毒虫率は、平成3～12年の平均（2.8～3.4%、表2）より高い。
 - (2) 平成22年7月中旬における紀北地域本田のイネ縞葉枯病発生面積は559haであった。これは、前年の同時期における発生面積（564ha）とほぼ同じである。
 - (3) 平成22年11月1半旬に紀北地域においてひこぼえでのイネ縞葉枯病発生状況を調査したところ、225ほ場中178ほ場（調査ほ場の79.1%）で発生が確認された。また、その内54ほ場（調査ほ場の24.0%）は、ほ場内における発生面積の割合が21%以上であった。
 - (4) 休閑田におけるヒメトビウンカの生息数は、4月中旬の和歌山市で13.0頭（平年7.9頭）、紀の川市で12.3頭（平年8.3頭）とやや多かった（表3）。

表1. ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率^{a)}

調査地点	平成23年 ^{b)}		平成22年 ^{c)}	
	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
和歌山市 小倉	197	12.2	78	10.3
和歌山市 川永	110	12.7	51	15.7
和歌山市 平尾・明王寺	120	19.2	105	20.0
かつらぎ町 窪	110	12.7	115	19.1

a)検定方法:高比重ラテックス凝集反応法

b)調査日:平成23年4月6～13日

c)調査日:平成22年4月5～8日

表2. ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移(平成3～12年)

(単位: %)

調査地点	平成 12年	平成 11年	平成 10年	平成 9年	平成 8年	平成 7年	平成 6年	平成 5年	平成 4年	平成 3年	平均
和歌山市小倉	0.6	2.0	2.3	4.7	0.0	3.0	—	7.2	—	—	2.8
かつらぎ町窪	—	2.4	2.0	2.3	—	6.6	3.4	2.0	3.0	5.1	3.4

注)ヒメトビウンカ採集および検定実施日は3月下旬～4月上旬。検定虫数が80頭以下の調査結果は除く。

検定方法:ラテックス凝集反応法

表3. 休閑田におけるヒメトビウンカの生息数(単位:頭)

調査時期		平成23年	平年
3月中下旬	和歌山市	51.5	2.7
	紀の川市	34.6	6.2
	かつらぎ町	5.8	1.4
4月上旬	和歌山市	11.0	7.9
	紀の川市	4.8	8.3
	かつらぎ町	6.7	5.9
4月中旬	和歌山市	13.0	7.9
	紀の川市	12.3	8.3
	かつらぎ町	6.3	5.9

注)すくい取り調査(捕虫網20回振り)

6. 防除対策

- (1) イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。
- (2) 窒素過多はイネ縞葉枯病の発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (3) 田植え時はヒメトビウンカに効果がある箱施薬剤を処理する。
- (4) 第1世代成虫は6月下旬頃に水田へ飛来し、第2世代幼虫の発生最盛期は7月上旬と考えられることから、前年にイネ縞葉枯病の発生が認められた地域では、この時期の幼虫を対象に追加防除を行う。
- (5) 本県の水稲奨励品種のうち、ハナエチゼン、イクヒカリ、キヌヒカリ、きぬむすめはイネ縞葉枯病に罹病しやすいので、特に注意する。
- (6) イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカは、休閑田やほ場周辺のイネ科雑草で越冬するので、冬期水田の耕起を励行する。
- (7) 農薬については、最新の登録情報 (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm 農林水産消費安全技術センター HP 農薬登録情報検索システム) を参照し、適正に使用する。

注意報第2号（発表日：平成23年6月3日）

1. 病害虫名：灰色かび病
2. 対象作物：カキ
3. 発生地域：全域
4. 発生量：多
5. 注意報発令の根拠
 - (1) 5月下旬の連続降雨によって、灰色かび病の感染に好適な条件になっており、開花期と重なった「富有」を中心に、果実や花弁、がく片に発病し、落果している園地がみられる。県予察ほ場における「富有」での発病果率は33.3%と多い。
 - (2) 大阪管区气象台発表の1ヶ月予報（予報期間：5月27日～6月27日）によると、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みで、今後も発病に好適な条件が続くものと予想される。
6. 防除上の注意事項
 - (1) 発病した果実や葉は伝染源となるので、見つけ次第早期に取り除き、園外に持ち出し処分する。
 - (2) 農薬散布時は、果実、花弁、がく片、葉に薬液がしっかりかかるように丁寧に行う。安全使用基準に留意して防除を実施する。なお、最新の農薬登録情報については、農林水産消費安全技術センター HP 農薬登録情報検索システム (<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>) を参照して下さい。



図 花弁、がく片の発病状況

注意報第3号（発表日：平成23年6月24日）

1. 病害虫名：かいよう病
2. 対象作物：カンキツ（甘夏、ネーブル、伊予柑等の罹病性品種）
3. 発生地域：県下全域
4. 発生量：多
5. 発生期間：葉（発芽直後～10月） 果実（幼果～10月）
6. 注意報発令の根拠
 - （1）病害虫発生予察ほ場（無防除）における越冬病斑量は発病葉率が15.1%とほぼ平年並（平年17.1%）であったが、6月20日現在の新葉の発病葉率は41.0%（平年18.0%）と平年より高かった（図1）。
 - （2）6月15～16日のカンキツ病害虫発生予察巡回調査によると、発病葉率は1.0%（平年1.3%）とほぼ平年並であるが、発病園率は23%（平年15%）と平年より多く（図2）、県下全域で菌密度が増加傾向にあると思われる。罹病性品種やその近隣にあるウンシュウミカンで広範囲に感染が拡大しており（図3）、今後の気象条件によっては発病がさらに増加すると予想される。
 - （3）過去の多発年において6月の発病園率が35%（図2）、発病葉率が3.8%であった1999年は、7月の発病園率が69%に増加し、発病果率6.2%を示した。また、発病園率43%（図2）、発病葉率3.2%であった2005年は、7月の発病園率が70%に増加し、発病果率が2.6%を示したことから、近年の発病園率の増加から被害の拡大が心配される。
7. 防除上の注意事項
 - （1）春葉の病斑は果実への伝染源となるので剪除する。夏秋梢の病斑は、果実及び翌春の伝染源になるので、病斑を形成した夏秋梢及び不要な夏秋梢は剪除に努める。また、幼木、高接樹ではミカンハモグリガの防除を徹底する。
 - （2）防風垣の整備等を行い、防風対策に努める。
 - （3）罹病性品種の場合、10月頃まで果実への感染の危険があるため、これらの品種や常発園、多発園では炭酸カルシウム剤200倍加用銅水和剤の予防散布を励行する。今後の気象情報に注意し、台風等の強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。なお、高温時の散布による薬害に注意する。
 - （4）農薬については、最新の登録情報（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.html 農林水産消費安全技術センター HP 農薬登録情報検索システム）を参照し、適正に使用する。

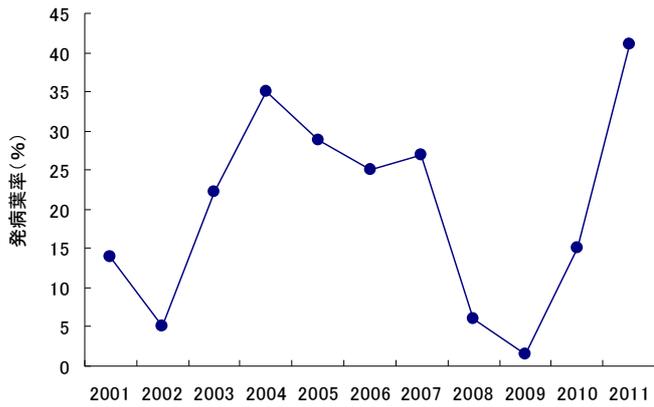


図 1 予察ほ場のネーブルにおけるかいよう病の発病率の推移
※ 6月中旬頃に調査

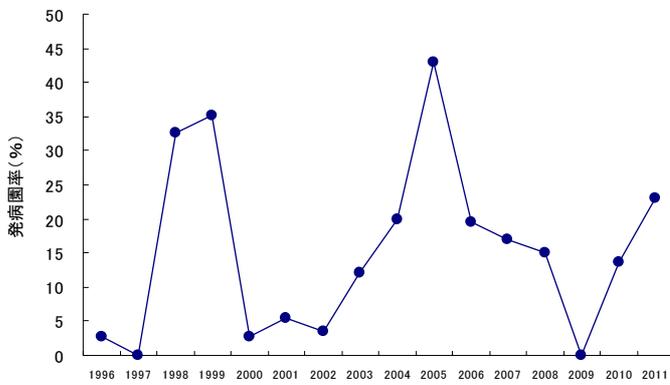


図 2 県内におけるかいよう病の発病率の推移（巡回調査による）
※ 6月中旬頃に調査

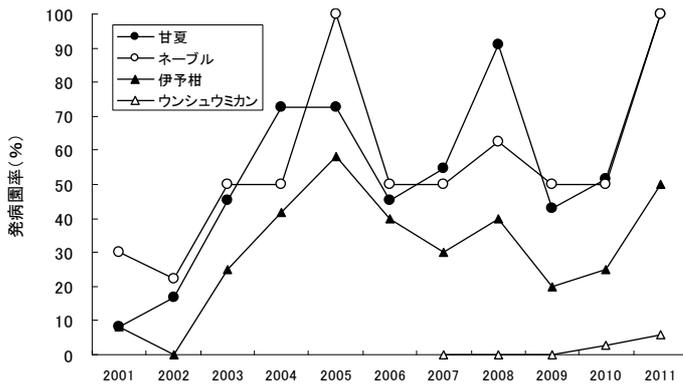


図 3 県内における品種別のかいよう病の発病率の推移（巡回調査による）
※ 6月中旬頃に調査

注意報第4号（発表日：平成23年6月24日）

1. 病害虫名：炭そ病
2. 対象作物：スイカ
3. 発生地域：県下全域
4. 発生量：多
5. 発生期間：梅雨時期（6～7月）
6. 注意報発令の根拠
 - (1) 6月21日の日高地域（御坊市、印南町）における露地スイカの巡回調査では、発病ほ場率が約50%（平成19～平成22：散見される程度）であり、発病株率の平均は印南町が約37%、御坊市が約2%であった（表1）。
 - (2) 6月15日の那賀地域（紀の川市）における巡回調査では発病がみられなかった（表1）が、6月下旬には発病が散見されはじめた。
7. 防除上の注意事項
 - (1) 本病の発病茎葉や果実などは速やかに取り除き、ほ場の外に持ち出すとともに、5～7日間隔で薬剤防除を梅雨明けまで続ける。
 - (2) ほ場の排水性を改善するとともに、降雨の跳ね上がり防止に努める。
 - (3) 未発生ほ場においても早急に予防散布を行う。
 - (4) 農薬については、最新の登録情報（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.html 農林水産消費安全技術センターHP農薬登録情報検索システム）を参照し、適正に使用する。

表1 スイカ炭そ病の発病状況

調査地点	調査日	発病ほ場率(%)	発病株率(%)
印南町	6月21日	50	37
御坊市	6月21日	50	2
紀の川市	6月15日	0	0

注) 調査園数: 印南町8か所、御坊市4か所、紀の川市8か所

発病株率: 発病ほ場での発病株率の平均

注意報第5号（発表日：平成23年9月15日）

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：カンキツ
3. 発生地域：紀南地域
4. 発生量：多
5. 加害期間：9月中旬～
6. 注意報発令の根拠：
 - (1) 病害虫防除所みなべ駐在（みなべ町東本庄）に設置された予察灯でのチャバネアオカメムシの誘殺数は8月4半旬に193頭（前年243頭）であったが、8月5半旬に320頭（前年200頭）、8月6半旬に437頭（前年147頭）、9月1半旬に329頭（前年286頭）と多く、さらに台風12号接近後の9月2半旬に2140頭（前年242頭）と急増している（表1）。
 - (2) 病害虫防除所みなべ駐在（みなべ町東本庄）に設置された予察灯でのツヤアオカメムシの誘殺数は、8月4半旬に128頭（前年96頭）、8月5半旬に96頭（前年46頭）、8月6半旬に108頭（前年25頭）、9月1半旬に82頭（前年35頭）と多く、さらに台風12号接近後の9月2半旬に218頭（前年27頭）と急増している（表1）。
7. 防除上の注意事項
 - (1) 果樹カメムシ類の飛来量は地域やほ場により大きく異なる。このため、園内外を注意深く見回るとともに、各地域での発生状況に関する情報を収集しながら対応する。
 - (2) 山林隣接園や収穫の早い極早生温州で集中して加害される傾向があるので特に注意が必要である。
 - (3) 日没後に飛来して夜間に加害するため、夜間に観察して状況把握に努める。
 - (4) 薬剤防除は発生に応じて早めに行う。農薬の使用にあたっては、最新の登録情報（農林水産消費安全技術センターホームページ農薬登録情報提供システム：<http://acsearch.acis.famic.go.jp/famic/>）を参照し、使用基準を遵守する。

表1 みなべ町東本庄の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数(2011年)

誘殺日	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31
チャバネ	30	29	35	80	19	31	73	48	141	27	82	35	106	99	49	66
ツヤアオ	27	29	28	30	14	18	19	13	28	18	20	11	22	13	23	19
半旬	8月4半旬					8月5半旬					8月6半旬					
チャバネ	193					320					437					
ツヤアオ	128					96					108					

誘殺日	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11
チャバネ	69	0	3	167	90	10	75	593	623	839	300
ツヤアオ	14	0	1	60	7	2	6	53	68	89	25
半旬	9月1半旬					9月2半旬					
チャバネ	329					2140					
ツヤアオ	82					218					

注)チャバネ:チャバネアオカメムシ ツヤアオ:ツヤアオカメムシ

3. 防除技術情報の内容

防除技術情報第1号（発表日：平成23年7月15日）

1. 対象作物：カンキツ（甘夏、ネーブル、伊予柑等の罹病性品種）
2. 病害虫：かいよう病
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 発生期間：葉（発芽直後～10月） 果実（幼果～10月）
6. 発生状況
 - (1) カンキツかいよう病については、本年6月27日付けで病害虫発生予察注意報（第3号）を発表したところであるが、その後も以下のとおり多発傾向が継続している。
 - (2) 病害虫発生予察ほ場（無防除）における越冬病斑量は発病葉率が15.1%（平成17.1%）と平年並であったが、6月中旬の新葉の発病葉率は41.0%（平成18.0%）と平年より高かった（表1）。
 - (3) 7月12～13日の紀南～紀北地域における葉の発病園率は30%（平成30%）と平年並であったが、6月の調査時（23%）よりやや増加している。また、発病が確認された圃場で、本病により落葉が発生している樹がみられた。
7. 防除上の注意事項
 - (1) 1996～2010年における各年の7月の葉の発病園率と8月の発病果率には正の相関が認められ（図1）、今後の果実発病の増加が心配される。現在、小笠原近海に発生している台風6号が本県に接近した場合、強風雨等の気象条件により被害がさらに拡大するおそれがある。
 - (2) 本病の病原細菌は強風により生じた傷口から組織内に入って発病するため、台風接近前に銅水和剤の予防散布をすることが重要である。散布時には銅による葉害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤200倍を加用する（表2）。
 - (3) 防風垣や防風ネット等を設置し、防風対策に努める。
 - (4) 春葉及び夏秋梢の病斑は果実への伝染源となるとともに、越冬すると翌春の強力な伝染源にもなるので剪除に努める。
 - (5) 樹冠拡大を図っている幼木、高接樹等では特に本病の防除を徹底する。夏秋梢で発病がみられた場合は、罹病部位を芽欠き・摘心して新梢発芽を促す。

表1 予察ほ場(無防除)のネーブルにおけるかいよう病の越冬病斑量と発病葉率の推移

年	越冬病斑量(%)	発病葉率(%)
2001	12.0	14.0
2002	5.0	5.0
2003	10.3	22.3
2004	26.3	35.0
2005	32.8	28.9
2006	39.8	25.0
2007	8.1	27.0
2008	22.8	6.0
2009	6.5	1.5
2010	6.9	15.0
2011	15.1	41.0
平年(2001~2010)	17.1	18.0

※越冬病斑量は3月中旬、発病葉率は6月中旬に調査

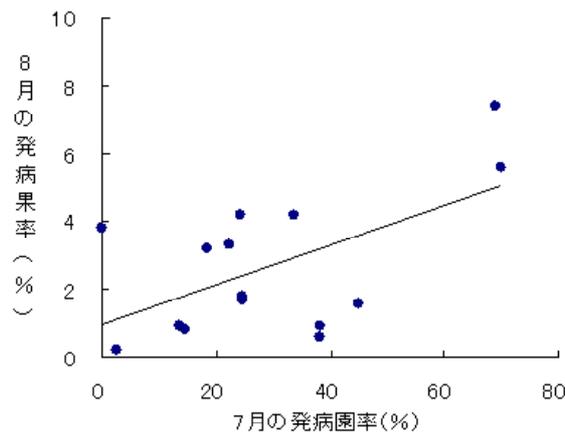


図1 カンキツかいよう病における7月の葉の発病率と8月の発病果率の関係
* 5%水準で有意性あり

表2 カンキツかいよう病に登録のある主要な薬剤(2011年7月14日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
コサイドボルドー	2000倍	-	-
コサイドDF	2000倍	-	-
コサイド3000	2000倍	生育期	-
Zボルドー	500~1000倍	-	-

※散布時には炭酸カルシウム水和剤(クレフノン)200倍加用

防除技術情報第2号（発表日：平成23年9月12日）

1. 対象作物：カンキツ
2. 病害虫：褐色腐敗病
3. 対象地域：台風12号の接近（9月3～4日）に伴う河川氾濫により浸水した地域
4. 発生量：やや多
5. 発生期間：着色期～成熟期（9～11月）
6. 発生状況
 - (1) 9月7～9日に有田川町、有田市、日高川町及び田辺市で実施した調査によると、台風12号の影響で浸水のみられた園におけるウンシュウミカンの発病樹率は3.3～100%であった（表1）。1樹あたりの発病果数は1～5個程度で、多くは地表面に近い部位での発病であるが、樹冠上部まで冠水した樹では、上部の果実でも発病がみられる（図1）。
7. 防除上の注意事項
 - (1) 病原菌は土壌中で生存する。着色期から成熟期にかけて、強風により土壌が巻き上げられて果実に付着したり、河川氾濫等により樹体が冠水すると発病しやすい。
 - (2) 樹体に付着した泥は多量の清浄な水で洗い流す。
 - (3) 園内の風通しを良くし、排水溝の整備に努める。また、着果部位の枝をつり上げて地表面から離す。
 - (4) 園内を注意深く見回り、発病果実を確認したら除去して速やかに薬剤散布を行う（表2）。収穫までの日数が短い極早生品種では薬剤の使用時期に注意する。

表1 褐色腐敗病の発病状況

調査園		発病樹率(%)*
有田川町庄	I	67.7
	II	30.0
有田市山地	I	56.7
	I	30.0
日高川町入野	II	3.3
	III	6.7
	I	100
日高川町玄子	II	100
日高川町松瀬	I	93.3
田辺市中芳養	I	23.3

台風12号の影響で浸水したウンシュウミカン園を調査(9/7~8)

*各園30樹調査し、1個以上の発病果実がみられた樹を記録

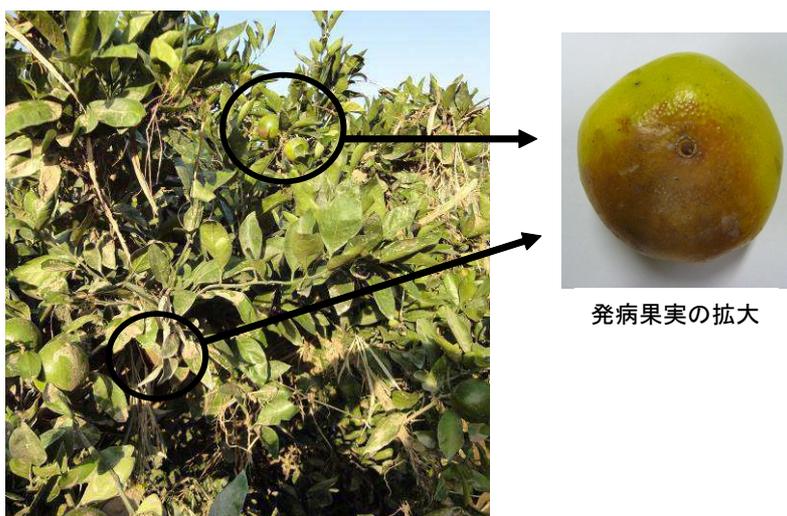


図1 樹冠上部まで浸水した園での発病(日高川町)
※囲みが発病した部位

表2 カンキツ褐色腐敗病に登録のある主要な薬剤(2011年9月12日現在)

薬剤名		希釈倍数	使用時期	使用回数
マンマンフルアブル	かんきつ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
アリエッティ水和剤	かんきつ	400~800倍	収穫前日まで	3回以内
ジマンダイセン水和剤	みかん	400~600倍	収穫30日前まで	4回以内
	かんきつ(みかんを除く)	600倍	収穫90日前まで	4回以内
ベンコゼブ水和剤	みかん	400~600倍	収穫30日前まで	4回以内
	かんきつ(みかんを除く)	600倍	収穫90日前まで	4回以内

4. 発生予報の内容

第1号（4月予報、発表日：平成23年3月31日）

I. 水 稲

1. ヒメビウンカ

（1）予報内容 発生時期 並 発生量 やや多

（2）予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市51.5頭、成虫率8%（平成22年2.7頭、成虫率30%）、紀の川市34.6頭、成虫率35%（平成22年6.2頭、成虫率26%）、かつらぎ町5.8頭、成虫率35%（平成22年1.4頭、成虫率20%）と平成22年に比べやや多かった。

2. ツマグロヨコバイ

（1）予報内容 発生時期 並 発生量 並

（2）予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市0.3頭、成虫率0%（平成22年34.8頭、成虫率35%）、紀の川市0.2頭（平成22年3.6頭、成虫率17%）、かつらぎ町27.5頭、成虫率14%（平成22年6.2頭、成虫率32%）と平成22年並であった。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 灰色かび病

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

- ① 3月4半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平成22年0%）と平成22年並であった。
- ② 4月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

- ① 下位葉に病斑を認めたら早めに薬剤防除を行う。

2. 白色疫病

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

- ① 3月4半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は16%（平成22年16%）と平成22年並であった。
- ② 4月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

- ① 同一のほ場内でも発病に片寄りがみられることがあるので、発生が集中的にみられるところは特にていねいに薬剤散布を行う。

3. べと病

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

- ① 3月4半旬現在、紀北地域での越冬罹病株の発生ほ場率は2.7%（平成22年3.1%）と平成22年並であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 前年度の発生ほ場では4月上旬から薬剤防除を行う。また現在未発生ほ場でも、周辺からの二次伝染が予想されるところでは予防散布を行う。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月2半旬現在、紀中地域の露地栽培での発生ほ場率は15%（平成24%）と平成並であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 雨が多いと多発するので薬剤防除は早めに行う。
- ② 過湿ほ場では発生が多いので、排水対策に努める。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月3半旬現在、紀中地域の露地栽培での発生ほ場率は0%（平成1.8%）と平成並であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生初期から薬剤防除を行う。

<キャベツ>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域では3月4半旬現在、発生を認めていない（平成発生ほ場率3.3%、平成発生密度0.0頭/10株）。
- ② フェロモントラップによる3月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市3頭（平成22頭）、和歌山市6頭（平成23頭）と平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同系統の薬剤は連用しないこと。

<野菜全般>

1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月2半旬現在、紀中地域の施設栽培キュウリでの発生ほ場率は0%（平成2%）と平成並であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設内では湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。また、同一系統の薬剤の連用を避け、耐性菌回避を考慮した薬剤のローテーションに努める（「防除指針」参照）。

2. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域のイチゴでは3月4半旬現在、発生を認めていない（平年発生ほ場率9.2%、平年発生密度0.1頭/10花）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 気温の上昇とともに4月上旬頃から密度が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

- (1) 予報内容 春葉初発日 5月4～5半旬（平年並）
春葉発病量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県予察ほ場（無防除）における春葉の越冬病斑量は平年並で、夏秋梢に越冬病斑がみられた。
 - ② 昨年の巡回調査では、春葉および夏秋梢の発病園率は平年よりやや多かった。
 - ③ 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 罹病性品種や常発園では、罹病枝葉の剪除とともに防風垣の整備に努める。
 - ② 発芽前の銅剤散布ができなかった園では、新梢伸長期に銅水和剤（炭酸カルシウム剤加用）を散布する。
 - ③ 前年多発園では、防除の徹底に努める。

2. そうか病

- (1) 予報内容 発生時期 平年並
発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県予察ほ場における越冬病斑量は平年並で、近年の巡回調査における発病は、一部の常発園等を除くと平年より少なく、一般防除園の越冬病斑量は平年より少ないと考えられる。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 常発園および前年多発園では、越冬病斑の除去、発芽直後の薬剤防除に努める。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県予察ほ場（無防除）における3月中旬の発生は平年並で、慣行防除園における発生は認められなかった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミカンハダニは殺ダニ剤に対する薬剤抵抗性の発達が問題となるため、冬期の95%マシン油乳剤による防除を徹底し、さらに夏期にも97%・98%マシン油乳剤を散布することが望ましい。

<カ キ>

1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、昨年10月の富有の発病葉率は24.4%（平年33.2%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。昨年多発した園では、この時期の防除を徹底する。

② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。

③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらってていねいに散布することが大切である。

<ウ メ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 平成22年は発芽期から生育期にかけての降水量が多かったことから、6月上旬の巡回調査では79%の園地に果実発病が認められ、発病果率6.4%と多発生であった。しかし、秋季の気象条件は平年並であったため、潜伏越冬病斑量は少ないと考えられる。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 強風雨により感染が助長されるため、常発園では防風施設の整備等の防風対策を励行する。

② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ14日おきに数回抗生物質剤を散布する。強風雨直前の散布で、より高い効果が得られる。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 越冬量調査におけるチャバネアオカメムシ成虫の1カ所あたりの越冬虫数は、紀北地域では0頭（平年0.2頭：極端に多かった年を除く）と、平年よりやや少なかった。紀南地域（有田以南）では0頭（平年0.3頭：極端に多かった年を除く）と、平年に比べやや少なかった。

② スギ・ヒノキの球果は昨年に比べ多いと予想されるので、夏以降の果樹園への飛来は少

ないと考えられる。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① カメムシ類の最新の発生状況は、県農林水産総合技術センターのホームページの技術情報の果樹カメムシ情報を参照する。

第2号（5月予報、発表日：平成23年5月2日）

I. 水 稲

1. もみ枯細菌病による苗腐敗症

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 前年の県内全域におけるもみ枯細菌病の本圃での発生面積率は0%（平成7.6%）で、発病した圃場はみられなかった。
- ② 5月の降水量は、平成並または少ない確率ともに40%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病ほ場から採種した種子は使用しない。
- ② 種子は塩水選を行い、銅含有剤（テクリードC剤等）で消毒する。その後の浸種は停滞水で行い、2日間は水を交換しない。
- ③ 浸種から育苗中の温度管理に注意し、30℃を超えないようにする。

2. 褐条病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 平成12年にやや多発したが、その後平成22年まで少発生に推移している。
- ② 5月の降水量は、平成並または少ない確率ともに40%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① もみ枯細菌病による苗腐敗症の項参照

3. ばか苗病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 前年の県内全域におけるばか苗病の本圃での発生面積率は4%（平成6.4%）とやや少なかった。
- ② 種子消毒に用いる薬剤の効果は安定している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 種子消毒を行う。

4. いもち病(苗いもち、葉いもち)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月の降水量は、平成並または少ない確率ともに40%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 種子消毒を徹底する（自家採種では塩水選もあわせて実施する）。
- ② 田植え時に育苗箱処理剤を施用する。

5. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 ヒメトビウンカ やや多 ・ 縞葉枯病(紀北地域) 多

(2) 予報の根拠

- ① 4月中旬の休閑田における20回振り搦り取りによる平均生息数は、紀の川市で12.3頭(平成8.3頭)、和歌山市で13.0頭(平成7.9頭)、かつらぎ町で6.3(平成5.9頭)とやや多かった。
- ② ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市で15.3%(前年17.7%)、かつらぎ町で19.1%(前年11.3%)であった。これらの保毒虫率は、平成3～12年の平均(2.8～3.4%)より高い。
- ③ 平成22年8月の紀北地域の本田におけるイネ縞葉枯病発病株数は、25株あたり0.6株(平成0.04株)と平年に比べて多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。
- ② 田植え時はヒメトビウンカに効果があるアトマイヤー粒剤などを育苗箱施用する。
- ③ 第1世代成虫は6月下旬に水田に飛来し、第2世代幼虫の発生最盛期は7月上旬と考えられることから、前年にイネ縞葉枯病の発生が認められた地域では、幼虫を対象にこの時期の追加防除を行う。
- ④ その他、病害虫発生予察注意報第1号参照のこと。

6. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生時期 やや早 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 4月中旬の休閑田における20回振り搦り取りによる平均生息数は、紀の川市で0.3頭(平成26頭)、和歌山市で36頭(平成68頭)、かつらぎ町で43頭(平成93頭)であった。
- ② 越冬世代の50%成虫化時期は3月5半旬(平成3月6半旬)と平年に比べてやや早かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 前年発生が多かった地域では、田植え時に粒剤を育苗箱施用する。

7. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による4月の誘殺数は4半旬現在、那智勝浦町0頭(平成1.2頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に粒剤を育苗箱施用する。
- ② 5月中旬までに田植えする地域のうち、多発地ではさらに田植え3～4週後に薬剤を処理する。

Ⅱ. 野 菜

<タマネギ>

1. 灰色かび病(白斑葉枯病)

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 4月3半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平成1.1%）であった。
 - ② 5月の降水量は、平成並または少ない確率ともに40%である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生ほ場では早めに防除する。

2. べと病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 4月3半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は19.4%（平成13.8%）であった。
 - ② 5月の降水量は、平成並または少ない確率ともに40%である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① リドミルMZ水和剤は連用すると耐性菌の出現が懸念されるので、1～2回の使用にとどめる。

3. 軟腐病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 4月3半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平成0.7%）であった。
 - ② 5月の降水量は、平成並または少ない確率ともに40%である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 降雨前後を重点に薬剤防除を行う。

<ウリ類>

1. モザイク病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 4月4半旬現在、紀の川市、日高郡美浜町のハウス栽培キュウリにおける発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
 - ② アブラムシ類の発生は並と予想される。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① アブラムシ類の防除を徹底する。

2. 斑点細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 4月4半旬現在、紀の川市、日高郡美浜町のハウス栽培キュウリにおける発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
 - ② 5月の降水量は、平成並または少ない確率ともに40%である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 施設内の換気を良くして湿度低下を図る。
 - ② 薬剤防除は予防散布を重点に行う。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 和歌山市のキャベツでは4月3半旬現在、発生株率はモモアカアブラムシ 21% (平年 21%)、ニセダイコンアブラムシ 0% (平年 3.6%) であった。
 - ② 4月の黄色水盤への飛来数は、4半旬現在 46頭 (平年 76頭) であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤散布にあたっては葉裏に薬液が十分かかるように行なう。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 那賀地域のイチゴでは4月4半旬現在、ナミハダニは、発生ほ場率 0% (平年 30%)、寄生葉率 0% (平年 7.2%) と少なかったが、カンザワハダニは、発生ほ場率 40% (平年 26%)、寄生葉率 4% (平年 5.8%) と平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① スイカでは、早くから寄生するほ場外縁部の株をみて、早期発見に努め初期防除を行う。
 - ② 同一系統の薬剤を連用しない。

3. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 那賀地域のイチゴでは4月4半旬現在、発生ほ場率 40% (平年 35%)、寄生密度は1花あたり 0頭 (平年 0.3頭) であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 発生密度の低いときから薬剤防除を行う。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

- (1) 予報内容 春葉初発日 5月4～5半旬 (平年並)
春葉発病量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県予察ほ場 (無防除) の春葉における越冬病斑の発病葉率は 15.1% (平年 17.1%) と平年並であり、夏秋梢にも越冬病斑がみられた。昨年 10月の巡回調査によると、発病園率は 14% (平年 17%) と平年並であり、夏秋梢での発病もみられた。
 - ② カンキツの発芽期は、「興津早生」(ウンシュウミカン) で4月13日、「清見」で4月14日と、いずれも平年よりやや遅かった。
 - ③ 5月の降水量は、平年並または少ない確率ともに 40%である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 常発園、前年多発園、罹病性品種のある園で発芽前の防除を行っていない場合は、銅水和剤 (炭酸カルシウム剤 200倍加用) の予防散布を徹底する。ただし、新葉における薬

害（葉焼け）に注意する。

- ② 常発園や罹病性品種のある園では、罹病枝葉の剪除と防風垣の整備に努める。

2. そうか病

- (1) 予報内容 発生時期 平年並
発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における越冬病斑の発病葉率は 66.0%（平年 69.8%）と平年並で、近年の発生予察巡回調査における発病は一部の常発園を除くと平年より少なく、一般防除園での越冬病斑量は少ないと思われる。
- ② カンキツの生育は、「興津早生」（ウンシュウミカン）の発芽期が4月 14日と平年よりやや遅かった。
- ③ 5月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病害には発芽直後の防除が高い効果を示すので、常発園や前年多発園では早急に散布する。一般園では満開期に黒点病、灰色かび病を防除する際、そうか病にも登録のある薬剤を用い防除する。
- ② 園内の通風採光をよくし、枝が徒長しない肥培管理に努める。

3. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量（初期感染） 並

(2) 予報の根拠

- ① 近年、園内外に放置された枯枝及び樹冠内の枯枝量はやや多く、伝染源密度はやや高くなっていると思われる。
- ② 5月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹上及び園内外に放置された枯枝を処分する。
- ② 早生温州、極早生温州、ネーブル等は、花卉離脱直後からの初期感染に注意が必要であり、防除を徹底する。

4. 灰色かび病（開花期）

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 連年発生の多い園では、開花期～落弁期の天候に留意し、満開期に防除を行う。

5. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における4月中旬の発生は平年並、マシン油乳剤を散布している慣行防除園における発生は認められなかった。
- ② 5月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 冬期から春期にかけてマシン油乳剤を散布していない園では、夏用マシン油乳剤 200 倍の散布を行なう。ただし、開花期に近いと実害は少ないが奇形花を発生させることがあるので注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生時期 第1世代1令幼虫初発日
5月4半旬(並)
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場(無防除)における越冬完了歩合、寄生量は平年並であった。
② 昨年10月の巡回調査では、発生果率は0.4%(平年0.5%)、発生園率は9.1%(平年7.5%)と平年並であった。
③ 第1世代1令幼虫初発日は、予察式 $Y = 57.03 - 0.109 X$ により求めた。ただし、 $X = 3$ 、4月の最高気温^{※1}(11℃超の各日の気温) - 11℃の積算、 Y は5月1日を起点とした日数であり、 $Y = 18.7$ 日(予測式 Y の平年^{※2} 16.1日、予察ほ場の樹上における実際の初発日の平年は16.0日)であった。

※1：予測式に使用した最高気温は、3月1日～4月19日まで本年の実測値を用い、4月20日～30日は平年値を代用した。

※2：予測式および樹上における初発日の平年は1981年から2010年までの値を使用した。

7. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
(2) 予報の根拠

- ① 黄色粘着トラップでの越冬成虫の誘殺頭数は、場内の県予察ほ場(無防除)では平年並、日高郡由良町ではやや多かった。発生時期は平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① イヌマキやサンゴジュなど防風樹近くでの発生が多い。

<カ キ>

1. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
(2) 予報の根拠

- ① 昨年10月の巡回調査では、「富有」における発病葉率は24.4%(平年34.6%)と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発園では、この時期の防除を徹底する。
② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらっていねいに散布することが大切である。

2. 円星落葉病、角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 円星落葉病 やや多、角斑落葉病 並

(2) 予報根拠

- ① 昨年 10 月の巡回調査では、「富有」における円星落葉病の発病葉率は 7.0 % (平年 1.5 %) と平年よりやや多く、角斑落葉病の発病葉率は 20.8 % (平年 21.8 %) と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 円星落葉病の子のう胞子飛散は、5 月下旬～7 月中旬の降雨後に多くみられるので、マンネブ、マンゼブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 黄色粘着トラップでの誘殺数は平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 落弁期を中心に防除する。
- ② マキやサンゴジュなど防風樹の近くで発生が多い。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① チャバネアオカメムシ成虫の 1 ヲ所あたりの越冬虫数は、県北部では 0 頭 (平年 0.2 頭 : 極端に多かった年を除く)、県南部 (有田以南) では 0 頭 (年 0.3 頭 : 極端に多かった年を除く) と、いずれも平年に比べやや少なかった。

- ② スギ・ヒノキの球果は昨年に比べ多いと予想されるので、夏以降の果樹園への飛来は少ないと考えられる。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ウメ・モモ (主に山間部周辺園) 等では、収穫前の越冬成虫の多飛来に注意する。
- ② カメムシ類の発生状況は、県農林水産総合技術センターのホームページの技術情報の果樹カメムシ情報を参照する。

第 3 号 (6 月予報、発表日 : 平成 23 年 6 月 1 日)

I. 水 稲

1. いもち病 (苗いもち、葉いもち)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 紀南早植え地域の常発地では気象条件に注意し、薬剤防除は早めに行う。
- ② 紀中、紀北の普通期栽培地域では、キヌヒカリ、コシヒカリなどの罹病性品種を作付けする場合は、育苗箱処理剤を施用する。

2. 紋枯病 紀南地域

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 気温が高まると病勢が進展するので常発地では発生に注意する。

3. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

- (1) 予報内容 ヒメトビウンカ 発生量 並
縞葉枯病(紀北地域) 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察灯による5月の誘殺数は4半旬現在、いずれの地域も0頭(平年 紀の川市 0.1頭、上富田町 0.1頭、那智勝浦町 0.1頭)である。
 - ② 本年のヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市で14.7%(前年15.3%)、かつらぎ町で12.7%(前年19.1%)であった。これらは、平成3～12年の平均(2.8～3.4%)より高い。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。
 - ② 田植え時はヒメトビウンカに効果がある育苗箱処理剤を施用する。
 - ③ 第1世代成虫は6月下旬に水田に飛来し、第2世代幼虫の発生最盛期は7月上旬と考えられることから、前年にイネ縞葉枯病の発生が認められた地域では、幼虫を対象にこの時期の追加防除を行う。
 - ④ 平成23年度の病虫害発生予察注意報第1号(4月25日付け果第2076号)を参照する。

4. ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 ツマグロヨコバイ 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察灯による5月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市0頭(平年 0.0頭)、上富田町1頭(平年 0.0頭)、那智勝浦町0頭(平年 0.1頭)であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 前年にツマグロヨコバイの発生が多かった地域では、田植え時に有効な成分を含む育苗箱処理剤を施用する。

5. セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生時期 やや遅 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察灯による5月の誘殺数は4半旬現在、いずれの地域も0頭(平年 紀の川市 0.2頭、上富田町 1.3頭、那智勝浦町 0.9頭、初飛来の平年：5月3半旬)である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 田植え時に有効な成分を含む育苗箱処理剤を施用する。

6. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による5月の誘殺数は4半旬現在、いずれの地域も0頭（いずれの地域も平年0.0頭、初飛来の平年：7月2半旬）である。

7. ニカメイチュウ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による5月の誘殺数は4半旬現在、いずれの地域も0頭（平年紀の川市0.1頭、上富田町0.0頭、那智勝浦町0.0頭）である。

- ② フェロモントラップ（紀の川市）による5月の誘殺数は4半旬現在、0頭（平年0.4頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 前年に発生が認められたほ場では、田植え時に有効な成分を含む育苗箱処理剤を施用する。

8. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による5月の誘殺数は4半旬現在、上富田町で54頭（平年7.2頭）と平年に比べ多かったが、紀の川市は0頭（平年1.1頭）、那智勝浦町は30頭（平年27.2頭）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 有効な成分を含む育苗箱施薬を行っていないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは50株あたり成虫数が12頭を越える場合（5%被害許容）は、直ちに薬剤防除を実施する。

Ⅱ. 野 菜

<ウリ類>

1. モザイク病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培キュウリ、施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける発生ほ場率は5月4半旬現在、いずれも0%（平年0%）と平年並であった。

- ② 紀中地域の施設栽培キュウリおよびトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月4半旬現在、ともに0%（過去3年間の平均0%）であった。

- ③ アブラムシ類の発生は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アブラムシ類の防除を徹底する。

2. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培キュウリにおける発生ほ場率は5月4半旬現在、50%（平年58%）、施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は47%（平年58%）と、ともに平年並であった。
- ② 紀中地域の施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は5月4半旬現在、83%（過去3年間の平均51%）とやや多い傾向であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 薬剤防除は予防散布を重点に、葉裏に十分かかるように行う。

3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培キュウリにおける発生ほ場率は5月4半旬現在、50%（平年50%）と平年並で、施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は33%（平年47%）と、やや低かった。
- ② 紀中地域の施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は5月4半旬現在、92%（過去3年間の平均58%）で多い傾向であった。
- ③ 紀中地域のトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月4半旬現在、0%（過去3年間の平均0%）であった。
- ④ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培やトンネル栽培では通風をよくし、薬剤防除は薬液が葉裏にも付着するようていねいに散布する。

4. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は5月4半旬現在、0%（過去5年間の平均0%）であった。
- ② 紀中地域のトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月4半旬現在、0%（過去3年間の平均0%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤防除は予防散布を重点に、6月上旬頃から定期的に行う。
- ② ほ場の排水を良くし、マルチ、敷わらを行う。

5. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、0%（平年0%）であった。
- ② 紀中地域のトンネル栽培スイカにおける発生ほ場率は5月3半旬現在、0%（過去3年

間の平均0%)であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 梅雨期の降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布は株元中心に行う。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域のトンネル栽培スイカでは5月4半旬現在、ワタアブラムシの発生ほ場率 50% (平年 56%)、1葉あたり寄生虫数 0.2頭 (平年 0.2頭) と平年並であった。

② 黄色水盤(紀の川市)への5月の飛来数は4半旬現在、61頭 (平年 227頭) と平年に比べやや少ない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては葉裏に薬液が十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域のトンネル栽培スイカでは5月4半旬現在、1葉あたり寄生雌成虫数はカンザワハダニ 0.1頭 (平年 0.3頭)、ナミハダニは 0.1頭 (平年 0.4頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては葉裏に薬液が十分かかるように行う。

3. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域のトンネル栽培スイカでは5月4半旬現在、発生ほ場率 43% (平年 48%)、1葉あたり寄生虫数 0.1頭 (平年 0.2頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生の多い場合は4~5日間隔で、2回以上連続散布を行う。

② ハウス栽培は収穫終了後に、蒸し込みを行なう。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 近年、剪定枝の放置園や管理不良園等も多くなっており、枯れ枝量も多く菌密度は高いものと思われる。

② カンキツの開花盛期は、ウンシュウミカン(「興津早生」)で5月15日と平年より約7

- 日遅かった。「清見」は5月18日と約6日遅かった。今後の生育は平年並と予想される。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1回防除(5月下旬)を実施していない園では早急(6月上旬)に薬剤散布を行う。
第2回防除は6月下旬とするが、第1回防除からの累積降水量が250mm程度となった時点で散布する。薬剤はマンゼブ剤またはマンネブ剤とする。
- ② 枯れ枝や剪定枝の処理を徹底する。

2. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① カンキツの開花盛期は、ウンシュウミカン(「興津早生」)で5月15日と平年より約7日遅かった。「清見」は5月18日と約6日遅かった。今後の生育は平年並と予想される。
- ② 県予察ほ場(無防除)における越冬病斑量は平年に比べ少なく、春葉における初発は5月24日(平年:5月23日)と平年並であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種、常発園や春梢発病の認められる園では銅水和剤(炭酸カルシウム剤200倍加用)を散布する。
- ② 罹病性品種や常発園では、罹病枝葉の剪除及び防風施設の整備に努める。
- ③ 今後、強風雨があれば発病が多くなる可能性がある。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場における5月中下旬の発生は、マシン油乳剤散布園においてみられず、無防除園では、雌成虫と若齢幼虫がわずかにみられた。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。マシン油乳剤の散布は発生初期に行なうと高い防除効果が得られる。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期

第1世代1令幼虫最盛期 6月2半旬 (平年6月1半旬)

同 2令幼虫最盛期 6月5～6半旬(平年6月4～5半旬)

同 雌成虫初発日 6月6半旬 (平年6月5半旬)

発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 果樹試験場内の県予察ほ場(無防除)での第1世代1令幼虫の初発は5月24日(平年:5月16日)にみられ、やや遅かった。
- ② 昨年10月の巡回調査では、発生園率は5.9%(平年7.5%)、寄生果率は0.3%(平年0.5

%)と平年並で、雌成虫の越冬量も平年並であると考えられる。

(3) 防除上考すべき諸点

- ① 多発園では、2令幼虫最盛期にマシン油乳剤や有機リン系の殺虫剤を散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場(無防除)における初発時期および発生量は平年並であった。
② 日高郡由良町の現地ほ場に設置した黄色粘着トラップにおける初発時期は平年並で誘殺数はやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 地域での発生消長調査の結果により、適期防除に努める。

6. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場(無防除)、各地域とも発生時期は平年並で、発生量も平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 各園地の発生の状況を把握し、適期防除に努める。

<カ キ>

1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月中旬の巡回調査では、「富有」の発病葉率は0%(平年0.2%)と平年並であった。
② 昨年10月の巡回調査では、「富有」の発病葉率は24.4%(平年値34.6%)と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏を丁寧に散布する。

2. 円星落葉病、角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 円星落葉病 やや多、角斑落葉病 並

(2) 予報根拠

- ① 昨年10月の巡回調査では、「富有」における円星落葉病の発病葉率は7.0%(平年1.5%)と平年よりやや多く、角斑落葉病の発病葉率は20.8%(平年21.8%)と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 円星落葉病の子のう胞子飛散は、5月下旬~7月中旬の降雨後に多くみられるので、この時期に薬剤を定期的に予防散布する。
② 防除は有機銅水和剤、マンゼブ又はマンネブ水和剤とする。

3. カキクダアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月中旬の巡回調査では、越冬虫による被害葉率は「富有」で0.1%（平年0.1%）、「刀根早生」・「平核無」で0%（平年0.1%）と平年並であった。
- ② 黄色粘着板による4月の誘殺数は18頭（平年6.5頭）と平年よりやや多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期は新成虫飛来期の6月上中旬である。

4. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月中旬の巡回調査では、「富有」の寄生花蕾率は1.6%（平年1.7%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本種の防除には孵化幼虫の成育ステージが揃う6月上中旬の薬剤散布が重要である。多発園では散布量を使用基準の範囲内でできるだけ多くして、ていねいに散布する。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 5月中旬の巡回調査では、被害葉率は0.3%（平年1.8%）とやや少なかった。
- ② 4月中旬～5月上旬における感染好適条件（最大風速10m/s以上、かつ降水量5mm以上）をみたす日数は2日（平年1.71日）で平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 降雨前の予防散布に努める。
- ② 防風ネット、防風樹の設置などの耕種的防除に努める。

<果樹全般>

1. カメモシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での本年の越冬量は、0頭（平年0.2頭（極端に越冬量が多かった年を除く））と、平年並であった。
- ② 県南部における越冬箇所率は0%（平年22%）で、少なかった。
- ③ 5月上旬以降、果樹園への飛来および予察灯への誘殺数は平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹園への飛来と被害に注意し、被害がみられる場合には薬剤散布を速やかに行う。
- ② ウメ・モモ・スモモなどの果実被害（主に山間部周辺）に注意が必要である。
- ③ 県農林水産総合技術センターのホームページの果樹カメモシ情報を参照する。

第4号（7月予報、発表日：平成23年7月1日）

1. 水 稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域(田辺市以南)における発病株率は0%(平成0.2%)と平成並であった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 補植用苗は葉いもちの発生源となるので、早急に処分する。
- ② 常発地及びビコシヒカリ、キヌヒカリ等の罹病性品種では発病しやすいので初発時期に注意し、発生が見られたら直ちに薬剤防除する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域(田辺市以南)における発病株率は0%(平成0%)と平成並であった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨明け後の高温期から病勢が急激に進展するので、常発地や前年の多発ほ場では幼穂形成期～穂ばらみ期の防除を徹底する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 紀北地域：やや多、紀南地域：並

(2) 予報の根拠

- ① 本年のヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市で14.7%(前年15.3%)、かつらぎ町で12.7%(前年19.1%)であった。地域の保毒虫率が10%を越えると発病株が多くなるとされている。
- ② 6月3半旬の紀南地域(田辺市以南)における発病株率は0%(平成0%)と平成並であった。
- ③ ヒメトビウンカの7月の発生量は平成並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカの防除を行う。

4. ニカメイガ(紀北地域)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬現在、紀の川市のフェロモントラップでは誘殺されていない(平成0.7頭)。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 7月上旬の被害茎率が6.2%以下なら防除の必要はない。

5. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域での発生は、25株あたり0.3頭（平成0.3頭）と平成並であった。
- ② 予察灯による6月の誘殺数は4半旬現在、上富田町0頭（平成0.6頭）、那智勝浦町0頭（平成0.6頭）、紀の川市5頭（平成2.2頭）と平成並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アドマイヤー箱粒剤等を育苗箱施用した6月田植えのほ場では、7月の防除は特に必要としない。

6. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域での発生は、25株あたり0頭（平成3.0頭）と平成に比べやや少なかった。
- ② 予察灯による6月の誘殺数は4半旬現在、上富田町5頭（平成0.5頭）、那智勝浦町27頭（平成11.9頭）、紀の川市3頭（平成11.8頭）と平成並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカに準ずる。

7. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 やや遅 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域での発生は、25株あたり0.2頭（平成12.6頭）と平成に比べやや少なかった。
- ② 予察灯への初飛来は、紀の川市では6月4半旬（平成6月2半旬）と平成並だった。上富田町、那智勝浦町では6月4半旬現在、飛来を認めていない。（平年初飛来時期：上富田町5月6半旬、那智勝浦町5月6半旬）
- ③ 予察灯による6月の誘殺数は4半旬現在、上富田町0頭（平成165.5頭）、那智勝浦町0頭（平成96.0頭）、紀の川市3頭（平成44.0頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカに準ずる。

8. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域では、発生を認めていない（平成0頭）。
- ② 予察灯による4月から6月4半旬までの誘殺数は、上富田町0頭（平成0.2頭）、那智勝浦町0頭（平成0.2頭）、紀の川市0頭（平成0.3頭）と平成並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカに準ずる。

9. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域では、発生を認めていない（平成25株あたり被害葉数0葉）。

② 6月3半旬現在、紀の川市の蛍光灯誘殺箱への誘殺数は0頭（平成0頭）である。フェロモントラップへの誘殺数も0頭（前年0頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼穂形成期前後の被害は収量に影響するので、今後の予察情報に注意する。

II. 野 菜

<ウリ類>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月3半旬現在、0%（平成0%）であった。

② 日高地域の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月5半旬現在、0%（前年0%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場の排水を良くし冠水や滞水を防ぐ。

2. べと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市のキュウリにおける発生ほ場率は6月3半旬現在、施設栽培で0%（平成50%）で平年に比べ少なく、露地栽培で50%（平成67%）と平成並であった。

② 日高地域の施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は6月5半旬現在、70%（前年58%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では換気を良くし、湿度低下を図る。

② 露地栽培では排水を良くし、薬剤を予防散布する。

3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市のキュウリにおける発生ほ場率は6月3半旬現在、施設栽培で10%（平成38%）、露地栽培で17%（平成50%）とやや低かった。

② 日高地域の施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は6月5半旬現在、70%（前年58%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、他系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

4. つる枯病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀の川市の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月3半旬現在、0%（平年0%）と平年並であった。
 - ② 日高地域の露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月5半旬現在、0%（過去6年間の平均0%）であった。
 - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 降雨にともない株元から茎葉に病勢が進展するので、梅雨期の防除に重点を置く。

<トマト、ナス、ピーマン、シシトウ>

1. 疫病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀の川市の露地栽培ナスおよび露地栽培シシトウにおける発生ほ場率は6月3半旬現在、ともに0%（過去9年間の平均：ナス0%、シシトウ0%）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 梅雨末期の多雨で急激に病勢が進展するため、降雨後は早急に防除する。
 - ② ほ場の排水を良くし、多湿にならないようにする。

2. モザイク病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀の川市の露地栽培シシトウにおける発生ほ場率は6月3半旬現在、0%（過去9年間の平均4.6%）であった。
 - ② 7月のアブラムシ類の発生量は平年並と予想される。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① アブラムシ類の防除を徹底する。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは6月3半旬現在、モモアカアブラムシの寄生葉率4%（平年7%）、ワタアブラムシ5%（平年5%）と平年並であった。
 - ② 紀中地域の露地栽培スイカでは6月3半旬現在、ワタアブラムシの発生は1葉あたり0.1頭（平年0.6頭）と平年に比べやや少なかった。
 - ③ 黄色水盤（紀の川市）への6月の飛来数は4半旬現在、47頭（平年161頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ワタアブラムシ、モモアカアブラムシは、ともに薬剤感受性の低下がみられるので、同一薬剤の連用は避ける。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の施設栽培ナスでは6月3半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率 10 % (平年 25 %)、寄生葉率 1.0 % (平年 6.3 %) と平年に比べやや少なかった。ナミハダニの発生は認めていない (平年発生ほ場率 5.7 %、平年寄生葉率 0.6 %)。

② 紀北地域の露地栽培ナスでは6月3半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率 50 % (平年 45 %)、寄生葉率 16 % (平年 14 %) と平年並であった。

ナミハダニの発生ほ場率 10% (平年発生ほ場率 10 %)、寄生葉率 0.6% (平年 寄生葉率 3.7%) と平年並であった。

③ 紀中地域の露地栽培スイカでは6月3半旬現在、カンザワハダニは1葉あたり 0.1 頭 (平年 0.3 頭)、ナミハダニは1葉あたり 0.2 頭 (平年 0.2 頭) と共に平年並の発生であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性対策として、同一薬剤の連用を避ける。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の施設栽培ナスでは6月3半旬現在、発生ほ場率 40 % (平年 36 %)、寄生葉率 14 % (平年 15 %) と平年並であった。

② 紀北地域の露地栽培ナスでは6月3半旬現在、発生ほ場率 13 % (平年 34 %)、寄生葉率 1 % (平年 11 %) と平年に比べやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生の多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

② 施設栽培では、栽培終了後に7～10日間施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の施設栽培ナスでは6月3半旬現在、ミカンキイロアザミウマの発生は認めていない (平年発生ほ場率 21 %、平年寄生葉率 7.8 %)。

② 紀北地域の露地栽培ナスでは6月3半旬現在、発生ほ場率 13 % (平年 34 %)、寄生葉率 0.6 % (平年 11 %) と平年に比べやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマの項に準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培スイカでは6月3半旬現在、被害果率が 3.2 % (平年 4.1 %) と平年並であった。

② フェロモントラップの6月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市4頭（平年 11.4 頭）、御坊市 92 頭（平年 95.1 頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
- ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉の芯部に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。
- ③ 施設栽培では、栽培終了後に 20 日程度施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における初発は5月 30 日と平年よりやや早く、6月下旬の発病果率は 48.3 % (平年 30.7 %)、発病度は 8.3 (平年 5.5) と、いずれも平年より多かったが、防除区は発病果率 4.1 % (平年 4.0 %)、発病度 0.6 (平年 0.6) と、いずれも平年並であった。
- ② 6月中旬の巡回調査によると、発病果率は 1.7 % (平年 6.8 %) と平年より少なく、果実の発病園率は 28 % (平年 30 %) と平年並であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 枯枝や剪定枝の処理を徹底する。
- ② マンゼブ・マンネブ剤の場合、前回の薬剤散布からの累積降水量が 250mm 程度となった時点で散布する。
- ③ 6月中下旬に散布できなかった園では、ただちに散布する。

2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における6月中旬の春葉の発病葉率は 41.0 % (平年 18.0 %) と平年より多かった。
- ② 6月中旬の巡回調査によると、春葉の発病園率は 23 % (平年 15 %) と平年より多かった。中晩柑の罹病性品種で広く発病がみられ、ウンシュウミカンでも発病がみられた。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病園では無機銅水和剤（炭酸カルシウム剤 200 倍加用）を散布する。強風雨に遭う前の予防散布が重要である。無機銅水和剤は高温時の薬害発生に注意する。
- ② 春葉、夏梢の病斑は果実への伝染源になるので剪除する。
- ③ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における6月中旬の100葉あたり雌成虫数は4.4頭（平年6.4頭）と平年並であった。
- ② 6月中旬の巡回調査によると、発生園率は14%（平年50%）、100葉あたり雌成虫数は32頭（平年68頭）、寄生葉率は6.2%（平年15.5%）と、いずれもやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミカンハダニは高度の薬剤抵抗性系統が出現しやすいので、薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。ただし、高温強日射時の散布は薬害が発生しやすく、7月中旬以降の散布は果実品質を低下させるおそれがあるので、散布は7月上旬までとする。

4. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
発生時期 第2世代1令幼虫初発日 7月6半旬

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における第1世代1令幼虫の初発は5月5半旬（平年5月4半旬）と平年に比べやや遅かった。
- ② 昨年10月の巡回調査では、発生園率は5.9%（平年7.5%）、寄生果率は0.3%（平年0.5%）とほぼ平年並で、雌成虫の越冬量も平年並であると考えられる。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 6月下旬に防除できなかった園では、7月上旬のうちに97%・98%マシン油乳剤の200倍やスプラサイド乳剤40の1,500～2,000倍で防除する。
- ② 未成熟成虫がみられる場合はスプラサイド乳剤40を1,500倍で散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における6月中旬のトラップへの誘殺数は平年と比べやや少なく、果実寄生は確認していない。
- ② 巡回調査によると、各地域とも6月の発生量は少なかった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 地域での発生消長調査の結果により、適期防除に努める。

6. ゴマダラカミキリ

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場、各地域とも成虫の初発の発生時期は平年よりやや遅く、6月中旬の発生量は平年より少なかった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生園では成虫の捕殺に努めるとともに、有機リン系またはネオニコチノイド系の薬剤を散布する。さらに発生の多い園では7月中旬以降にモスピラン水溶剤200倍～400倍

による株元散布を行う。

<カ キ>

1. 炭そ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月の巡回調査では新梢の病斑は認められなかった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 適切な肥培管理と園内の通風・日照の改善、発病枝の剪除などの耕種的防除を行う。
 - ② 薬剤は発育枝にも十分散布する。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月の巡回調査では、発病葉率は「富有」で 0.9 % (平年 4.6%)、「平核無」・「刀根早生」で 0.1 % (平年 0.7 %) と平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に散布する。
 - ② 盛夏期には一時休止するが、好適な気象条件や園地条件によっては発病を繰り返すので、二次伝染の防止に努める。

3. 円星落葉病、角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 円星落葉病 やや多、角斑落葉病 並
- (2) 予報根拠
 - ① 昨年 10 月の巡回調査では、「富有」における円星落葉病の発病葉率は 7.0 % (平年 1.5 %) と平年よりやや多く、角斑落葉病の発病葉率は 20.8 % (平年 21.8 %) と平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹勢の低下が発病を助長するので、肥培管理に努める。
 - ② 円星落葉病の子のう胞子飛散は、7月中旬までの降雨後に多くみられるので、この時期に薬剤を定期的に予防散布する。

4. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月の巡回調査では、寄生果率は「富有」で 3.7 % (平年 9.2 %)、「平核無」・「刀根早生」で 0 % (平年 1.3 %) と平年よりやや少なかった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発育の早晩は平年並と予想されるので、次回の防除適期は8月上・中旬頃 になると予想される。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月の巡回調査では、発病葉率は2.0%（平年5.2%）と平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 防風ネット、防風垣などの耕種的防除に努める。

<果樹全般>

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 紀北地域：やや少、紀南地域：並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域での本年の越冬量は、0頭（平年0.2頭（極端に越冬量が多かった年を除く））と、平年よりやや少なかった。紀南地域（有田含め）でも0頭（平年0.3頭）と、平年よりやや少なかった。
 - ② ヒノキ花粉飛散数比（本年／前年）は7.2であり、カメムシの発生量に対して餌となる球果の量が多くなると考えられるため、果樹園への飛来は少ないと考えられる。
 - ③ うめ研究所（みなべ町東本庄）の5月から6月中旬までの予察灯における越冬成虫および新成虫の誘殺数は、平年並であった。
- (3) 防除上注意すべき諸点
 - ① 最新のカメムシ類発生状況は、県農林水産総合技術センターホームページの果樹カメムシ情報を参照する。
 - ② 発生が多い地域では果樹園への飛来と被害に注意し、被害がみられる場合は、薬剤散布を行う。
 - ③ モモ園では、除袋後の収穫直前に吸汁される可能性があるため、飛来を確認したら早急に薬剤散布を行う。

第5号（8月予報、発表日：平成23年8月1日）

I. 水 稲

1. いもち病

- (1) 予報内容 発生量 紀北・紀中地域：並 紀南地域：やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 7月中旬の紀南地域の早期水稻では、葉いもちの発病株率は18.0%（平年12.4%）に比べ、やや高かった。
 - ② 7月中旬の紀北・紀中地域の普通期水稻では、葉いもちの発病株率は0%（平年5.2%）と平年に比べ低かった。
 - ③ BLASTAMによると、紀中地域（清水）、紀南地域（龍神）のアメダス地点において7月21日～22日に2日間の連続した感染好適日が観測された。
 - ④ 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 穂ばらみ期防除を重点とし、葉いもちの多発ほ場では穂ぞろい期の追加防除を行う。
 - ② 常発地では次年度から罹病性品種の作付を避ける。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の紀南地域の早期水稻では、紋枯病の発病株率は0%（平成4.0%）であった。
- ② 7月中旬の紀北・紀中地域の普通期水稻では、紋枯病の発病株率は0%（平成0.8%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼穂期に発病株率5%以上の場合は、穂ばらみ期に薬剤散布を行う。
- ② 出穂後も上位葉への進展がみられる場合には追加散布を行う。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の定点ほ場における発病株率は紀北地域で0%（平成0.1%）、紀中地域で0.6%（平成0.0%）、紀南地域で0%（平成0.0%）であった。
- ② 7月中旬の臨時調査では、紀北地域の発生株率は0.4%、紀中地域の発病株率は0.8%であった。
- ③ ヒメトビウンカの8月の発生量はやや少ないと予想される。

4. ニカメイガ 第2世代(紀北・紀中地域)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり被害茎数は、紀北地域0（平成0.0）、紀中地域0（平成0.0）であった。
- ② 4月から7月4半旬まで、フェロモントラップ（紀の川市）では誘殺されていない（平成0.4頭）。
- ③ 近年、発生が極めて少ない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1世代幼虫による心枯茎を認めたほ場では、第1世代成虫の予想発蛾最盛期（平成8月3半旬頃）から1週間までの間に防除を行う。

5. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり発生密度は、紀南地域は2.7頭（平成6.3頭）、紀北・紀中地域は3.7頭（平成9.8頭）と平年に比べやや少なかった。
- ② 予察灯による7月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市8頭（平成11.0頭）、上富田町0頭（平成0.9頭）、那智勝浦町0頭（平成1.3頭）である。

6. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり発生密度は、紀南地域は1.2頭(平成8.4頭)、紀北・紀中地域は3.3頭(平成7.9頭)であった。
- ② 予察灯による7月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市1頭(平成3.5頭)、上富田町11頭(平成4.5頭)、那智勝浦町280頭(平成90.5頭)である。

7. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり発生密度は、紀南地域0.7頭(平成54.5頭)、紀北・紀中地域3.3頭(平成87.2頭)と平年に比べ少なかった。
- ② 予察灯による6月から7月4半旬までの誘殺数は、紀の川市35頭(平成236頭)、上富田町0頭(平成339頭)、那智勝浦町2頭(平成339頭)と平年に比べ少い。

8. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり発生密度は、紀南地域0頭(平成0.3頭)、紀北・紀中地域0頭(平成0.4頭)であった。
- ② 予察灯による6月から7月4半旬までの誘殺数は、紀の川市0頭(平成1.6頭)、上富田町0頭(平成0.9頭)、那智勝浦町1頭(平成2.0頭)である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬の発生に注意し、株あたり成幼虫4～5頭の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

9. イチモンジセセリ(イネツトムシ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたりツト数は、紀南地域0(平成0.1)、紀北・紀中地域0(平成0.1)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月上旬の発生に注意し、若齢期の防除に重点を置く。

10. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり上位2葉の被害は、紀南地域は0.2葉(平成8.5葉)、紀北・紀中地域は0葉(平成2.4葉)と平年と比べやや少なかった。
- ② 蛍光灯誘殺箱(紀の川市)による6月から7月4半旬までの誘殺数は、0頭(平成5.0頭)であった。なお、平年の初誘殺期は7月2半旬である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 飛来時期から、第1世代の発蛾最盛期は7月5～6半旬頃と推定される。
- ② 防除適期は、粒剤の場合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤(乳剤、水溶剤、フロ

アブル等) の場合は第 2 世代幼虫発生時期 (第 1 世代の発蛾最盛期の 7 日後) である。

- ③ 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位 2 葉の被害葉率が 40 % になると 10 % 程度減収する。それ以降の被害は被害葉率 80 % 以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、紀南地域の早期水稻では防除の必要性は低い。

11. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7 月中旬の紀南地域の本田では、捕虫網 20 回振りによる捕獲虫数が 9.8 頭 (平年 11.8 頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 出穂の早い作型で、周辺に雑草が繁茂していると被害を受けやすい。
- ② 雑草地のイネ科雑草が発生源となる。本田への成虫の飛来を防ぐためには、出穂 10 日前までには場周辺を除草する。
- ③ 出穂後、本田内でホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシなどの飛来を認めたら、乳熟期 (出穂 10 日後) から糊熟期 (出穂 20 日後) にスミチオン剤、MR. ジョーカー EW などの薬剤を散布する。カスミカメムシ類の発生が多い場合は穂ぞろい期 (出穂 3 日後) にも薬剤散布する (「防除指針」参照)。

II. 野 菜

1. 疫病(トマト、キュウリ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 日高地域の露地栽培ミニトマト、トマトにおける発生ほ場率は 7 月 5 半旬現在、0 % (過去 3 年間の平均 0 %) であった。
- ② 日高地域の露地栽培キュウリにおける発生ほ場率は 7 月 5 半旬現在、0 % (過去 3 年間の平均 0 %) であった。
- ③ 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 排水を良くし、株元に滞水しないようにする。

2. モザイク病(トマト、キュウリ)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 日高地域の露地栽培ミニトマト、トマトにおける発生ほ場率は 7 月 5 半旬現在、0 % (過去 3 年間の平均 0 %) であった。
- ② 日高地域の露地栽培キュウリにおける発生ほ場率は 7 月 5 半旬現在、0 % (過去 3 年間の平均 0 %) であった。
- ③ 8 月のアブラムシ類の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アブラムシ類の防除を徹底する。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率0% (平年3.7%)、寄生葉率0% (平年0.1%)、ワタアブラムシの発生ほ場率13% (平年4.9%)、寄生葉率0.6% (平年0.3%)であった。

② 7月の黄色水盤(紀の川市)への飛来数は、4半旬現在14頭(平年33.0頭)である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同一薬剤の連用を避ける。

4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、ナミハダニは発生ほ場率25% (平年12%)、寄生葉率1.3% (平年1.4%)、カンザワハダニは発生ほ場率25% (平年28%)、寄生葉率9.4% (平年7.1%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性が発達している事例が多い。同一薬剤の連用を避け、タイプの異なる複数の殺ダニ剤を交互散布する。

5. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、発生ほ場率25% (平年25%)、寄生葉率2.5% (平年4.9%)と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ナスでは、選別時に被害果実を認めたら防除を始める。

② 施設では、栽培終了後7～10日間ハウスの蒸し込みを行い、その後残さを処理し、後作の発生源にならないようにする。

6. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、発生ほ場率0% (平年8%)、寄生葉率0% (平年1.7%)と平年に比べやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生の多い場合は4～5日間で2回以上、薬剤を散布する。

② 施設では栽培終了後7～10日間ハウスの蒸し込みを行い、その後残さを処理し、後作の発生源にならないようにする。

7. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは7月5半旬現在、発生ほ場率 13 % (平年 3.5 %)、発生葉率 0.6 % (平年 0.2 %) とやや多かった。
- ② フェロモントラップによる7月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市0頭 (平年 44.4 頭)、和歌山市 130 頭、御坊市 153 頭 (平年 173 頭) である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中・老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢幼虫期 (網目状の被害葉がみられたとき) の防除を心がける。
- ② 抑制エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後 40 ~ 50 日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される。

8. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる7月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市4頭 (平年 10.9 頭)、御坊市 174 頭 (平年 87.5 頭) である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ハスモンヨトウに準ずる。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場 (無防除) における7月中旬の発病度は 22.4 (平年 18.0) と平年よりやや高かったが、防除区の発病度は 0.2 (平年 1.0) と平年よりやや低かった。
- ② 7月中旬の巡回調査における発病果率は、紀中 (有田・日高) は 0.6 % ・ 5.8 % (平年 3.8 % ・ 18.6 %) と、平年に比べやや低かったが、紀南地域 (西牟婁) は 17.2 % (平年 19.0 %) と、平年並であった。
- ③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 後期感染防止のため、8月中下旬の防除を徹底する。
- ② 枯枝や剪定枝の除去を徹底する。
- ③ 7月の累積降水量 (7月26日まで) が、紀中・紀南地域で約 300 ~ 380mm を観測し、前回散布後約 250mm に達した園は速やかに散布する。

2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場 (無防除) における7月中旬の発病葉率は 47.7 % (平年 23.1 %) と平年より高かった。
- ② 7月中旬の巡回調査によると、発病園率は 30 % (平年 30 %) と平年並であったが、6月の調査時 (23 %) と比べてやや増加した。
- ③ 7月19 ~ 20日の台風6号接近により、最大風速で川辺 14.2m/s、南紀白浜 22.9m/s の強

風雨が観測された。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防風対策に努め、台風等で強風雨が予想される場合には、事前に銅水和剤（炭酸カルシウム剤 200 倍加用）を散布する。
- ② 夏秋梢の病斑は、翌春の主要な伝染源になるので剪除および薬剤防除に努める。幼木、高接樹ではミカンハモグリガの防除を徹底する。
- ③ 平成 23 年度発生予察注意報第 3 号及び防除技術情報第 1 号を参照する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における 7 月中旬の発生量は平年より少なかった。
- ② 7 月中旬の巡回調査における発生園率は 30 %（前年 30 %、平年 38 %）で平年並であった。寄生葉率は 11.7 %（前年 4.8 %、平年 9.8 %）、100 葉あたり雌成虫数は 45 頭（前年 11 頭、平年 45 頭）といずれも平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤を年間に 2 回以上使用しないことが重要である。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期 第 2 世代 2 令幼虫最盛期 8 月 4 半月（平年並）
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）での第 1 世代成虫の初発時期はやや遅かった。
- ② 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生園では、8 月中旬に散布むらのないように葉裏までていねいに散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における 7 月中旬の発生量はやや多かった。
- ② 7 月中旬の巡回調査によると、発生園率は 13 %（前年 17 %、平年 16 %）と平年並であった。
- ③ 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 寄生果率が 15 %以上または 100 果あたり 15 頭以上に達すると防除する。
- ② 発生園およびイヌマキやサンゴジュの隣接園では防除を徹底する。

6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 産卵量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）、各地域における初発の時期はやや遅く、発生量は平年並であっ

た。また、7月の成虫の発生量は平年並であった。

② 発生源となる放任園や管理不良園が増加している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 成虫の捕殺に努め、放任園周辺など発生が多い園では株元散布を行う。

<カ キ>

1. 炭そ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 7月中旬の巡回調査園における「富有」の発病果率は0%（平年 0.0 %）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病枝や果実が見られる場合は剪除し、夕立や秋雨が続いたり、台風が通過したときには追加防除を行う。

② 密植園の風通しの悪い場所は発病しやすくなるので、園内の通風・採光をはかり、薬剤をかかりやすくする。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 7月中旬の巡回調査園における「富有」の発病葉率は11.2%（平年 12.1%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらって丁寧に散布する。

② 盛夏期には孢子形成を一時休止するが、8月下旬頃から秋雨前線が停滞すると感染が再開されるので、防除が必要である。

3. 円星落葉病、角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 円星落葉病 やや多 角斑落葉病 並

(2) 予報の根拠

① 7月中旬の巡回調査園においては発病葉は認められなかった。

② 昨年10月の巡回調査園の「富有」における円星落葉病の発病葉率は7.0%（平年 1.5 %）と平年よりやや多く、角斑落葉病の発病葉率は20.8%（平年 21.8 %）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は樹勢が低下すると発病が助長される。

② 角斑落葉病は二次伝染を繰り返すので、多発園では発病後も防除を励行する。

4. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 7月中旬の巡回調査園における「富有」の寄生果率は11.2%（平年 13.3 %）、「平核無」・「刀根早生」の寄生果率は0.9%（平年 2.7 %）と平年並であった。

(3) 防除上注意すべき諸点

- ① 8月上旬が1齢幼虫の発生時期にあたり、防除適期である。
- ② 薬剤が果実に十分かかるよう茎葉の混み合いをなくし、丁寧に散布する。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯における新成虫の誘殺数は、紀南地域では5月上旬以降、紀北地域では6月上旬以降、平年並に推移した。
- ② 7月中旬の巡回調査園におけるカキの被害果は、「富有」・「刀根早生」・「平核無」ともにみられなかった。
- ③ ヒノキ花粉飛散数比（本年／前年）は7.2であり、カメムシの発生量に対して餌となる球果の量が多くなると考えられるため、果樹園への飛来は少ないと考えられる。

(3) 防除上注意すべき諸点

- ① 今後山林隣接のカキ園を中心とした果樹園への飛来に注意し、飛来や被害のみられる場合には、速やかに薬剤散布を行う。
- ② 台風の通過後に一時的に多くなることがあるので注意する。

第6号（9月予報、発表日：平成23年8月31日）

I. 水 稲

1. いもち病(穂いもち)

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 8月上旬の紀北地域における25株あたりの発病株数は、葉いもち1.1株（平年2.5株）、穂いもち0.0株（平年0.0株）とやや少なかった。
- ② 8月上旬の紀中地域における25株あたりの発病株数は、葉いもち0.0株（平年2.3株）、穂いもち0.0株（平年0.0株）と少なかった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① いもち病に感受性の品種（キヌヒカリ等）の作付ほ場では今後の気象推移に注意する。薬剤散布を行う場合は使用基準を遵守すること。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 8月上旬の紀北地域における25株あたりの発病株数は1.1株（平年1.9株）と平年並であった。
- ② 8月上旬の紀中地域における25株あたりの発病株数は0.1株（平年2.0株）とやや少なかった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 上位葉への進展がみられるほ場は、薬剤防除を行う。

- ② 過繁茂ぎみのほ場では発生しやすいので、特に注意する。

3. 白葉枯病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の調査では発生が認められなかった（平年発病株率0%）。
 - ② 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 常発地や台風等で冠水したほ場では発生に注意し、発病を認めたら薬剤防除を行う。

4. トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の25株あたり生息密度は、紀北地域0.2頭（平年0.5頭）、紀中地域0.6頭（平年0.4頭）、紀南地域0.0頭（平年0.6頭）であった。
 - ② 予察灯への8月の飛来数は4半旬現在、紀の川市3頭（平年3.0頭）、上富田町0頭（平年0.8頭）、那智勝浦町9頭（平年16.5頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ほ場内におけるトビイロウンカの分布はバラツキが大きいので、ほ場全体の発生状況を的確に把握する。
 - ② 成・幼虫が5頭以上生息している株を認めたら薬剤防除を実施する。使用基準を遵守すること。
 - ③ 本虫は株元に生息するので、薬剤が株元に十分到達するように散布する。

5. コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の25株あたり被害葉数は、紀北地域0.1葉（平年2.6葉）、紀中地域0.0葉（平年4.4葉）であった。
 - ② 蛍光灯誘殺箱（紀の川市）による8月の成虫誘殺数は8月3半旬現在、1頭（平年11頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 9月以降は被害葉率が高くても減収率は低い。また次世代幼虫の出現がないため、防除の必要はない。

6. イチモンジセセリ(イネツトムシ)

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月上旬の25株あたりツトム数は、紀北地域0.1（平年0.2）、紀中地域0.0（平年0.1）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 8月下旬～9月上旬に蛹化し9月中旬以降に成虫となるため、防除の必要はない。

7. 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシなど)

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 8月上旬の本田での発生は、すくい取り調査(捕虫網 20 回振り)によると、紀北地域は発生ほ場率 88% (過去9年の平均 56%)、平均成虫数 23.1 頭(同 3.3 頭)、紀中地域は発生ほ場率 75% (同 78%)、平均成虫数 4.0 頭(同 8.1 頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 晩生品種(ヒノヒカリなど)の多発ほ場では、乳熟期～糊熟期にMR、ジョーカーEWなどで防除を行なう。使用基準を遵守すること(「防除指針」参照)。

Ⅱ. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の家庭菜園を含む露地栽培トマトおよびミニトマトにおける発生ほ場率は8月4半旬現在、9% (過去5年間の平均発生ほ場率 13%) とやや少なかった。
- ② 紀中地域の家庭菜園を含む露地栽培トマトおよびミニトマトにおける発生ほ場率は8月4半旬現在、21% (過去5年間の平均発生ほ場率 28%) とやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本ウイルス病害の媒介虫であるタバココナジラミの徹底防除に努める。
- ② ハウス栽培では防虫ネット(目合い 0.4mm 以下)で開口部全てを被覆する。
- ③ 感染株は見つけしだい根元から抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋で密封して枯死させる。
- ④ 家庭菜園を含む露地栽培トマトについては、栽培終了後は速やかに全株を引き抜き、野積みにした上に古ビニルなどで2週間以上覆ってコナジラミ類を死滅させる。
- ⑤ 雑草はコナジラミの生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

<野菜全般>

1. アブラムシ類およびウイルス病(露地野菜全般)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月4半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率 0% (平年 9.4%)、寄生葉率 0% (平年 0.7%)、ワタアブラムシの発生ほ場率 13% (平年 13%)、寄生葉率 0.6% (平年 1.5%) であった。
- ② アブラムシ類の黄色水盤(紀の川市)への8月の飛来数は4半旬現在、33 頭(平年 41 頭)と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アブラムシ伝搬性のモザイク病には、アブラムシ類の防除対策としてシルバーマルチを行い、薬剤防除と併用する(「防除指針」参照)。
- ② ハクサイ等の育苗では防虫ネットを被覆して有翅虫の飛来を防ぐ。

2. コナガ（ダイコン、キャベツ、ハクサイ）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる8月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市0頭（平年0.2頭）、和歌山市1頭である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

3. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月4半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率25%（平年28.1%）、寄生葉率4.4%（平年5.4%）、ナミハダニの発生ほ場率0%（平年14.5%）、寄生葉率0%（平年2.7%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

4. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月4半旬現在、発生ほ場率62.5%（平年44%）、寄生葉率12.5%（平年18.5%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また防虫ネットを被覆し、成虫の飛び込みを防ぐ（「防除指針」参照）。

5. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月4半旬現在、発生が認められなかった（平年発生ほ場率8.2%、寄生葉率1.1%）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは8月5半旬現在、発生ほ場率0%（平年18.8%）、寄生葉率0%（平年1.4%）であった。

- ② フェロモントラップによる8月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市46頭（平年141頭）、和歌山市41頭、御坊市169頭（平年293頭）、印南町99頭（過去8年の平均54頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ふ化幼虫の集団が分散するまでの若齢幼虫期に防除するよう心がける。
- ② 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

7. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップによる8月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市 11 頭（平年 15 頭）、御坊市 192 頭（平年 96 頭）、印南町 59 頭（過去8年の平均 99 頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 中・老齢幼虫になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢幼虫対象の初期防除に努める。
 - ② 抑制エンドウでは、は種後 40 ～ 50 日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される（「防除指針」参照）。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

- (1) 予報内容 発病量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県予察ほ場（無防除）における8月中旬の果実発病度は 37.9（平年 35.6）、慣行防除区は 1.4（平年 1.9）と、いずれも平年並であった。
 - ② 8月中旬の巡回調査によると、発病園率は 54 %（平年 61 %）、発病果率は 12.9 %（平年 17.5 %）、果実発病度は 2.5（平年 3.8）と、いずれも平年よりやや低かった。
 - ③ 近年、放任園の増加や剪定枝の放置等により病原菌の密度が産地全域で高いと思われる。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 8月中下旬に防除できなかった園では、9月上旬に早急に防除を行う。
 - ② 枯枝除去や剪定枝の処理を徹底する。
 - ③ 薬剤使用の収穫前日数などの基準を厳守する。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 果実発病量 やや多 発病園数 多
夏秋梢発病量 多
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月中旬の巡回調査によると、果実発病度は 0.5（平年 0.6）と平年並、春葉発病の発病園率は 37 %（平年 26 %）と平年より高かった。
 - ② 発病園では、春葉に加え夏秋梢での発病がみられる。
 - ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 罹病性品種の場合、付傷すると果実発病のおそれがある。台風等で強風雨が予想される場合には、事前に銅水和剤（炭酸カルシウム剤 200 倍加用）を散布する。
 - ② 夏秋梢の病斑は翌春の強力な伝染源となるので剪除に努める。
 - ③ 平成 23 年度発生予察注意報第 3 号及び防除技術情報第 1 号を参照する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）の8月中旬における発生は認められず、慣行防除区発生量は平年に比べ少なかった。
- ② 8月中旬の巡回調査によると、発生園率は55%（前年55%、平年53%）と平年並であった。寄生葉率は19.3%（前年14.4%、平年12.0%）、100葉あたり雌成虫数は57頭（前年44頭、平年26頭）と、いずれも平年に比べ多かった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤は年2回以上使用しない。
- ② ミカンサビダニの発生にも注意し、本虫にも登録のある有効薬剤を選択する。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場（無防除）における発生は、平年並であった。
- ② 8月中旬の巡回調査によると、果実における被害園率は42%（前年42%、平年23%）と平年に比べ多く、100果あたりの寄生虫数は0.1頭（前年0.4頭、平年0.4頭）と平年並であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬以降に有効な殺虫剤を散布していない園および夏秋梢の多い園では、9月の発生に注意する。

<カ キ>

1. 炭そ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 8月中旬の巡回調査における「富有」の発病果率は0.0%（平年0.2%）、「刀根早生」・「平核無」の発病果率は0.0%（平年0.0%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病枝や果実が見られる場合は剪除し、夕立や秋雨が続いたり、台風が通過したときには追加防除を行う。
- ② 密植園の風通しの悪い場所は発病しやすくなるので、園内の通風・採光をはかり、薬剤をかかりやすくする。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 8月中旬の巡回調査における「富有」の発病葉率は12.1%（平年19.3%）、「刀根早生」・「平核無」の発病葉率は0.5%（平年2.5%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらって丁寧に散布する。
- ② 盛夏期には病勢は一時休止するが、秋期になり気温が低下すると再び活発になるので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病、角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 円星落葉病 やや多 角斑落葉病 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月中旬の巡回調査園においては発病葉は認められなかった。
 - ② 昨年秋期の発生から、越冬量は円星落葉病ではやや多く、角斑落葉病では並と考えられる。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本病は樹勢が低下すると発病が助長される。
 - ② 角斑落葉病は二次伝染を繰り返すので、多発園では発病後も防除を励行する。

4. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 8月中旬の巡回調査における「富有」の寄生果率は19.1%（平年16.4%）、「刀根早生」・「平核無」の寄生果率は2.4%（平年2.5%）と平年並であった。
- (3) 防除上注意すべき諸点
 - ① 幼虫は主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように散布する。
 - ② 薬剤が十分かかるように枝葉の混み合いをなくす。

<果樹全般>

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 7月から8月上旬中までの予察灯における果樹カメムシの誘殺数は、果樹試験場（有田川町）およびかき・もも研究所（紀の川市）で平年より少なく、うめ研究所（みなべ町）で平年よりやや多かった。
 - ② 8月中旬の巡回調査によると、カキの被害果率は「富有」・「刀根早生」・「平核無」とともに0%であった。また、カンキツ園への飛来はみられなかった。
 - ③ ヒノキ花粉飛散数比（本年／前年）は7.2であり、カメムシの発生量に対して餌となる球果の量が多くなると考えられるため、果樹園への飛来は少ないと考えられる。
- (3) 防除上注意すべき諸点
 - ① 最新のカメムシ類発生状況は、県農林水産総合技術センターホームページの果樹カメムシ情報を参照する。
 - ② 果樹園への飛来や被害がみられる場合には、速やかに薬剤散布を行う。
 - ③ 台風の通過後に一時的に多くなることがあるので注意する。

第7号（10月予報、発表日：平成23年9月30日）

I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

（1）予報内容 発生量 やや多

（2）予報の根拠

① 紀中地域の施設栽培ミニトマトにおける発生ほ場率は9月6半旬現在、6.3%（過去4年間の平均1.6%）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では防虫ネット（目合い0.4mm以下）で開口部を被覆する。

② タバココナジラミの初期徹底防除に努める。

③ 感染株は見つけしだい根元から抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋で密封して枯死させる。

④ 家庭菜園を含む露地栽培トマトについては、栽培終了後は速やかに全株を引き抜き、野積みにした上を古ビニルなどで覆って2週間以上密封し、タバココナジラミを死滅させる。

⑤ 雑草はタバココナジラミの発生源となるため、ほ場周辺を含め除草を徹底する。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

（1）予報内容 発生程度 並

（2）予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月6半旬現在、0%（過去5年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 抑制栽培では、開花期ごろからの発生に注意する。

② 多湿畑で発生しやすいので、排水に注意する。

③ 種子伝染するので、多発ほ場では採種しない。

2. つる枯細菌病

（1）予報内容 発生程度 並

（2）予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月6半旬現在、0%（過去5年間の平均0%）であった。

② 10月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が酷似するので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットの発病抑制効果は高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

3. うどんこ病

（1）予報内容 発生程度 並

（2）予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウにおける発生ほ場率は9月6半旬現在、0%（過去5年間の平均0%）であった。
- ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 乾燥すると莢形成期以降に発生しやすい。
 - ② 発生初期より防除を行う。

<ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市0頭（平年0.2頭）、和歌山市5頭と平年並である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 抵抗性の発達をできるだけ抑制するために、作用機構が異なる薬剤間でローテーション散布を行う。
 - ② キャベツ、ハクサイでは、収穫後に作物残さを放置するとそこが発生源になり、周囲のほ場に成虫が分散して発生が多くなる。したがって、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率33%（平年19%）、寄生葉率1.7%（平年2.4%）と平年並であった。ワタアブラムシは発生ほ場率11%（平年27%）、寄生葉率0.6%（平年5.0%）と平年に比べやや少なかった。
 - ② 9月の黄色水盤への飛来数は4半旬現在、紀の川市で6頭（平年95頭）と平年に比べやや少ない。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果が高い。
 - ② イチゴなどハウス栽培では定植前後の防除を徹底する。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率22%（平年23%）、寄生葉率3.3%（平年5.5%）と平年並であった。ナミハダニは発生が認められなかった（平年発生ほ場率18%、寄生葉率4.8%）。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① キクに発生したナミハダニが移動するので、キクに近いほ場では特に発生に注意する。

3. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月6半旬現在、発生ほ場率 29 % (平年 28 %)、寄生株率 5.3 % (平年 5.2 %) と平年並であった。
- ② フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市 7 頭 (平年 33 頭)、御坊市 37 頭 (平年 42 頭) と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

4. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月6半旬現在、発生ほ場率 24 % (平年 29 %)、寄生株率 2.9 % (平年 4.3 %) と平年並であった。
- ② フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市 20 頭 (平年 6.2 頭)、御坊市 0 頭 (平年 6.5 頭) と平年並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫期の防除を徹底する。中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下し、生長点付近の芯部や花・果実内に食入するので防除が困難になる。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生ほ場率 22 % (平年 38 %)、寄生葉率 1.1 % (平年 2.8 %) であった。
- ② 紀中地域の露地栽培エンドウでは9月6半旬現在、発生ほ場率 29 % (平年 33 %)、寄生株率 3.5 % (平年 4.3 %) であった。
- ③ フェロモントラップによる9月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市 474 頭 (平年 339 頭)、和歌山市 1460 頭、御坊市 54 頭 (平年 581 頭) である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中齢幼虫期以降になると薬剤防除効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

6. タバココナジラミ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、タバココナジラミの発生ほ場率 22 % (平年 40 %)、寄生葉率 1.7 % (平年 10.9 %) と平年に比べやや少なかった。

7. オンシツコナジラミ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、オンシツコナジラミの発生ほ場率 44 %

(平成 40%)、寄生葉率 5.0% (平成 6.8%) と平成並であった。

8. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生ほ場率 56% (平成 63%)、寄生葉率 10% (平成 30%) と平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。防虫ネットを被覆して成虫の飛び込みを防ぐ(「防除指針」参照)。

9. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域の露地栽培ナスでは9月5半旬現在、発生が認められなかった(平成発生ほ場率 5%、寄生葉率 0.7%)。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県予察ほ場における9月中旬の発生は、無防除園において平成並で、慣行防除園では認められなかった。

② 9月中旬の巡回調査では、寄生葉率は 7.6% (平成 8.2%) と平成並、発生園率は 17% (平成 36%) と平成に比べやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一薬剤を年間に複数回使用しない。

② 秋期のダニ防除が遅れた園では、早急に薬剤散布を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 紀北地域：並 紀南地域：多

(2) 予報の根拠

① 9月中旬のカキの巡回調査における慣行防除園では、「富有」、「刀根早生」、「平核無」とともに被害はみられなかった。

② 8～9月中旬の予察灯における果樹カメムシ類(チャハ^ニ初カメシ、ツアカメシ)の誘殺数は、みなべ町東本庄(防除所みなべ駐在)では平成より多く、有田川町奥(同有田川駐在)および紀の川市粉河(同紀の川駐在)では平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 園内外の果樹カメムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。

- ② 飛来のみられる園では、登録農薬を直ちに散布する。ただし、収穫期の散布となる場合は使用基準に十分注意する。
- ③ 台風通過後一時的に増加する場合がありますので、飛来に注意する。
- ④ カメムシ類の発生状況は、県農林水産総合技術センターのホームページ内各種情報の
果樹カメムシ情報
(URL:<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/yosatukamemusi/kamemusi.htm>) を参照する。

第8号（11月予報、発表日：平成23年11月1日）

I. 野菜・花き

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

- (1) 予報内容 発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀中地域の露地栽培における発生ほ場率は 10 月 5 半旬現在、0 %（平年 9.4 %）であった。
 - ② 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 多湿畑で発生しやすいので、排水に注意する。
 - ② ハウス栽培では、降雨が多い場合は早めにビニル被覆を行う。
 - ③ 薬剤の予防散布に努める。
 - ④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. つる枯細菌病

- (1) 予報内容 発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀中地域の露地栽培における発生ほ場率は 10 月 5 半旬現在、15.0 %（平年 9.0 %）であった。
 - ② 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が酷似するので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。
 - ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
 - ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

3. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀中地域の露地栽培における発生ほ場率は 10 月 5 半旬現在、0 %（過去 7 年間の平均 1.0 %）であった。
 - ② 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ハウス栽培では乾燥すると低温期でも発生しやすい。
- ② 下位葉の表面に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

4. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは 10 月 5 半旬現在、ハダニ類の発生を認めていない。
(カンザワハダニの平年発生ほ場率 10 %、ナミハダニの平年発生ほ場 9 %)
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬液が葉裏に十分かかるように散布する。

<ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

1. 黒斑細菌病(ダイコン・ハクサイ)

- (1) 予報内容 発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域のダイコンにおける発生ほ場率は 10 月 5 半旬現在、0 %であった。
 - ② 紀北地域のハクサイにおける発生ほ場率は 10 月 5 半旬現在、0 % (平年 0.5 %) と平年並の発生であった。
 - ③ 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 常発地では降雨により多発するので予防散布を行う。

2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域のキャベツでは 10 月 4 半旬現在、モモアカアブラムシの発生ほ場率 27 % (平年 17 %)、寄生株率 3.6 % (平年 2.4 %)、ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率 36 % (平年 35 %)、寄生株率 11.8 % (平年 6.2 %) と平年並であった。
 - ② 10 月の黄色水盤への飛来数は 4 半旬現在、42 頭 (平年 71 頭) である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬液が株元の葉裏にかかるようにていねいに散布する。

3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域のキャベツでは 10 月 4 半旬現在、発生ほ場率は 9 % (平年 9 %) と平年並であった。
 - ② 10 月のフェロモントラップ誘殺数は 4 半旬現在、紀の川市 0 頭 (平年 0.8 頭)、和歌山市 68 頭である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、系統の異なる薬剤でローテーション散布を行う。

4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域のキャベツでは 10 月 4 半旬現在、ヨトウガの発生を認めていない。(平年発生ほ場率 13 %、平年寄生株率 1.1 %)
 - ② 10 月のフェロモントラップ誘殺数は 4 半旬現在、紀の川市 4 頭(過去 9 年の平均 4.2 頭)である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生初期の若齢期の防除に努める。

<野菜・花き全般>

1. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは 10 月 5 半旬現在、発生ほ場率 26 % (平年 30 %)、寄生株率 5.8 % (平年 3.8 %) と平年並であった。
 - ② 10 月のフェロモントラップ誘殺数は 4 半旬現在、紀の川市 2 頭(平年 14 頭)、御坊市 11 頭(平年 27 頭)である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 中齢～老齢幼虫は薬剤感受性が低いので、発生初期の若齢期に薬剤散布する。

2. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは 10 月 5 半旬現在、発生ほ場率 11 % (平年 44 %)、寄生株率 4.2 % (平年 7.0 %) であった。
 - ② 紀北地域の露地栽培キャベツでは 10 月 4 半旬現在、発生ほ場率 9 % (平年 43 %)、寄生株率 0.5 % (平年 9.3 %) であった。
 - ③ 10 月のフェロモントラップ誘殺数は 4 半旬現在、紀の川市 464 頭(平年 893 頭)、和歌山市 1344 頭、御坊市 730 頭(平年 1,981 頭)である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 中齢～老齢幼虫は薬剤感受性が低いので、発生初期の若齢期に薬剤散布する。

3. オオタバコガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀中地域の露地栽培エンドウでは 10 月 5 半旬現在、発生ほ場率 16 % (平年 44 %)、寄生株率 1.6 % (平年 7.0 %) であった。
 - ② 10 月のフェロモントラップ誘殺数は 4 半旬現在、紀の川市 13 頭(平年 14 頭)、御坊市 11 頭(平年 84 頭)である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 中齢～老齢幼虫は薬剤感受性が低いので、発生初期の若齢期に薬剤散布する。

Ⅱ. 果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病(緑かび病、青かび病)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 10月中旬の樹上果実における緑かび病の発病園率は、3%（平成21%）と平成に比べ低かった。
- ② 一部で裂果、ヤガ類、ヒヨドリによる被害果がみられるため、腐敗果発生が助長されるおそれがある。
- ③ 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
- ② 果実はいねいに取り扱い、果面に傷をつけない。
- ③ 収穫前散布を励行する。薬剤はトップジンM水和剤 2,000倍、ベンレート水和剤 4,000倍、ペフラン液剤 25 2,000倍のいずれかを散布する。収穫前散布は使用基準に留意する。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 10月中旬の発生園率は6%（平成21%）、寄生葉率は0.6%（平成5.0%）と平成に比べ低かった。
- ② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 収穫前の散布は使用基準に留意する。

3. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 紀北地域：並 紀南地域：やや多

(2) 予報の根拠

- ① 10月中旬のカメムシ類の発生園はみられなかった。
- ② 予察灯の誘殺数は、有田川町奥（防除所有田川駐在）では少なく、紀の川市粉河（同紀の川駐在）は、平成並で、みなべ町東本庄（同みなべ駐在）は平成と比べ多い傾向であった。
- ③ 11月の気象予報による

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 園内外の果樹カメムシ類の発生と果実被害の状況を常に観察する。
- ② 飛来がみられる園では直ちに登録農薬を散布するが、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

5. 病害虫の診断・同定の件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
水稲	病害	0	0	1	13	5	2	0	0
	虫害	0	1	0	5	2	0	0	0
野菜	病害	14	15	22	22	20	11	18	14
	虫害	0	6	2	6	3	0	3	2
花き	病害	2	4	1	4	8	8	6	3
	虫害	1	0	2	0	0	1	0	0
常緑果樹	病害	2	5	2	3	2	6	3	6
	虫害	0	2	2	1	1	1	0	3
落葉果樹	病害	5	8	14	7	2	2	0	0
	虫害	10	12	11	5	3	3	4	1

		12月	1月	2月	3月	合計	備考
水稲	病害	0	0	0	0	21	
	虫害	0	0	0	0	8	
野菜	病害	8	10	9	8	171	
	虫害	0	5	1	1	29	
花き	病害	4	2	1	5	48	
	虫害	0	0	0	0	4	
常緑果樹	病害	1	4	3	6	43	
	虫害	2	0	0	0	12	
落葉果樹	病害	1	3	2	4	48	
	虫害	2	3	2	2	58	

VI. 病害虫の発生経過の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	4～7月	やや多	7月中旬の平均発病株率は18.0% (平年12.4%)とやや多い発生であったが、発病圃率は前年に比べ低かった。	6、7月の降水量が平年に比べやや多かったためと思われる。	常発地での箱施用及び適量施肥。初発時の早期防除。
早期水稲	穂いもち	7～8月	やや少	8月中旬の25株あたりの平均発生穂数は0.0(平年2.1)とやや少ない発生であった。		罹病性品種の作付圃場及び山間地は穂ばらみ期、穂揃い期の防除
早期水稲	紋枯病	5～8月	やや少	8月中旬の平均発病株率は2.0%(平年7.6%)とやや少ない発生であった。		通常は慣行時期の1回防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加散布。
早期水稲	イネミズゾウムシ	5～8月	並	6月中旬の25株あたり平均被害株数は7.5株(平年4.3株)と平年並の発生であった。		育苗箱処理剤の施用
早期水稲	ツマグロヨコバイ	5～8月	やや少	7月中旬の25株あたり平均虫数は1.2頭(平年8.4頭)と平年に比べやや少ない発生であった。		育苗箱処理剤の施用
早期水稲	ヒメトビウンカ	5～8月	並	7月中旬の25株あたり平均虫数は2.7頭(平年6.3頭)と平年並の発生であった。		育苗箱処理剤の施用
早期水稲	セジロウンカ	6～8月	少	7月中旬の25株あたり平均虫数は0.7頭(平年54.5頭)と平年に比べ少ない発生であった。		育苗箱処理剤の施用
早期水稲	トビイロウンカ	6～8月	やや少	8月上旬の25株あたり平均虫数は0.0頭(平年0.6頭)と平年に比べやや少ない発生であった。		セジロウンカに準ずる。
早期水稲	コブノメイガ	6～8月	やや少	7月中旬の25株あたり平均被害葉数は0.2葉(平年8.5葉)と平年に比べやや少ない発生であった。		7月の薬剤防除
早期水稲	斑点米カメムシ類	7～8月	並	予察灯(那智勝浦町、4～8月)での斑点米カメムシ類の誘殺数の合計は534頭(平年205頭)と平年に比べやや多かった。なお、出穂後の20回振り取りでは、1ほ場あたりの平均捕獲数は、9.8頭(平年11.8頭)で平年並だった。		畦畔及び圃場周辺の除草 穂揃期の薬剤散布
普通期水稲	葉いもち	5～8月	やや少	8月上旬の平均発病株率は2.2%(平年9.6%)とやや少ない発生であった。		多発地域では箱施用。適量施肥。初発時の早期防除。
普通期水稲	穂いもち	8～9月	並	9月上旬の25株あたりの平均発生穂数は1.6(平年2.3)と平年並の発生であった。		罹病性品種の作付圃場及び山間地は穂ばらみ期、穂揃い期の防除
普通期水稲	紋枯病	6～9月	やや多	9月上旬の発病株率は19.2%(平年12.4%)とやや多い発生であった。	前年の発病がやや多かったことから感染源がやや多く、梅雨時期以降の降雨量が平年に比べ、やや多かったためと思われる。	通常は慣行時期1回防除
普通期水稲	イネミズゾウムシ	6～9月	やや少	7月中旬の25株あたり平均被害株数は0.0株(平年0.5株)と平年に比べやや少ない発生であった。		育苗箱処理剤の施用
普通期水稲	ニカメイガ	6～10月	並	発生は認められなかった。	近年、少発生傾向が続いている。	1化期:育苗箱処理剤の施用、 2化期:8月の薬剤防除
普通期水稲	ツマグロヨコバイ	6～10月	少	9月上旬の25株あたり平均虫数は0.4頭(平年16.7頭)と平年に比べ少ない発生であった。		育苗箱処理剤の施用。 8月の薬剤防除
普通期水稲	ヒメトビウンカ	6～10月	並	8月上旬の25株あたり平均虫数は26.9頭(平年13.5頭)と平年並の発生であった。		育苗箱処理剤の施用
普通期水稲	セジロウンカ	6～10月	少	8月上旬の25株あたり平均虫数は10.8頭(平年47.5頭、前年109.1頭)と平年に比べ少ない発生であった。		育苗箱処理剤の施用。 8月の薬剤防除
普通期水稲	トビイロウンカ	6～10月	少	9月上旬の25株あたり平均虫数は0.0頭(平年6.4頭、前年1.0頭)と平年に比べ少ない発生であった。 8月上旬の25株あたり平均虫数は0.3頭(平年0.5頭)と平年に比べ少ない発生であった。		セジロウンカに準ずる。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
普通期水稻	コブノメイガ	6～10月	少	9月上旬の25株あたり平均被害葉数は0.0葉(平年7.5葉)と平年に比べ少ない発生であった。 8月上旬の25株あたり平均被害葉数は0.1葉(平年3.2葉)と平年に比べ少ない発生であった。		8月の薬剤防除
普通期水稻	斑点米カメムシ類	8～10月	やや多	出穂後の20回振り揃い取りでは、発生は発生率82%(平年67%)、1ほ場あたりの捕獲数12.5頭(平年5.7頭)と、本田での発生は平年よりやや多かった。		畦畔及び圃場周辺の除草。 穂揃期の薬剤散布。
麦	うどんこ病	3～5月	並	発生は認められなかった。		薬剤防除
麦	赤かび病	3～5月	並	発生は認められなかった。		薬剤防除
パレイシヨ	アブラムシ類	4～6月	並	平年並の発生であった。		
パレイシヨ	ニジュウヤホシテントウ	5～8月	並	平年並の発生であった。		
かんしょ	ハスモンヨトウ	7～10月	並	平年並の発生であった。		
大豆	アブラムシ類	6～10月	並	平年並の発生であった。		
大豆	コガネムシ類	7～9月	並	平年並の発生であった。		
大豆	ハスモンヨトウ	8～11月	並	平年並の発生であった。		
大豆	カメムシ類	7～11月	並	平年並の発生であった。		
トマト(冬春)	疫病	11～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
トマト(冬春)	灰色かび病	12～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除 施設環境の改善
トマト(冬春)	アブラムシ類	12～6月	並	平年並の発生であった。		
トマト(冬春)	ハスモンヨトウ	9～11月	やや少	10月のフェロモントラップ誘殺数は平年に比べてやや少なかった。		薬剤防除
トマト(夏秋)	疫病	7～11月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
トマト(夏秋)	灰色かび病	9～11月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
トマト(夏秋)	モザイク病	6～11月	並	平年並の発生であった。		アブラムシ類防除
トマト(夏秋)	アブラムシ類	7～11月	並	平年並の発生であった。		
トマト(夏秋)	ハスモンヨトウ	8～11月	やや少	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年に比べてやや少なかった。		薬剤防除
ナス(冬春)	うどんこ病	12～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	灰色かび病	12～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	アブラムシ類	10～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	ハダニ類	10～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	ハスモンヨトウ	10～11月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ナス(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	10～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	うどんこ病	7～11月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	アブラムシ類	5～11月	並	紀北地域での8月のモモアカアブラムシの寄生葉率0%(平年0.7%)、フタアブラムシ寄生葉率0.6%(同1.5%)であった。	アザミウマ類等防除による併殺効果	
ナス(夏秋)	ニジュウヤホシテントウ	5～11月	並	平年並の発生であった。		
ナス(夏秋)	ハダニ類	5～11月	並	紀北地域での6月のナミハダニの寄生葉率0.6%(平年3.7%)、カンザワハダニの寄生葉率16%(同14%)と平年並の発生であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	ハスモンヨトウ	5～11月	並	紀北地域での8月の寄生葉率0%(平年1.4%)、9月の寄生葉率1.1%(同2.8%)と平年並の発生であった。		薬剤防除
ナス(夏秋)	ミナミキイロアザミウマ	5～11月	並	紀北地域での7月の寄生葉率2.5%(平年4.9%)、8月の寄生葉率12.5%(同18.5%)と平年並の発生であった。		薬剤防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ピーマン(冬春)	アブラムシ類	10～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ピーマン(冬春)	ハスモントウ	10～11月	やや少	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年に比べてやや少なかった。		薬剤防除
ピーマン(夏秋)	うどんこ病	6～9月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ピーマン(夏秋)	アブラムシ類	4～11月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ピーマン(夏秋)	ハスモントウ	8～11月	やや少	10月のフェロモントラップ誘殺数も平年に比べてやや少なかった。		薬剤防除
ピーマン(夏秋)	ミナキイロアザミウマ	4～11月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	べと病	12～6月	やや多	4月中旬の発生ほ場率は3.1%(平年0%)であった。発生ほ場における発病程度はやや高かった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	うどんこ病	10～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	灰色かび病	10～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	アブラムシ類	10～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キュウリ(冬春)	タネバエ	9～10月	並	平年並の発生であった。		
キュウリ(夏秋)	べと病	7～10月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キュウリ(夏秋)	うどんこ病	7～10月	やや少	やや少ない発生であった。		薬剤防除
キュウリ(夏秋)	灰色かび病	7～10月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キュウリ(夏秋)	アブラムシ類	7～11月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
スイカ	アブラムシ類	3～8月	並	紀中地域での1葉あたり寄生密度は5月0.2頭(平年0.2頭)、6月0.1頭(平年0.6頭)であった。		薬剤防除
スイカ	ハダニ類	3～8月	並	紀中地域での1葉あたり寄生密度は、5月はカンザワハダニ0.1頭(平年0.3頭)、ナミハダニ0.1頭(同0.4頭)、6月はカンザワハダニ0.1頭(同0.3頭)、ナミハダニ0.2頭(同0.2頭)であった。		圃場周辺の除草 薬剤防除
スイカ	ウリハムシ	5～8月	並	平年並の発生であった。		
だいこん(春)	アブラムシ類	4～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
だいこん(春)	アブラムシ類	4～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
だいこん(春)	キスジノミハムシ	4～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
だいこん(秋冬)	アブラムシ類	9～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
だいこん(秋冬)	キスジノミハムシ	9～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
だいこん(秋冬)	ハスモントウ	9～11月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ハクサイ(春)	アブラムシ類	4～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ハクサイ(春)	ヨトウガ	4～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ハクサイ(春)	コナガ	4～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	軟腐病	9～11月	やや少	やや少ない発生であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	白斑病	9～12月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	べと病	10～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	根こぶ病	10～3月	並	平年並の発生であった。		抵抗性品種、石灰質資材の使用。定植時の薬剤土壌混和。
ハクサイ(秋冬)	黒斑病	10～3月	並	平年並の発生であった。		
ハクサイ(秋冬)	モザイク病	9～3月	並	平年並の発生であった。		アブラムシ類防除
ハクサイ(秋冬)	アブラムシ類	9～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ハクサイ(秋冬)	ヨトウガ	9～3月	やや少	平年に比べてやや少ない発生であった		
ハクサイ(秋冬)	ハスモントウ	9～11月	やや少	10月のフェロモントラップ誘殺数は平年に比べてやや少なかった。		薬剤防除
ハクサイ(秋冬)	コナガ	9～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	黒腐病	4～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	菌核病	4～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	アブラムシ類	3～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	モンシロチョウ	3～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	コナガ	12～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(春)	ヨトウガ	4～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	黒腐病	11～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	菌核病	11～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	アブラムシ類	11～3月	並	紀北地域での10月の発生株率はモアアカアブラムシ3.6%(平年2.4%)、ニセダイコンアブラムシ11.8%(同6.2%)と平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	コナガ	11～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
キャベツ(冬)	ヨトウガ	11～3月	やや少	紀北地域での10月の発生圃場率は0%(平年13.0%)と平年に比べてやや少ない発生であった。		
キャベツ(冬)	ハスモントウ	9～11月	少	紀北地域では10月の発生圃場率9%(平年43%)、発生株率0.5%(同9.3%)であった。		薬剤防除
タマネギ	べと病	1～5月	並	4月中旬の発生ほ場率は27.3%(平年15.3%)であったが、発生ほ場における発病程度はやや低かった。	1～2月の気温は平年に比べ低かったが、2～3月にかけて降水量が多く推移したためと思われる。	前年度の発生圃場及び越年罹病株の多い圃場は、予防的に殺菌剤を散布する。
タマネギ	白色疫病	2～4月	並	3月中旬の発生ほ場率は16.1%(平年16.0%)と平年並であった。	1～2月の気温は平年に比べ低かったが、2～3月にかけて降水量が多く推移したためと思われる。	前年度の発生圃場及び越年罹病株の多い圃場は、予防的に殺菌剤を散布する。
タマネギ	さび病	4～5月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
タマネギ	アブラムシ類	3～6月	並	平年並の発生であった。		
タマネギ	ネギアザミウマ	3～6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ネギ(夏)	アブラムシ類	7～9月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ネギ(夏)	ネギハモグリバエ	7～9月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
ネギ(夏)	ネギアザミウマ	7～9月	並	平年並の発生であった。		
ネギ(夏)	ネギコガ	7～9月	並	平年並の発生であった。		
ネギ(秋冬)	アブラムシ類	10～3月	並	平年並の発生であった。		
ネギ(秋冬)	ネギハモグリバエ	10～3月	並	平年並の発生であった。		
ネギ(秋冬)	ネギアザミウマ	10～3月	並	平年並の発生であった。		
ネギ(秋冬)	ネギコガ	10～3月	並	平年並の発生であった。		
ニンジン(春夏)	アブラムシ類	4～7月	並	平年並の発生であった。		
ニンジン(春夏)	ヨトウガ	4～7月	並	平年並の発生であった。		
ニンジン(冬)	ヨトウガ	11～3月	並	平年並の発生であった。		
ニンジン(冬)	ネキリムシ類	11～3月	並	平年並の発生であった。		
レタス(冬)	灰色かび病	10～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
レタス(冬)	菌核病	10～3月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
レタス(冬)	萎黄病	11～3月	並	平年並の発生であった。		防除対象になっていない。
レタス(冬)	アブラムシ類	11～3月	並	平年並の発生であった。		

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
レタス(冬)	ネキリムシ類	11~3月	並	平年並の発生であった。		
レタス(冬)	ハスモンヨトウ	11~3月	並	平年並の発生であった。		
さといも	アブラムシ類	6~11月	並	平年並の発生であった。		
さといも	ハダニ類	6~11月	並	平年並の発生であった。		
さといも	ハスモンヨトウ	6~11月	やや少	10月のフェロモントラップ誘殺数は平年に比べてやや少なかった。		
ほうれんそう	アブラムシ類	7~9月	並	平年並の発生であった。		
ほうれんそう	ヨトウガ	7~9月	並	平年並の発生であった。		
イチゴ	灰色かび病	10~6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
イチゴ	うどんこ病	10~6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
イチゴ	アブラムシ類	9~6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
イチゴ	ハダニ類	9~6月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
イチゴ	ハスモンヨトウ	9~11月	やや少	10月のフェロモントラップ誘殺数は平年に比べてやや少なかった。		薬剤防除
エンドウ(春)	ナモグリバエ	11~5月	並	平年並の発生であった。		
エンドウ(秋冬)	ウラナミシジミ	10~12月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
エンドウ(秋冬)	ナモグリバエ	9~12月	並	平年並の発生であった。		
エンドウ(秋冬)	シロイチモジヨトウ	8~10月	並	紀中地域では、10月の発生圃場率26%(平年30%)、寄生株率5.8%(同3.8%)であった。		防虫ネット被覆
エンドウ(秋冬)	ハスモンヨトウ	9~12月	やや少	10月のフェロモントラップ誘殺数は平年に比べてやや少なかった。		防虫ネット被覆
エンドウ(秋冬)	オオタバコガ	9~12月	並	平年並の発生であった。		
きく	アブラムシ類	7~11月	並	平年並の発生であった。		薬剤防除
カンキツ	そうか病	4~7月	並	予察園の越冬病斑量及び春葉の発病は平年並。巡回調査では、常発園や一部の防除不徹底園で発病がみられた。	展葉期から開花期にかけての降水量は平年に比べ多かったが、薬剤防除が徹底された。	常発園では発芽直後に薬剤防除。その他一般防除園では満開期を中心に予防散布。
カンキツ	黒点病	6~9月	やや多	予察園における初発は5月30日で平年よりやや早かった。巡回調査によると、年間を通じての発病は平年並であったが、幼果期の早い時期の被害と秋期の被害が目立った。	近年、放置された枯れ枝が多いため伝染源密度が高い。5~6月と7、9月に集中的な降雨があったことが影響した。	基幹防除と追加散布を実施。
カンキツ	かいはよう病	5~10月	多	予察園の越冬病斑量は平年並、春葉の初発は5月24日で平年並。春葉及び果実の発病は平年よりやや多く推移、発病園率は多く推移した。	前年の発病がやや多く、菌密度が高まっていたと思われる。発病期間中の台風6号(7月中旬)、12号(9月上旬)、15号(9月下旬)の接近により、強風雨があった。	罹病性品種や常発園において、無機銅剤の予防散布による基幹防除及び罹病箇所の剪除。発生予察注意報第3号(6月24日)を發出して注意喚起。防除技術情報第1号(7月15日)を發出して情報提供。
カンキツ	灰色かび病	5~6月	やや多	県内全域の一般防除園において、発病園率は平年よりやや多かった。	5月下旬に曇雨天が続き、発病に好適な条件となった。	満開期~落弁期に防除が行われ、被害果は摘果処理により除去。
カンキツ	褐色腐敗病	9~11月	やや多	一部の園で9月以降に発病がみられた。	9月上旬に接近した台風12号の影響で浸水した園地を中心に発病した。	発病園では薬剤防除と罹病果の除去を実施。防除技術情報第2号(9月12日)を發出して情報提供。
カンキツ	貯蔵病害	10~3月	並	10月中旬の巡回調査において緑かび病(樹上腐敗)の発病園率は平年より少なかった。中晩柑で軸腐病が発生した。	気象条件と防除の徹底による。	収穫前のベンゾイミダゾール系薬剤、イミノクタジン酢酸塩剤等のいずれかによる防除が行われた。
カンキツ	ヤノネカイガラムシ	5~11月	並	発生時期は、第一世代幼虫の初発がやや遅く、その後の発生もやや遅かった。局部的に多発した園もみられたが発生量は平年並であった。	春季の気象条件による。	発生園ではマシン油乳剤と有機リン剤で防除、一般園は他の害虫にも登録のあるネオニコチノイド系薬剤等を使用。
カンキツ	ミカンハダニ	5~11月	やや少	8月中旬にやや増加した時期もあったが、全体的には低く推移した。一部の中晩柑で晩秋に増加した園もみられた。	5~6月と7、9月に集中的な降雨があったことが影響し、全体的に発生が抑制された。	冬期または春期および6月のマシン油乳剤の散布。秋期に殺ダニ剤で防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カンキツ	チャノキイロ アザミウマ	5～10月	やや多	県内全域の一般防除園において、捕獲個体数は平年並であったものの、被害果率は平年よりやや多かった。	5～6月と7、9月の降雨により薬剤による防除効果が低下した。また夏秋梢の発生が多かったことの影響による。	多発時は専用剤、その他の時期は他の害虫にも登録のある薬剤で防除。多発した地域や園地では、防除面積、回数ともにやや多かった。
カンキツ	ロウムシ類	6～8月	並	近年の一般防除園における発生は、ほとんど認められない。		ロウムシ類を対象とした薬剤防除は実施されていない。
カンキツ	ゴマダラカミ キリ	5～9月	並	発生時期、発生量ともに年間を通して平年並であった。	気象条件と防除状況による。	対象剤による樹冠散布が実施され、産卵防止には株元散布を実施した。
カンキツ	アブラムシ類	5～7月	やや少	春先からユキヤナギアブラムシ、ワタアブラムシの発生がやや少なく、後半の発生もやや少なくて経過した。	5～6月と7、9月に集中的な降雨があったことが影響し、全体的に発生が抑制された。	幼木園、高接更新園および着果不良園を中心に薬剤散布を実施。
カンキツ	カメムシ類	5～11月	やや多	紀南地方では秋季の多発により、一部の極早生温州で被害がみられた。	越冬成虫は少なかったものの、9月の暴風雨の影響による。	園内への飛来や果実寄生を確認した園では合成ピレスロイド剤を中心とした防除を実施。
カンキツ	ミカンハモグリガ	5～10月	やや多	発生時期は平年並で、発生および新梢被害を受けた園は、平年に比べやや多かった。	越冬密度は平年並であったが、新梢発生量が多く、梅雨時期の曇天多雨により夏秋梢の伸長期間も長かった。	幼木園、高接更新園および着果不良園を中心に薬剤散布を実施。
カンキツ	コナカイガラ ムシ類	5～9月	並	発生は平年並で、一般防除園では被害はほとんど認められなかった。	気象条件と防除状況による。	発生園ではマシン油乳剤、有機リン剤、ネオニコチノイド系の薬剤による防除が行われた。
カンキツ	訪花害虫類	5～6月	並	発生は平年並で、一般防除園では被害はほとんど認められなかった。	近年、花粉量の多い中晩柑類の栽培面積が減少傾向にある。また、開花時期と越冬成虫が活動する時期のズレや防除の徹底による。	中晩柑類では、ネオニコチノイド系を含む薬剤防除が実施された。
カンキツ	ナメクジ類	5～8月	やや多	局部的に多発した園がみられた。	5～6月と7、9月に降雨があったことが影響し、発生に好適な条件となった。	専用剤による薬剤防除が実施された。
カンキツ	クワゴマダラ ヒトリ	4～11月	並	越冬幼虫は平年並で常発地域における春期の果樹園への侵入も平年並であったが被害は認められなかった。	園周辺の寄主植物伐採による。	本種を対象とした薬剤防除はされていない。
ウメ	黒星病	4～7月	多	一般防除園での発生園率は24%、発病果率は1.4%で平年に比べ発生が多かった。	3月下旬以降の主要感染期に降雨量が多かったため。	ストロベードライフロアブル、水和硫黄剤、EBI剤等により防除
ウメ	かいはよう病	3～7月	並	一般防除園での発生園率は50%、発病果率1.8%と平年並の発生状況であった。	潜伏越冬病斑は少なかったが、主感染期の4月に降雨がやや多く感染好適条件があったため。	発芽前の無機銅剤と生育期の抗生物質剤により防除
ウメ	灰色かび病	3～4月	並	果実被害は平年並で、ほとんど発生は認められなかった。	気象条件による。	発芽前にストロベードライフロアブル、ヘルコート水和剤により防除
ウメ	すす斑病	5～7月	多	一般防除園での発生園率は94%と多発した。また、完熟収穫する園地だけでなく、青どり収穫する園地でも発生が多かった。	5月下旬から6月中旬にかけて極めて多雨に経過したため。また、春先の低温の影響で収穫時期が1週間程度遅れたため、青梅でも被害が出た。	スコア水和剤、ストロベードライフロアブル等により防除
ウメ	うどんこ病	4～5月	並	発生はほとんどみられず、平年並であった。	気象条件による。	常発園ではストロベードライフロアブルにより防除
ウメ	ウメシロカイ ガラムシ	4～9月	やや少	本年は年間を通して発生時期がやや遅かった。発生園率は26.5%と前年より減少し、寄生枝率も2.5%と前年と同様にやや低く、平年よりやや少ない発生であった。発生量は世代を重ねる毎に減少し、第3世代の発生は極めて少なかった。	春期の低温と生育期の多雨等の気象条件による。	第1世代幼虫発生期にスプライト乳剤等により防除 多発園では、第2、第3世代に追加防除
ウメ	コスカシバ	4～11月	並	ここ数年は発生園率20%前後で推移していたが、本年は平年並の5.9%であった。	産地でのフェロモン剤の設置本数が減少していることが、被害が増加してきた要因と考えられるが、本年は気象条件や防除の徹底により減少したと思われる。	スガシバコンにより防除 多発園では薬剤防除や耕種的防除を併用
ウメ	アブラムシ類	3～7月	並	本年は発芽期の縮葉被害の発生がやや遅く、一部園地で徒長枝の先端のみに被害はみられたものの、全般には発生はほとんどみられず、平年並であった。	春期の低温、生育期の多雨と防除の徹底による。	発芽期にモスピラン水溶性剤等により防除

農作物名	病虫害名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ウメ	ハダニ類	4～7月	並	本年は年間を通して発生時期がやや遅かった。5月の台風までは産地全域でやや多く発生していたが、その後、急激に寄生密度が低下し、少発生で経過した。そのため発生園率は70.6%とやや高かったが、その寄生率率は低くなり、平年並の発生となった。	うめの生育が遅かったため、やや遅い発生であったが、春期は順調に増加していた。台風2号による強風雨により激減し、その後の多雨により、増加することなく経過したため。	薬剤防除は行われなかった。
ウメ	ケムシ類(オビカレハ、マイマイガ、モンクロシャチホコ)	3～9月	やや少	春先から秋期にかけて全般にやや少ない発生であった。	気象条件による。	若齢幼虫の捕殺等により対応
ウメ	アメリカシロヒトリ	6～10月	やや少	本年は年間を通して発生時期がやや遅かった。一部地域で発生し、第1世代、第2世代ともに発生はやや少なく、第3世代はほとんど発生が認められなかった。	春期の低温と生育期の多雨で第1世代の発生量が少なく、第2世代の幼虫期における防除の徹底により減少した。	発生園では、第1世代は若齢幼虫の捕殺、第2世代以降はマフリック水和剤20、スミチオン乳剤等により防除
ウメ	カメムシ類	3～7月	並	6月中旬から日高郡みなべ町における予察灯でツヤアオカメムシの誘殺数がやや増加したが、一般栽培園での被害は認められなかった。	越冬成虫数が平年並であったため。	薬剤防除は行われなかった。
カキ	炭そ病	5～10月	並	平年並の発生であった。一部地域では多発傾向であった。	越冬源の剪除と薬剤防除の効果は高い。一部地域で多発した理由として、5月下旬～7月にかけて多雨であったことと、9月に台風が接近したことが影響したと考えられる。	生育期(5月下旬～8月下旬)に定期的に防除を実施。
カキ	うどんこ病	5～10月	やや少	6月から発生が見られ始め、10月の発生はやや少なかった。	分生子飛散時期の6～7月にかけて降水量が多かったためと思われる。	展葉期(4月下旬)と6、8月に定期的に防除を実施。
カキ	角斑落葉病	9～10月	やや多	9月から発生が見られ始め、10月の発生はやや多かった。	5月下旬～7月中旬の降水量が平年より多かったためと思われる。	主要感染時期の5月下旬～7月上旬に重点的な防除を実施。
カキ	円星落葉病	9～11月	やや多	10月の発病率、発生面積は平年よりやや多かった。	5月下旬～7月中旬の降水量が平年より多かったためと思われる。	主要感染時期の5月下旬～7月上旬に重点的な防除を実施。
カキ	灰色かび病	5～7月	多	「富有」を中心に、果実や花弁、萼片に発病し、落果している園地がみられた。	5月下旬の連続降雨が影響したと思われる。	灰色かび病を対象とした基幹防除は行われていない。花弁に薬剤がかかることが重要であるので、満開期に薬剤防除を実施するよう心掛ける。
カキ	カキノヘタムシガ	5～10月	並	9月の被害果率は平年並であった。富有ではやや多発傾向にある。	防除薬剤の効果は高いが、周辺に放任園があると、被害が多くなる。	幼虫発生期の6月上旬、8月上旬に防除を実施。
カキ	ハマキムシ類	5～10月	やや多	6月から果実への寄生が見られ、10月の被害果率および発生面積は平年よりもやや多かった。	慣行では、ハマキムシ類を対象とした基幹防除が実施されていないので、防除適期を逃したためと思われる。	ハマキムシ類を対象とした基幹防除は行われていない。
カキ	ハスモンヨトウ	7～10月	並	平年並の発生であった。	近年多発傾向であるが、慣行防除と、7月中旬まで多雨で経過したので平年並の発生であったと思われる。	ハスモンヨトウを対象とした基幹防除は行われていない。
カキ	フジコナカイガラムシ	4～10月	並	10月の寄生果率、発生面積は平年並であった。「富有」での被害が多い傾向である。	富有では7月以降ヘタの内側にひそむので、薬剤がかかりにくく、根絶が困難である。	冬期に粗皮削り、第一世代幼虫の孵化時期である6月中旬に防除を重点的に実施。使用薬剤は有機リン剤およびネオニコチノイド系薬剤が主体である。
カキ	コガシラアワフキ	6～7月	並	平年並の発生であった。	慣行防除により、発生は低く抑えられている。	登録農薬がないため、コガシラアワフキを対象とした防除は行われていない。
カキ	カメムシ類	5～10月	やや少	平年よりも発生は少なかった。被害果実は9月までほとんど見られず、10月に一部園地で見られた。	チャバネアオカメムシの越冬量はやや少なく、餌となるスギやヒノキ球果量が前年よりもやや多かったことから、果樹園への飛来時期が遅かったため。	園内でカメムシの飛来が見られれば、すみやかに薬剤散布を実施。
カキ	カンザワハダニ	4～10月	並	被害果実は少なく、平年並の発生であった。	5月下旬～6月の降水量が多かったためと考えられる。	5月に防除を実施。
モモ	せん孔細菌病	3～8月	並	葉、果実ともに発生は平年並であった。	4～5月に強風を伴う降雨日があったため。	秋期と開花前に無機銅水和剤、生育期に抗生物質剤を中心とした薬剤防除を実施。風当たりの強い園では、防風ネットや防風垣による物理的防除を追加して実施。
モモ	黒星病	5～7月	並	有袋栽培により全般に発生は少なく、調査園での発生は認められなかった。	薬剤防除の徹底と袋かけを実施しているため。	袋かけ前2～3回、袋かけ後2回の防除を実施。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
モモ	シンクイムシ類	5～9月	やや少	ナシヒメシンクイによる新梢への寄生は7月から見られ始め、発生量は平年並であった。果実被害はモモノゴマダラノメイガの比率が高く、平年並の発生であった。	薬剤防除の徹底と袋かけを実施しているため。	4月上中旬(落弁期)～収穫前にかけて定期的に防除を実施。
モモ	カメムシ類	5～8月	少	調査園での被害は認められなかった。	チャバネアオカメムシの越冬量はやや少なく、餌となるスギやヒノキ球果量が前年よりもやや多かったことから、果樹園への飛来時期が遅かったため。	被害がみられた園では防除を実施。
モモ	ハダニ類	5～8月	やや多	カンザワハダニなどの発生が5月から見られ、寄生葉率、発生面積は平年よりやや多かった。	近年発生量が多く、越冬量が多いと考えられることと、ハダニ類を対象とした防除を実施していないため。	ハダニ類を対象とした基幹防除は行われていない。

Ⅶ. 水稻病害虫の発生状況調査

1. 水稻の生育概況

初浸漬期にあたる5月中旬の最低気温は平年より低く、催芽に時間を要した。5月下旬から6月上旬にかけて最高気温は低く、日照時間が少なかったため、苗の生育は緩慢で葉齢の進展が平年より遅く、草丈は平年並みで、乾物重が軽くなった。

移植から6月中旬まで、最高気温が平年より低く、日照時間が少なく、初期分けつが抑えられ、茎数は平年より少なくなった。6月下旬から7月中旬にかけて高温・多日照に経過し、分けつが旺盛となったが、最高茎数は「キヌヒカリ」が平年より少なく、他の品種は平年並みとなった。7月中旬から下旬にかけて最高気温が平年より低く、日照時間も少なく経過し、各品種の有効茎歩合は低下した。草丈はすべての品種で概ね平年並みであった。幼穂形成期は概ね平年並みであった。

8月上旬から中旬にかけて高温・多日照で経過し、各品種の出穂期は概ね平年並みから1日早くなった。8月下旬から9月上旬にかけては雨天日が多く降水量は多くなった。そのため、「日本晴」ではもみ枯細菌病が多発した。また、9月2日～3日には台風第12号により「コシヒカリ」は被害度4程度の倒伏が見られた。9月中旬は高温・多日照、その後9月下旬から10月上旬までは低温で経過した。成熟期は「キヌヒカリ」が1日程度遅く、「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」が平年並み、「日本晴」が2日早くなった。稈長は全ての品種で平年並み、穂長はやや長くなった。

収量構成要素については、 m^2 当たり籾数が平年並みとなったものの、1穂籾数は多くなった。「キヌヒカリ」、「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」では m^2 当たり籾数が平年並みとなったが、「日本晴」は平年比89%となった。千粒重は概ね平年並みであった。登熟歩合は「コシヒカリ」が平年比95%で、他の品種は平年並みであった。

a 当たり精玄米重は「キヌヒカリ」58.0kg（平年比101%）、「コシヒカリ」58.1kg（同比104%）、「日本晴」51.4kg（同比90%）、「ヒノヒカリ」56.5kg（同比102%）であった。

表1 水稻生育の推移

品種名	苗質調査		6月30日		7月10日		7月20日			
	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	茎数 (本/ m^2)	平年比 (%)	茎数 (本/ m^2)	平年比 (%)	葉齢 (葉)	平年比 (%)	茎数 (本/ m^2)	平年比 (%)
キヌヒカリ	13.9	3.2	250	89	379	89	11.1	0.4	386	90
コシヒカリ	15.4	3.2	271	94	460	101	11.6	0.1	473	103
日本晴	13.7	3.3	271	93	518	103	11.3	0.4	512	102
ヒノヒカリ	13.4	3.3	302	118	468	103	11.5	0.5	476	106
イクヒカリ	13.8	3.1	297	111	472	99	11.1	0.4	457	96

注) 平年値は過去7年間で最大値と最小値を除いた5年間の数値。きぬむすめは前年比

イクヒカリはH19年度より調査開始

表2 出穂期、成熟期および収量構成要素

品種名		出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	有効茎 歩合 (%)	1穂 粒数 (個)	m ² 当 粒数 (×100粒)
キヌヒカリ	本年	8/8	9/13	84.2	19.1	321	82.9	93.5	300
	平年比	0	1.4	100	108	88	100	117	100
コシヒカリ	本年	8/8	9/13	96.1	20.3	349	73.8	95.8	335
	平年比	-1	-0.4	98	106	91	90	115	104
日本晴	本年	8/17	9/22	83.0	20.8	291	54.6	88.8	246
	平年比	0	-2	101	107	78	78	120	89
ヒノヒカリ	本年	8/22	10/3	88.1	19.8	326.8	68.6	88.3	289
	平年比	0	0	102	105	91	88	104	96
イクヒカリ	本年	8/6	9/11	82.7	20.1	343	72.6	88.8	304

注1) 平年比の単位 出穂期、成熟期：日、その他：%

注2) 出穂期、成熟期の項について、平年比のマイナス(-)は早い、プラス(+)は遅いを表す。

表3 収量および収量構成要素

品種名		全重 (kg/a)	粗粒重 (kg/a)	粗玄 米重 (kg/a)	精玄 米重 (kg/a)	屑米重 (kg/a)	千粒重 (g)	登熟 歩合 (%)
キヌヒカリ	本年	144	73.9	60.8	58.0	2.7	23.4	80.2
	平年比	96	102	102	101	160	104	97
コシヒカリ	本年	153	78.0	62.1	58.1	3.9	23.4	68.9
	平年比	102	108	104	104	121	104	95
日本晴	本年	146	65.7	52.6	51.4	1.2	24.4	81.7
	平年比	91	95	90	90	92	104	97
ヒノヒカリ	本年	177	71.5	58.1	56.5	1.6	22.7	84.2
	平年比	103	127	101	102	87	102	102
イクヒカリ	本年	154	78.0	63.3	60.7	2.6	24.1	78.9

注1) 平年比の単位：%

注2) その他は表1に同じ。

2. 県予察ほ場などにおける定点調査

1) 掘り取りによる害虫の発生状況

(1) 休閑田におけるヨコバイ・ウンカ類の発生推移と齢構成

調査 月日	調査地	調査 圃場数	ツマグロヨコバイ					ヒメトビウンカ				
			平均 虫数	成虫	幼虫			平均 虫数	成虫	幼虫		
					若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢
3.12	紀の川市貴志川町高尾	5	0.2	0	0	1	0	34.6	61	0	28	84
3.15	和歌山市小倉	4	0.3	0	0	0	1	51.5	16	0	43	147
3.15	伊都郡かつらぎ町	4	27.5	15	0	35	60	5.8	8	0	0	15
4.4	紀の川市貴志川町高尾	6	0.2	1	0	0	0	4.8	28	0	0	1
4.6	伊都郡かつらぎ町	3	48.3	145	0	0	0	6.7	20	0	0	0
4.7	和歌山市小倉	3	34.0	102	0	0	0	11.0	33	0	0	0
4.18	和歌山市小倉	3	35.7	107	0	0	0	13.0	39	0	0	0
4.18	伊都郡かつらぎ町	3	42.7	128	0	0	0	6.3	19	0	0	0
4.19	紀の川市貴志川町高尾	3	0.3	1	0	0	0	12.3	37	0	0	0

掘り取り20回振りによる捕獲虫数(頭)

(2) 本田(出穂後)における斑点米カメムシ類の発生状況

調査 月日	調査地	調査 圃場数	平均 虫数	内訳					
				クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	シラホシ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	その他 カメムシ類
7.16	紀南地域	5	9.8	5	5	0	0	4	35
8.8	紀中地域	4	4.0	4	5	0	0	7	0
8.12	伊都、那賀	4	28.3	19	3	18	6	67	0
8.8	和歌山、海草	4	7.8	11	2	1	0	17	0

掘り取り20回振りによる捕獲虫数(頭)

(3) ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率^{a)}

平成23年 ^{b)}				平成22年 ^{c)}			
調査地点	検定虫数 保毒虫率		調査地点	検定虫数 保毒虫率			
	(頭)	(%)		(頭)	(%)		
和歌山市 小倉	197	12.2	和歌山市 小倉	78	10.3		
和歌山市 川永	110	12.7	和歌山市 川永	51	15.7		
和歌山市 平尾・明王寺	120	19.7	和歌山市 平尾 明王寺	105	20.0		
かつらぎ町 窪	110	12.7	かつらぎ町 窪	115	19.1		

a)検定方法:高比重ラテックス凝集反応法

b)調査日:平成23年4月6~13日

c)調査日:平成22年4月5~8日

3. 水稲巡回ほ場調査

調査地域区分

地域 (作型)	郡、市町村	調査筆数
紀北 (普通期)	海草郡：紀美野町福田 伊都郡：かつらぎ町西飯降、かつらぎ町下天野 有田郡：広川町南広川 和歌山市：上黒谷、直川、和佐、桑山、本渡 海南市：別院、次ヶ谷 岩出市：水栖（第2回調査より中迫に変更した） 紀の川市：西三谷、井田、貴志川町丸栖 橋本市：山田、赤塚	17
紀中 (普通期)	日高郡：日高町高家、日高川町和佐、日高川町熊野川、 印南町稲原、みなべ町東本庄 御坊市：野口 田辺市：龍神村甲斐ノ川	7
紀南 (早期)	西牟婁郡：上富田町市ノ瀬、白浜町中、すさみ町立野 東牟婁郡：那智勝浦町中里 新宮市：熊野川町神丸 田辺市：中辺路町川合	6

水稲巡回調査の日程

調査場所	第1回	第2回	第3回
海草郡・和歌山市・海南市・岩出市・紀の川市A	7/15	8/8	9/8
紀の川市B・橋本市・伊都郡	7/14	8/12	9/7
日高郡・有田郡・御坊市・田辺市A	7/13	8/8	—*)
西牟婁郡・東牟婁郡・新宮市・田辺市B	6/15	7/15	8/10

紀の川市A：貴志川町丸栖 紀の川市B：西三谷、井田
田辺市A：龍神村甲斐ノ川 田辺市B：中辺路町川合

* 台風12号による被害のため調査を行わなかった。

1) 圃場における病害虫の発生状況

圃場における 病害の発生状況(第1回)

2011年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
普通(紀北)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		24	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注: 表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

葉いもち(発病度)・紋枯病(発病度)

$$\text{発病度} = \frac{4 \times A + 3 \times B + 2 \times C + D}{4 \times 25(\text{調査株数})} \times 100$$

葉いもち(発病度)

- A: 下葉は枯死し、完全なズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率50%以上)
- B: かなり病斑が見られ、軽いズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率10%程度)
- C: 病斑がかなり見られた株数(病斑面積率2%程度)
- D: 病斑がわずかに見られた株数(病斑面積率0.5%程度)

紋枯病(発病度)

- A: 止葉が枯死の症状を呈した株数
- B: 大部分の病斑が止葉の葉鞘まで達しているが、止葉には生色があった株数
- C: 大部分の病斑が第2葉鞘まで達した株数
- D: 病斑が第3葉鞘まで達した株数

圃場における病害の発生状況(第1回)平年値

(2001~2010年)

作型 (地域)	地域別	葉いもち (株数)	穂いもち (穂数)	紋枯病 (株数)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)
普通(紀北)	山間	2.5	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	1.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		1.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	2.5	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	2.6	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		2.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	1.7	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	1.8	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	1.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		1.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	1.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	1.5	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	0.9	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		1.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

圃場における 害虫の発生状況(第1回)

2011年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	2	0.0	3.0	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	5.0	2.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	4.6	3.9	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		17	4.1	3.5	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	2	4.0	5.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3	0.0	5.7	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		7	1.3	4.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	4	0.3	1.5	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	5	4.6	3.6	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	15	3.7	4.3	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		24	3.3	3.7	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
早期(紀南)	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	0.0	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	7.5	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
県計	山間	6	0.2	1.3	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	7	3.3	2.6	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	1.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
県計	平坦	17	3.2	3.8	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		30	2.6	3.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第1回)平年値

(2001~2010年)

作型 (地域)	地域別	ツマグロヨコバイ (虫数)	ヒメトビウンカ (虫数)	セジロウンカ (虫数)	トビイロウンカ (虫数)	ニカメイガ (被害茎数)	コブノメイガ (被害葉数)	イネツトムシ (つと数)	イネミズゾウムシ (被害株数)	イネゾウムシ (被害株数)	斑点米カメムシ (虫数)	フタオビコヤガ (虫数)	イネヨトウ (虫数)	アワヨトウ (虫数)	ハモグリバエ (被害株数)	イネシンガレセンチュウ (被害茎数)	イナゴ (虫数)
普通(紀北)	山間	8.3	7.6	55.0	0.0	0.0	0.6	0.4	2.0	0.9	0.0	1.3	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0
普通(紀北)	中山間	12.3	12.8	96.8	0.2	0.0	1.6	0.2	0.1	0.1	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
普通(紀北)	平坦	5.8	10.4	80.6	0.4	0.0	1.0	0.0	0.3	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
普通(紀北)		7.7	10.7	79.8	0.3	0.0	1.1	0.1	0.5	0.3	0.0	0.6	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
普通(紀中)	山間	2.7	6.5	123.8	0.0	0.0	2.7	0.0	2.0	2.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3
普通(紀中)	中山間	19.8	16.8	160.9	1.8	0.0	2.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.1
普通(紀中)	平坦	5.0	3.8	70.5	1.0	0.0	7.1	0.0	0.1	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0
普通(紀中)		8.2	7.7	103.5	0.8	0.0	5.5	0.1	0.6	1.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.1
普通期	山間	5.6	6.8	86.8	0.0	0.0	1.6	0.2	2.1	1.7	0.0	0.8	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
普通期	中山間	14.6	13.9	113.1	0.6	0.0	1.7	0.2	0.1	0.2	0.1	0.7	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
普通期	平坦	5.5	8.9	78.7	0.5	0.0	2.8	0.0	0.3	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
普通期		7.9	9.8	87.2	0.4	0.0	2.4	0.1	0.5	0.6	0.0	0.5	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1
早期(紀南)	山間	1.3	0.4	13.4	0.0	0.0	0.0	0.1	5.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	0.6	0.1	9.4	0.0	0.0	0.0	0.2	6.3	2.8	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.6
早期(紀南)	平坦	4.7	0.3	13.9	0.0	0.0	0.0	0.1	2.1	1.5	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
早期(紀南)		3.0	0.3	12.6	0.0	0.0	0.0	0.1	4.3	2.5	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2
県計	山間	4.1	4.7	63.2	0.0	0.0	1.1	0.2	3.1	2.3	0.0	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
県計	中山間	11.1	10.3	85.3	0.5	0.0	1.2	0.2	1.8	0.9	0.1	0.5	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3
県計	平坦	5.5	7.4	66.5	0.4	0.0	2.2	0.1	0.6	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
県計		6.8	7.7	70.2	0.3	0.0	1.9	0.1	1.3	1.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1

圃場における病害の発生状況(第2回)

2011年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縮葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
普通(紀北)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	1.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.5	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		17	1.0	1.1	0.0	0.0	0.0	1.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	15	1.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		24	0.7	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	12.5	17.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	2	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	4.5	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	6	4.2	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	17	1.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		30	1.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.6	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第2回) 平年値

(2001~2010年)

作型 (地域)	地域別	葉いもち (株数)	穂いもち (穂数)	紋枯病 (株数)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)
普通(紀北)	山間	5.7	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
普通(紀北)	中山間	1.7	0.0	1.4	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
普通(紀北)	平坦	2.2	0.0	2.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
普通(紀北)		2.5	0.0	1.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
普通(紀中)	山間	1.5	0.0	1.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
普通(紀中)	中山間	1.0	0.0	3.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
普通(紀中)	平坦	3.6	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
普通(紀中)		2.3	0.0	2.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
普通期	山間	3.7	0.0	0.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
普通期	中山間	1.5	0.0	1.8	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
普通期	平坦	2.5	0.0	2.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
普通期		2.4	0.0	1.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
早期(紀南)	山間	7.1	0.0	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2.7	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
早期(紀南)	平坦	1.1	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		3.1	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	4.8	0.0	0.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
県計	中山間	1.8	0.0	1.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
県計	平坦	2.3	0.0	2.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
県計		2.6	0.0	1.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4

圃場における 害虫の発生状況(第2回)

2011年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	2	1.5	17.5	6.5	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	10.3	18.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	12	2.3	43.4	15.6	0.3	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		17	3.6	35.9	12.2	0.2	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	2	28.5	4.0	9.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3	2.3	13.7	11.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		7	9.1	7.0	7.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	4	0.8	8.8	3.3	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	5	17.6	12.4	5.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	15	2.3	37.5	14.7	0.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		24	5.3	27.5	10.8	0.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	0.0	3.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	2	3.5	5.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	1.2	2.7	0.7	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	6	0.5	5.8	2.2	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	7	12.6	9.7	4.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	17	2.5	33.6	13.1	0.2	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		30	4.4	22.5	8.8	0.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第2回) 平年値

(2001~2010年)

作型 (地域)	地域別	ツマグロヨコバイ (虫数)	ヒメトビウンカ (虫数)	セジロウンカ (虫数)	トビイロウンカ (虫数)	ニカメイガ (被害茎数)	コブノメイガ (被害葉数)	イネツトムシ (つと数)	イネミズゾウムシ (被害株数)	イネゾウムシ (被害株数)	斑点米カメムシ (虫数)	フタオビコヤガ (虫数)	イネヨトウ (虫数)	アワヨトウ (虫数)	ハモグリバエ (被害株数)	イネシンガレセンチュウ (被害茎数)	イナゴ (虫数)
普通(紀北)	山間	7.7	13.7	26.4	0.1	0.0	1.4	0.1	0.9	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
普通(紀北)	中山間	15.0	14.2	22.8	0.5	0.0	0.9	0.0	0.2	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	11.9	17.0	53.4	0.6	0.0	3.3	0.3	0.1	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
普通(紀北)		12.3	15.9	43.6	0.5	0.0	2.6	0.2	0.2	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
普通(紀中)	山間	2.1	2.8	81.5	0.9	0.0	5.9	0.1	0.9	0.0	0.4	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
普通(紀中)	中山間	16.9	10.2	32.0	0.1	0.0	2.6	0.1	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
普通(紀中)	平坦	3.3	9.5	55.8	0.3	0.1	4.5	0.1	0.0	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
普通(紀中)		6.7	7.8	56.0	0.4	0.0	4.4	0.1	0.3	0.0	0.2	0.8	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
普通期	山間	4.9	8.3	50.7	0.5	0.0	3.5	0.1	0.9	0.0	0.2	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
普通期	中山間	15.7	13.0	25.8	0.4	0.0	1.4	0.0	0.2	0.0	0.1	0.8	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
普通期	平坦	9.7	15.1	55.0	0.5	0.0	3.7	0.2	0.1	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
普通期		10.7	13.5	47.5	0.5	0.0	3.2	0.2	0.2	0.0	0.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
早期(紀南)	山間	1.1	6.6	43.8	0.2	0.0	8.2	0.1	0.2	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	1.3	6.5	49.8	0.1	0.0	7.6	0.2	0.8	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
早期(紀南)	平坦	17.9	5.0	64.5	0.4	0.0	10.4	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
早期(紀南)		8.4	6.3	54.5	0.3	0.0	8.6	0.1	0.4	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
県計	山間	3.6	7.7	49.1	0.4	0.0	4.9	0.1	0.7	0.1	0.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
県計	中山間	12.1	11.4	32.5	0.3	0.0	3.2	0.1	0.4	0.1	0.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
県計	平坦	10.8	13.6	55.5	0.5	0.0	4.7	0.2	0.1	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
県計		10.1	12.0	48.6	0.4	0.0	4.4	0.1	0.3	0.0	0.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2

圃場における病害の発生状況(第3回)

2011年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縮葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
普通(紀北)	山間	2	0.0	0.0	12.5	27.5	40.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.7
普通(紀北)	平坦	11	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	4.7	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
普通(紀北)		16	0.0	0.0	1.6	3.5	5.1	4.8	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6
普通(紀中)	山間	0																	
普通(紀中)	中山間	0																	
普通(紀中)	平坦	0																	
普通(紀中)		0																	
普通期	山間	2	0.0	0.0	12.5	27.5	40.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.7
普通期	平坦	11	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	4.7	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
普通期		16	0.0	0.0	1.6	3.5	5.1	4.8	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6
早期(紀南)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	23.0
早期(紀南)	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5
早期(紀南)	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	24.0
早期(紀南)		6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7	17.2
県計	山間	4	0.0	0.0	6.3	13.8	20.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	11.5
県計	中山間	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	3.4
県計	平坦	13	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	4.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	3.8
県計		22	0.0	0.0	1.1	2.5	3.7	3.6	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	5.1

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第3回) 平年値

(2001~2010年)

作型 (地域)	地域別	葉いもち (株数)	穂いもち (穂数)	紋枯病 (株数)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)
普通(紀北)	山間	0.0	10.9	1.7	0.0	0.7	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.3
普通(紀北)	中山間	0.0	1.6	2.7	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	4.5
普通(紀北)	平坦	0.0	1.2	4.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.0	0.0	4.9
普通(紀北)		0.0	2.4	3.5	0.0	0.1	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	4.7
普通(紀中)	山間	0.0	2.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	4.3
普通(紀中)	中山間	0.0	2.5	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2
普通(紀中)	平坦	0.0	1.4	2.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1
普通(紀中)		0.0	2.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	4.5
普通期	山間	0.0	7.0	1.4	0.0	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	4.3
普通期	中山間	0.0	1.9	2.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	4.8
普通期	平坦	0.0	1.3	3.8	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	4.7
普通期		0.0	2.3	3.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	4.7
早期(紀南)	山間	0.0	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
早期(紀南)	中山間	0.0	3.3	1.4	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2
早期(紀南)	平坦	0.0	0.7	1.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	3.8
早期(紀南)		0.0	2.1	1.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	4.2
県計	山間	0.0	6.0	2.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	4.3
県計	中山間	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	4.7
県計	平坦	0.0	1.2	3.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	4.6
県計		0.0	2.2	2.9	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	4.6

圃場における 害虫の発生状況(第3回)

2011年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	2	0.0	2.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	中山間	3	0.3	4.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	11	0.5	14.1	27.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)		16	0.4	10.7	20.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	山間	0																
普通(紀中)	中山間	0																
普通(紀中)	平坦	0																
普通(紀中)		0																
普通期	山間	2	0.0	2.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	中山間	3	0.3	4.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	11	0.5	14.1	27.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期		16	0.4	10.7	20.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	山間	2	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	2	7.5	12.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	平坦	2	0.0	13.5	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)		6	2.5	9.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	4	0.0	1.8	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	中山間	5	3.2	7.2	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	平坦	13	0.5	14.0	24.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計		22	1.0	10.2	16.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第3回)平年値

(2001~2010年)

作型(地域)	地域別	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害茎数)	コブノメイガ(被害葉数)	イネツトムシ(つと数)	イネミズゾウムシ(被害株数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	イネヨトウ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害茎数)	イナゴ(虫数)
普通(紀北)	山間	8.7	7.8	12.0	1.2	0.1	4.7	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
普通(紀北)	中山間	14.2	6.2	7.6	0.8	0.0	9.2	0.0	0.0	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀北)	平坦	24.4	9.4	12.2	0.8	0.0	16.9	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
普通(紀北)		20.2	8.5	11.1	0.8	0.0	14.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
普通(紀中)	山間	8.1	4.1	11.0	67.4	0.0	9.9	0.1	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	中山間	13.4	20.6	15.0	3.1	0.1	24.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)	平坦	6.6	13.2	15.4	1.0	0.2	17.9	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通(紀中)		8.8	12.8	14.0	19.7	0.1	19.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	8.4	6.0	11.8	34.3	0.1	7.2	0.1	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
普通期	中山間	14.1	10.7	10.0	1.5	0.0	14.8	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	平坦	19.4	10.5	12.8	0.8	0.1	18.1	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
普通期		16.7	9.8	12.0	6.4	0.1	15.7	0.1	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
早期(紀南)	山間	4.3	7.2	7.2	0.3	0.2	7.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
早期(紀南)	中山間	0.6	7.3	15.9	1.3	0.0	5.4	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3
早期(紀南)	平坦	14.4	6.4	17.9	0.2	0.1	8.9	0.1	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
早期(紀南)		7.7	7.0	13.2	0.6	0.1	7.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
県計	山間	7.1	6.2	10.3	23.0	0.1	7.4	0.1	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
県計	中山間	10.8	9.9	11.5	1.5	0.0	12.2	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
県計	平坦	18.1	10.1	12.9	0.7	0.1	16.7	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
県計		14.6	9.3	12.0	5.1	0.1	13.9	0.1	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要病害の発生程度別面積(第1回)

2011年

単位: ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病		
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 4737	発生面積	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	少	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
紀中 (普通期) 1533	発生面積	0	—	0	0	219	—	0	0	0	—	—		
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	少	0	—	0	0	219	—	0	0	0	—	—		
普通期計 6270	発生面積	0	—	0	0	219	—	0	0	0	—	—		
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	少	0	—	0	0	219	—	0	0	0	—	—		
紀南 (早期) 1350	発生面積	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	少	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
県計 7620	発生面積	0	—	0	0	219	—	0	0	0	—	—		
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—		
	少	0	—	0	0	219	—	0	0	0	—	—		

発生程度基準:
 葉いもち: 25株あたり病株数、少≤10、10<中≤18、18<多≤23、甚>23
 穂いもち: 25株あたり病穂数、少≤50、50<中≤200、200<多≤350、甚>350
 紋枯病: 25株あたり病株数、少≤10、10<中≤18、18<多≤23、甚>23
 萎縮病: 25株あたり病株数、少≤5、5<中≤10、10<多≤17、甚>17
 縞葉枯病: 25株あたり病株数、少≤5、5<中≤10、10<多≤17、甚>17
 もみ枯細菌病: 25株あたり病株数、少≤3、3<中≤8、8<多≤15、甚>15
 馬鹿苗病: 25株あたり病株数、少≤1、1<中≤3、3<多≤7、甚>7
 ごま葉枯病: 25株あたり病株数、少≤10、10<中≤18、18<多≤23、甚>23
 白葉枯病: 25株あたり病株数、少≤12、12<中≤20、20<多≤25、甚>25
 稲こうじ病: 25株あたり病株数、少≤1、1<中≤3、3<多≤7、甚>7
 内えい褐変病: 25株あたり病株数、少≤5、5<中≤10、10<多≤20、甚>20

主要害虫の発生程度別面積(第1回)

2011年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イネツトムシ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ	フタオビコヤガ	イネヨトウ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ	
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 4737	発生面積	2508	3344	3344	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	3065	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	2508	3344	3344	0	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	3065	
紀中 (普通期) 1533	発生面積	438	876	876	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	438	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	0	
	少	438	876	876	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	438	
普通期計 6270	発生面積	2946	4220	4220	0	0	0	0	0	0	0	498	0	0	0	0	0	3503	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	0	
	少	2946	4220	4220	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	3503	
紀南 (早期) 1350	発生面積	0	225	225	0	0	0	0	1125	1350	0	0	0	0	0	0	225	0	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	0	225	225	0	0	0	0	900	1350	0	0	0	0	0	0	0	225	
県計 7620	発生面積	2946	4445	4445	0	0	0	0	1125	1350	0	498	0	0	0	0	225	3503	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	0	
	少	2946	4445	4445	0	0	0	0	900	1350	0	279	0	0	0	0	0	225	

発生程度基準: ツマグロヨコバイ: 25株あたり虫数、(第1回)少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚>250
 ヒメトビウンカ: 25株あたり虫数、少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚>250
 セジロウンカ: 25株あたり虫数、少≤250、250<中≤1250、1250<多≤2500、甚>2500
 トビイロウンカ: 25株あたり虫数、少≤250、250<中≤1250、1250<多≤2500、甚>2500
 ニカメイガ: 25株あたり被害茎数、少≤7、7<中≤15、15<多≤22、甚>22
 コブノメイガ: 25株あたり被害葉数、少≤20、20<中≤60、60<多≤180、甚>180
 イネツトムシ: 25株あたりつと数、少≤10、10<中≤20、20<多≤40、甚>40
 イネミズゾウムシ: 25株あたり被害葉数、少≤5、5<中≤20、20<多≤40、甚>40
 イネゾウムシ: 25株あたり被害葉数、少≤5、5<中≤20、20<多≤40、甚>40
 フタオビコヤガ: 25株あたり被害茎数、少≤10、10<中≤20、20<多≤40、甚>40
 イネヨトウ: 25株あたり被害葉数、少≤20、20<中≤50、50<多≤80、甚>80
 アワヨトウ: 25株あたり被害葉数、少≤10、10<中≤30、30<多≤100、甚>100
 ハモグリバエ: 25株あたり被害葉数、少≤10、10<中≤20、20<多≤30、甚>30
 シンガレセンチュウ: 25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚>20
 イナゴ: 25株あたり虫数、少≤10、10<中≤30、30<多≤100、甚>100

主要病害の発生程度別面積(第2回)

2011年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 4737	発生面積	1115	0	836	0	557	0	279	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	279	0	279	0	0	0	279	0	0	0	0
	少	836	0	557	0	557	0	0	0	0	0	0
紀中 (普通期) 1533	発生面積	0	0	219	0	219	0	219	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	0	0	219	0	219	0	219	0	0	0	0
普通期計 6270	発生面積	1115	0	1055	0	776	0	498	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	279	0	279	0	0	0	279	0	0	0	0
	少	836	0	776	0	776	0	219	0	0	0	0
紀南 (早期) 1350	発生面積	450	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甚	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県計 7620	発生面積	1565	0	1055	0	776	0	498	0	0	0	0
	甚	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	279	0	279	0	0	0	279	0	0	0	0
	少	1061	0	776	0	776	0	219	0	0	0	0

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第2回)

2011年

単位: ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イネツトムシ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ	フタオビコヤガ	イネヨトウ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ
		紀北 (普通期) 4737	発生面積	2508	4737	4737	836	0	557	279	0	0	0	279	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	多	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	557	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	2508	3901	4737	836	0	557	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3065
紀中 (普通期) 1533	発生面積	876	1095	1095	657	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	438
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	876	1095	1095	657	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	438
普通期計 6270	発生面積	3384	5832	5832	1493	0	557	279	0	0	0	498	0	0	0	0	0	3503
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	多	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	0
	中	0	557	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	3384	4996	5832	1493	0	557	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3503
紀南 (早期) 1350	発生面積	225	675	450	0	0	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	225	675	450	0	0	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県計 7620	発生面積	3609	6507	6282	1493	0	782	279	0	0	0	498	0	0	0	0	0	3503
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0
	多	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	0
	中	0	557	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	3609	5671	6282	1493	0	782	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3503

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第2回)少 \leq 125、125<中 \leq 375、375<多 \leq 750、甚>750
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(第3回)

2011年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 4737	発生面積	—	557	3622	0	0	0	0	0	0	0	557
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	—	279	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	—	279	3344	0	0	0	0	0	0	0	557
紀中 (普通期) 1533	発生面積	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
普通期計 6270	発生面積	—	557	3622	0	0	0	0	0	0	0	557
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	—	279	279	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	—	279	3344	0	0	0	0	0	0	0	557
紀南 (早期) 1350	発生面積	—	0	225	0	0	0	0	0	0	0	1125
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	225
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	225
	中	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	450
	少	—	0	225	0	0	0	0	0	0	0	225
県計 7620	発生面積	—	557	3847	0	0	0	0	0	0	0	1682
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	225
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	225
	中	—	279	279	0	0	0	0	0	0	0	450
	少	—	279	3569	0	0	0	0	0	0	0	782

発生程度基準: その他病害は第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第3回)

2011年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イネツトムシ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ	フタオビコヤガ	イネヨトウ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ	
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 4737	発生面積	836	4180	3901	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	836	4180	3901	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0	
紀中 (普通期) 1533	発生面積	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
普通期計 6270	発生面積	836	4180	3901	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	836	4180	3901	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0	
紀南 (早期) 1350	発生面積	225	1350	900	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	0	0	0	0	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	225	1350	900	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	0	0	0	0	
県計 7620	発生面積	1061	5530	4801	0	0	0	0	0	0	0	504	0	0	0	0	0	0	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	1061	5530	4801	0	0	0	0	0	0	0	504	0	0	0	0	0	0	

発生程度基準: ツマグロヨコバイ: 25株あたり虫数、(第3回)少 ≤ 125、125 < 中 ≤ 375、375 < 多 ≤ 750、甚 > 750
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(年計)

2011年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉 い もち	穂 い もち	紋 枯 病	萎 縮 病	縞 葉 枯 病	も み 枯 細 菌 病	ば か 苗 病	ご ま 葉 枯 病	白 葉 枯 病	稲 こ う じ 病	内 え い 褐 変 病
紀北 (普通期) 4737	発生 面積	1115	557	3622	0	557	0	279	0	0	0	557
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	279	279	279	0	0	0	279	0	0	0	0
	少	836	279	3344	0	557	0	0	0	0	0	557
紀中 (普通期) 1533	発生 面積	0	0	219	0	219	0	219	0	0	0	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	0	0	219	0	219	0	219	0	0	0	0
普通期計 6270	発生 面積	1115	557	3841	0	776	0	498	0	0	0	557
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	279	279	279	0	0	0	279	0	0	0	0
	少	836	279	3563	0	776	0	219	0	0	0	557
紀南 (早期) 1350	発生 面積	450	0	225	0	0	0	0	0	0	0	1125
	甚	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	225
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	225
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	450
	少	225	0	225	0	0	0	0	0	0	0	225
県計 7620	発生 面積	1565	557	4066	0	776	0	498	0	0	0	1682
	甚	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	225
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	225
	中	279	279	279	0	0	0	279	0	0	0	450
	少	1061	279	3788	0	776	0	219	0	0	0	782

主要害虫の発生程度別面積(年計) 2011年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イネツトムシ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ	フタオビコヤガ	イネヨトウ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシシガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ	
		発生 面積	甚	多	中	少	発生 面積	甚	多	中	少	発生 面積	甚	多	中	少	発生 面積	甚	多
紀北 (普通期) 4737	発生 面積	2508	4737	4737	836	0	557	279	0	0	0	279	0	0	0	0	0	3065	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	557	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	2508	3901	4737	836	0	557	279	0	0	0	279	0	0	0	0	0	3065	
紀中 (普通期) 1533	発生 面積	876	1095	1095	657	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	438	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	0	
	少	876	1095	1095	657	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	438	
普通期計 6270	発生 面積	3384	5832	5832	1493	0	557	279	0	0	0	498	0	0	0	0	0	3503	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	557	0	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	0	
	少	3384	4996	5832	1493	0	557	279	0	0	0	279	0	0	0	0	0	3503	
紀南 (早期) 1350	発生 面積	225	1350	900	0	0	225	0	1125	1350	0	225	0	0	0	0	225	0	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	225	1350	900	0	0	225	0	900	1350	0	225	0	0	0	0	225	0	
県計 7620	発生 面積	3609	7182	6732	1493	0	782	279	1125	1350	0	723	0	0	0	0	225	3503	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	279	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	中	0	557	0	0	0	0	0	0	0	0	219	0	0	0	0	0	0	
	少	3609	6346	6732	1493	0	782	279	900	1350	0	504	0	0	0	0	225	3503	

4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況

① 予察灯 (60W白熱灯)

(調査単位：頭)

月 半旬	ニカメイガ						ツマグロヨコバイ						ヒメトビウンカ						
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	1	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	0.0	0	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.5	3	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.1
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	2	6.9	1	0.1	3	2.2	1	0.1	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.7	0	0.3	9	3.5	0	0.7	0	0.4	0	0.3
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.7	1	0.1	15	6.1	4	1.4	0	0.1	0	0.2
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2	8	0.3	2	2.4	2	1.4	0	0.7	0	0.1
	6	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.5	13	0.9	10	4.2	1	1.9	0	0.1	0	0.6
7	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	6	0.4	74	5.4	5	3.4	0	0.3	0	0.8
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.1	2	0.7	5	21.1	1	0.8	0	0.3	0	0.2
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	2	1.2	103	25.1	0	2.3	0	0.1	0	0.2
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.9	1	2.2	98	38.9	2	4.5	0	0.2	0	0.1
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	7.9	1	1.7	152	26.3	0	4.0	0	0.7	5	0.2
	6	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	12.1	5	0.9	54	27.0	0	2.8	0	0.1	1	0.6
8	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	22.2	0	0.5	19	16.7	1	5.5	0	0.2	0	1.2
	2	0	0.4	0	0.0	0	0.0	3	15.5	2	0.2	36	11.1	14	6.1	0	0.0	3	0.3
	3	0	0.3	0	0.0	0	0.0	5	10.5	1	1.2	64	8.4	30	9.0	0	0.4	5	0.8
	4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	2	5.8	1	0.3	398	17.2	11	9.3	0	0.1	13	0.9
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.2	0	0.6	388	51.5	61	4.8	0	0.2	0	3.4
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	10.8	0	0.1	248	69.2	5	4.7	0	0.0	0	2.9
合計	0	1.5	0	0.1	0	0.1	20	107.0	48	11.9	1678	337.3	138	62.8	0	4.3	28	13.2	

(調査単位：頭)

月 半月	セジロウンカ						トビイロウンカ						イネミズゾウムシ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.2
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.4
6	0	0.0	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.6
1	0	0.1	0	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.1	0	3.7
2	0	0.1	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.8	52	2.4	28	17.1
5 3	0	0.0	0	0.6	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	1.4	1	3.3
4	0	0.0	0	0.1	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	2	2.3	1	3.1
5	0	0.0	0	0.8	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	46	4.4	12	4.9
6	0	0.2	0	0.5	0	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	6	1.4	5	2.6
1	0	2.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	6	0.8	1	0.9
2	0	3.5	0	40.2	0	8.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	3	1.6
6 3	0	8.1	0	67.4	0	58.2	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	1	1.2	7	1.3
4	3	30.4	0	57.7	0	28.9	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	0.1	0	2.1
5	0	31.6	0	35.8	0	29.8	0	0.0	0	0.2	1	0.4	0	0.0	3	0.1	1	2.9
6	0	12.4	0	18.6	0	24.3	0	0.0	0	0.1	0	0.3	0	0.0	17	0.1	0	5.5
1	27	86.8	0	58.9	2	41.2	0	0.7	0	0.3	0	0.0	0	0.0	7	0.1	4	4.0
2	5	15.5	0	44.8	0	71.4	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	7	0.2	0	5.1
7 3	2	23.2	0	8.0	0	51.3	0	0.5	0	0.1	0	0.5	0	0.0	4	0.5	3	8.9
4	1	22.5	0	7.6	0	24.8	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.0	0	0.5	0	11.3
5	0	25.7	0	17.1	2	26.7	0	0.3	0	0.0	0	0.6	0	0.0	0	1.8	4	16.6
6	0	10.5	0	6.8	4	28.1	0	0.4	0	0.1	0	0.5	0	0.0	0	0.6	4	11.0
1	0	24.1	0	2.8	0	36.2	0	2.3	0	0.1	0	0.2	0	0.5	0	0.9	3	10.4
2	1	15.0	1	3.8	3	23.4	0	0.2	0	0.0	0	11.6	0	0.8	0	1.2	4	9.0
8 3	4	43.5	0	2.6	16	30.1	2	0.2	0	0.1	2	2.3	0	0.4	0	2.2	3	7.4
4	32	28.9	1	4.1	43	44.0	1	0.3	0	0.6	7	2.4	0	0.3	0	0.0	4	5.9
5	27	18.8	0	3.6	59	49.1	0	1.2	0	7.9	1	6.7	0	0.2	0	0.2	2	0.9
6	3	17.8	0	1.4	2	47.3	0	3.8	0	2.3	0	8.8	0	0.0	0	0.0	2	2.0
合計	105	420.8	2	384.3	131	625.7	3	10.3	0	12.0	11	35.1	0	3.9	152	24.0	92	145.7

斑点米カメムシ類

紀の川市

月 半旬	クモヘリ	ホソハリ	シラホシ	アオクサ	ミナミ	アカスジ
	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	アオ カメムシ	カスミ カメ
4	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	2
	3	0	0	0	0	2
	4	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	2
	6	0	0	0	0	2
6	1	0	0	0	0	2
	2	0	0	0	0	2
	3	0	0	0	0	1
	4	0	0	0	0	1
	5	0	0	0	0	2
	6	0	0	0	0	7
7	1	0	0	0	0	10
	2	0	0	0	1	8
	3	0	0	0	0	4
	4	0	0	0	0	44
	5	0	1	0	0	18
	6	0	0	0	0	44
8	1	0	0	1	0	20
	2	11	0	2	0	51
	3	42	0	4	0	84
	4	7	0	0	0	32
	5	2	0	0	0	28
	6	4	0	0	0	31
合計	66	1	7	1	0	397

那智勝浦町

月 半旬	クモヘリ	ホソハリ	シラホシ	アオクサ	ミナミ	アカスジ
	カメムシ	カメムシ	カメムシ	カメムシ	アオ カメムシ	カスミ カメ
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	17
5 3	0	0	0	0	0	4
4	0	0	0	0	0	5
5	0	0	0	0	0	5
6	0	0	0	0	0	2
1	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	4
6 3	0	0	0	1	0	9
4	1	0	0	0	0	24
5	0	0	0	1	0	26
6	4	0	0	0	0	34
1	13	0	0	0	0	36
2	0	0	0	0	0	5
7 3	2	0	0	0	4	14
4	0	0	0	0	0	10
5	1	1	0	0	9	23
6	2	0	0	1	1	35
1	3	0	0	2	0	35
2	2	1	0	0	0	81
8 3	0	0	0	1	0	39
4	10	0	0	12	0	57
5	1	3	0	5	0	77
6	3	1	0	5	0	31
合 計	0	6	0	28	14	573

②フェロモントラップ

ニカメイガ

紀の川市

月 半旬	本年	平年
1	0	0.0
2	0	0.0
4 3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.1
6	0	0.0
<hr/>		
1	0	0.0
2	0	0.2
5 3	0	0.1
4	0	0.0
5	0	0.1
6	0	0.0
<hr/>		
1	0	0.0
2	0	0.2
6 3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.1
6	0	0.0
<hr/>		
1	0	0.0
2	0	0.0
7 3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.0
6	0	0.0
<hr/>		
1	0	0.0
2	0	0.0
8 3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.0
6	0	0.0
<hr/>		
1	0	0.0
2	0	0.0
9 3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.0
6	0	0.1
合計	0	0.9

③蛍光灯誘殺箱 (15W)

コブノメイガ

紀の川市

月 半旬	本年	平年
1	0	0.0
2	0	0.0
6 3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.8
6	0	1.3
<hr/>		
1	0	0.7
2	0	0.5
7 3	0	0.4
4	0	1.3
5	0	3.9
6	1	11.2
<hr/>		
1	0	3.6
2	0	3.6
8 3	1	4.2
4	—	—
5	—	—
6	—	—
合計	2	31.5

④フェロモントラップ

(ファネルトラップ)
コブノメイガ

紀の川市

月 半旬	本年	※平年
1	0	0.0
2	0	0.0
6 3	0	0.0
4	0	0.0
5	0	0.0
6	0	0.0
<hr/>		
1	0	0.0
2	0	0.2
7 3	0	0.0
4	0	0.2
5	0	0.0
6	0	0.0
<hr/>		
1	0	0.0
2	0	0.0
8 3	0	0.0
4	—	—
5	—	—
6	—	—
合計	0	0.4

※平成18～22年の平均値。トラップには四国農試式水盤トラップを用いた。

Ⅷ. 野菜・花き病害虫の発生状況調査

1. 巡回調査における発生状況

野菜害虫類の発生程度別基準

作物名	害虫名	項目	発生程度					
			無	少	中	多	甚	
キャベツ ハクサイ	シロイチモジヨトウ、 ハスモンヨトウ、 ヨトウガ、 アオムシ、ウワバ類	A	0	1～5	6～15	16～30	31～	
		コナガ	B	0	1～10	11～40	41～100	101～
		アブラムシ類	C	0	1～10	11～30	31～80	81～
タマネギ	ネギアザミウマ	D	0	1～25	26～50	51～200	201～	

A：幼虫の寄生株率、B：10株当たり幼虫、C：寄生株率、D：1株当たり寄生虫数

1) キャベツ

①害虫の発生状況（和歌山市）

調査 月日	モモアカアブラムシ						ニセダイコンアブラムシ						アオムシ					
	発生程度別圃場数					発生株率 (%)	発生程度別圃場数					発生株率 (%)	発生程度別圃場数					発生株率 (%)
	無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚	
4.14	1	4	3	1	0	21	9	0	0	0	0	0	8	1	0	0	0	1
10.20	8	1	2	0	0	4	7	0	3	1	0	12	10	1	0	0	0	1

調査 月日	コナガ						ウワバ類						ハスモンヨトウ					
	発生程度別圃場数					発生密度 頭/株	発生程度別圃場数					発生株率 (%)	発生程度別圃場数					発生株率 (%)
	無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚	
4.14	9	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0
10.20	10	1	0	0	0	0.005	7	2	0	0	0	1	10	1	0	0	0	1

調査 月日	シロイチモジヨトウ					
	発生程度別圃場数					発生株率 (%)
	無	少	中	多	甚	
4.14	9	0	0	0	0	0
10.20	11	0	0	0	0	0

2) スイカ

①病害の発生状況（露地：紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数			
		つる枯病	うどんこ病	疫病	炭疽病
5.17	6	0	0	0	0
6.15	8	0	0	0	0

注) 1圃場50葉、50株調査

②病害の発生状況（露地：御坊市、印南町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数			
		つる枯病	うどんこ病	疫病	炭疽病
5.18	13	0	1	0	0
6.21	10	0	4	0	5

注) 1圃場50葉、50株調査

③害虫の発生状況（露地：印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		カンザワハダニ		ナミハダニ		シロイチモジヨトウ		
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	被害生果率 (%)
5.20	14	57	6	64	8	29	5	0	0	—
6.16	12	42	4	33	2	58	10	58	0	3

注) 1圃場20葉、50果調査。被害果調査は果実片面（半球）のみ。

3) キュウリ

①病害の発生状況（露地：紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数				
		べと病	うどんこ病	斑点細菌病	灰色かび病	疫病
5.17	4	2 (5.0)	2 (5.0)	0	0	0
6.15	6	3 (24.0)	1 (18.0)	0	0	0

注) 1圃場50葉、50株調査、()は発生圃場での平均発病葉率(%)

②病害の発生状況（施設：紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数						
		べと病	うどんこ病	斑点細菌病	灰色かび病	疫病		
5.17	15	7	(21.6)	5	(14.8)	0	0	0
6.15	10	0		1	(4.0)	0	0	0

注) 1圃場約50葉、50株調査、()は発生圃場での平均発病葉率(%)

③病害の発生状況（施設：美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数							
		べと病	うどんこ病	斑点細菌病	灰色かび病	疫病			
3.9	12	3	(4.7)	4	(1.0)	0	0	0	
4.19	12	10	(41.8)	12	(42.5)	0	0	0	
5.18	12	10	(39.0)	11	(22.5)	0	-	0	
6.21	10	7	(12.0)	7	(35.0)	1	(2.0)	-	0

注) 1圃場約50葉、50株調査、()は発生圃場での平均発病葉率(%)

4) ナス

①病害の発生状況（紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	発生圃場数			
		うどんこ病	疫病	モザイク病	
6.15	施設	10	0	0	0
6.15	露地	2	0	0	0

注) 1圃場約50葉、50株調査

②害虫の発生状況（露地：紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
6.13	8	63	4	38	5	50	16	13	1
7.21	8	0	0	13	1	25	9	25	1
8.18	8	0	0	13	1	25	4	0	0
9.22	9	33	2	11	1	22	3	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類				コナジラミ類			
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		オンシツコナジラミ		タバココナジラミ	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
6.13	8	13	1	13	1	13	1	0	0
7.21	8	25	3	0	0	63	6	0	0
8.18	8	63	13	0	0	38	4	0	0
9.22	9	56	10	0	0	44	5	22	2

調査 月日	調査 圃場数	ハモグリバエ類		ハスモンヨトウ		ニジュウヤホシテントウ	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
		6.13	8	25	1	0	0
7.21	8	0	0	13	1	0	0
8.18	8	0	0	0	0	0	0
9.22	9	0	0	22	1	0	0

注) 1圃場20葉調査

③害虫の発生状況（施設：紀の川市貴志川町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
5.13	9	22	1.6	0	0	11	1	0	0
6.13	10	10	1	0	0	0	0	10	1

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類				コナジラミ類			
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		オンシツコナジラミ		タバココナジラミ	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
5.13	9	22	2	0	0	22	4	0	0
6.13	10	40	14	0	6	20	3	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハモグリバエ類		ハスモンヨトウ		ニジュウヤホシテントウ	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
		5.13	9	11	1	0	0
6.13	10	20	1	0	0	0	0

注) 1圃場20葉調査

5) タマネギ

発生程度別基準

病害名	項目	発生程度				
		無	少	中	多	甚
べと病	越年罹病発生株率(%)	0	~0.1	~1.0	~10	11以上
	新病斑発生株率(%)	0	1~20	21~40	41~70	71以上
白色疫病	発病株率(%)	0	1~5	6~25	26~50	51以上
灰色かび病	発病度 ¹⁾	0	1~25	26~50	51~75	76以上

1)発病程度を、a:葉身の萎凋、枯死、b:全ての葉身に多数の病斑、c:大半の葉身に病斑、d:展開した葉身に病斑が散見、e:葉身に病斑を認めない、としたとき、

$$\text{発病度} = (4a + 3b + 2c + d) * 100 / 4(a + b + c + d + e) \quad a + b + c + d + e = \text{調査株数}$$

①病害の発生状況

調査 月日	調査場所	べと病（新病斑発生株）						白色疫病					
		発生程度別圃場数					平均 発病 株率 (%)	発生程度別圃場数					平均 発病 株率 (%)
		無	少	中	多	甚		無	少	中	多	甚	
H23. 3.22	岩出市根来	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
	紀の川市打田	3	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1.3
	豊田	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
	長田	5	1	0	0	0	0.7	4	2	0	0	0	2.0
	藤崎	6	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0.3
	かつらぎ町窪	9	1	0	0	0	0.4	9	1	0	0	0	1.0
	発生圃場率(%)	6.1						15.2					

②害虫の発生状況

調査 月日	調査場所	ネギアザミウマ					平均密度 (頭/株)
		発生程度別圃場数					
		無	少	中	多	甚	
H23. 3. 22	和歌山市 小倉	0	3	0	0	0	1.7
	岩出市 根来	1	2	0	0	0	0.8
	紀の川市 豊田	1	2	0	0	0	0.1
	打田	1	2	0	0	0	1.5
	長田	1	3	0	0	0	0.4
	藤崎	0	3	0	0	0	3.5
	かつらぎ町 窪	0	3	0	0	0	1.7
	合計	4	18	0	0	0	
平均						1.4	
H23. 4. 14	和歌山市 小倉	2	1	0	0	0	0.2
	岩出市 根来	2	1	0	0	0	0.03
	紀の川市 豊田	0	3	0	0	0	0.9
	打田	2	1	0	0	0	0.03
	長田	0	3	0	0	0	0.4
	藤崎	0	3	0	0	0	0.6
	かつらぎ町 窪	0	3	0	0	0	0.1
	合計	6	15	0	0	0	
平均						0.3	

注) 1圃場10株調査

6) エンドウ

①病害の発生状況

調査 月日	調査場所	調査 圃場数	発生圃場数		
			褐紋・褐斑病	うどんこ病	つる枯細菌病
H23. 9. 26	御坊市	2	0	0	0
	印南町	14	0	0	0
H23. 10. 21	御坊市	4	0	0	1 (4.0)
	印南町	16	0	0	2 (6.0)
H24. 3. 10	御坊市	5	0	0	0
	印南町	15	5 (8.0)	0	0

注) 1圃場50葉調査 () は発生圃場での平均発病株率(%)

②害虫の発生状況（露地：印南町）

調査 月日	調査 圃場数	シロイチモジヨトウ		ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)
9.26	17	29	5	29	4	24	3
10.25	19	26	6	11	4	16	2

注) 1圃場10株調査

7) トマト

①病害の発生状況

調査 月日	調査場所	調査 圃場数	発生圃場数		
			トマト黄化葉巻病	疫病	モザイク病
H23. 7. 21	日高町	10	2 (7.5)	0	0
	印南町	5	1 (10.0)	0	0
H23. 8. 23	紀の川市	12	0	0	0

注1) 家庭菜園を含むトマトまたはミニトマト圃場

注2) 1圃場5～20株調査、()は発生圃場での平均発病株率(%)

②害虫の発生状況（露地：印南町）

調査 月日	調査 圃場数	タバココナジラミ		オンシツコナジラミ		モモアカアブラムシ	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
5.20	7	14	1	29	2	0	0

注) 1圃場30葉調査

8) イチゴ

①害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ		ミカンキイロアザミウマ		アブラムシ類	
		発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	寄生密度 (頭/花)	発生圃場率 (%)	寄生葉率 (%)
H23. 4. 19	5	40	7	0	0	40	0.03	0	0
H24. 3. 19	7	43	2	14	1	0	0.00	0	0

注) 1圃場20株調査

9) ダイズ

①吸実性カメムシ類の発生状況（紀の川市、慣行防除区）

調査 月日	ホソヘリカメムシ		クサギカメムシ		アオクサカメムシ		イチモンジカメムシ		ブチヒゲカメムシ	
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
9.29	3	17	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場25株調査

2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況

フェロモントラップの設置場所

紀の川市 : 紀の川市貴志川町高尾

和歌山市 : 和歌山市祢宜

御坊市 : 御坊市名田町野島

印南町 : 日高郡印南町印南

①コナガ

(調査単位:頭)

月	半旬	紀の川市		和歌山市		月	半旬	紀の川市		和歌山市	
		本年	平年	本年	平年			本年	平年	本年	平年
1	1	1	1.5	0	2.9	7	1	0	0.1	14	0.4
	2	0	1.8	0	1.8		2	1	0.2	3	1.2
	3	0	1.5	0	2.6		3	0	0.2	2	0.4
	4	0	1.3	0	5.2		4	0	0.0	4	0.4
	5	0	1.0	0	1.6		5	0	0.0	3	0.3
	6	0	1.4	0	8.9		6	0	0.0	1	0.9
2	1	0	1.4	0	5.2	8	1	0	0.0	0	0.2
	2	0	1.3	1	5.3		2	0	0.1	0	0.2
	3	0	1.9	0	6.0		3	0	0.0	1	0.0
	4	0	1.7	0	5.2		4	0	0.1	0	0.1
	5	0	3.0	1	5.1		5	0	0.1	0	0.0
	6	0	2.6	0	5.2		6	0	0.1	0	0.1
3	1	0	2.7	0	5.2	9	1	0	0.0	0	0.0
	2	2	3.4	0	6.2		2	0	0.0	2	0.2
	3	1	4.5	1	6.5		3	0	0.1	1	0.2
	4	0	6.1	5	6.1		4	0	0.1	2	0.3
	5	0	8.5	0	8.7		5	0	0.0	2	0.3
	6	1	9.7	3	10.3		6	0	0.1	6	1.2
4	1	1	5.3	24	7.8	10	1	0	0.1	23	0.9
	2	0	6.7	43	6.3		2	0	0.1	20	0.7
	3	1	5.0	57	4.8		3	0	0.4	15	1.6
	4	1	5.3	49	4.1		4	0	0.2	10	1.7
	5	1	4.7	28	3.9		5	0	0.5	13	3.2
	6	5	4.1	22	3.3		6	0	1.1	15	6.9
5	1	1	2.3	36	3.6	11	1	0	1.0	16	4.5
	2	2	4.1	40	3.7		2	0	1.3	16	5.8
	3	0	4.8	66	6.5		3	1	1.3	21	8.2
	4	0	5.2	40	10.5		4	1	3.4	9	5.5
	5	1	5.1	85	4.6		5	0	3.1	3	6.8
	6	0	3.0	161	5.2		6	3	3.7	6	5.2
6	1	1	3.5	6	4.9	12	1	0	1.9	15	6.7
	2	0	2.9	6	5.5		2	0	3.4	12	3.0
	3	1	2.5	3	3.4		3	0	3.3	0	6.8
	4	0	0.9	6	3.8		4	0	2.0	8	3.7
	5	0	0.4	4	1.5		5	1	1.5	3	6.5
	6	0	0.5	2	0.3		6	0	0.9	1	3.8
合計		27	152.0	936	269.6						

②ハスモンヨトウ

(調査単位：頭)

月 半旬	紀の川市		和歌山市		御坊市		印南町 ^{※1}		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	1	0	0.0	0	0.0	0	0.3	17	0.1
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	1.1	5	0.0
	4	0	0.1	0	0.0	0	0.4	4	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.5	4	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.1	5	0.0
2	1	0	0.1	0	0.0	0	0.1	4	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	1.0	2	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	1.8	0	0.3
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.3
	5	0	0.1	0	0.0	0	1.2	0	0.1
	6	0	0.0	0	0.0	6	0.3	0	0.1
3	1	0	0.0	0	0.0	0	1.9	0	0.1
	2	0	0.0	0	0.0	0	1.7	1	0.0
	3	0	0.2	0	0.0	0	1.8	0	0.0
	4	0	0.1	0	0.0	1	2.3	0	0.1
	5	0	0.0	0	0.0	0	2.5	2	0.6
	6	0	0.2	0	0.1	0	4.0	2	0.0
4	1	0	0.1	0	0.0	1	4.0	0	0.5
	2	0	0.9	1	0.1	1	9.2	0	1.8
	3	0	1.4	0	0.1	4	11.6	0	3.6
	4	0	2.9	0	0.0	5	8.6	0	0.6
	5	1	2.9	1	0.1	4	10.2	0	1.8
	6	1	3.3	0	0.4	2	11.7	3	3.9
5	1	1	3.6	0	0.3	6	18.3	11	5.7
	2	1	5.1	3	1.0	12	28.5	7	5.6
	3	0	5.4	2	1.2	33	26.8	7	5.5
	4	0	5.3	5	1.7	22	28.3	5	9.1
	5	0	5.4	2	3.0	16	28.4	5	15.0
	6	0	7.0	3	3.1	10	13.7	18	9.9
6	1	0	5.2	2	1.3	11	19.8	22	6.7
	2	4	5.9	5	1.3	15	18.7	10	7.4
	3	5	8.8	43	1.7	37	27.2	5	14.7
	4	0	13.0	28	2.2	5	24.7	5	16.0
	5	0	12.4	16	5.3	0	29.7	13	19.9
	6	2	10.3	8	2.3	1	29.3	37	37.4

※1 印南町の調査は平成15年から開始した。
平年値は平成15～22年（8か年）の平均。

(調査単位：頭)

月 半旬	紀の川市		和歌山市		御坊市		印南町※ ¹		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
7	1	0	11.6	16	1.8	47	56.8	44	16.5
	2	0	13.2	32	2.2	78	58.9	25	10.9
	3	0	9.6	18	6.2	27	30.9	30	15.4
	4	0	10.0	64	2.8	1	26.7	欠	11.6
	5	10	16.6	105	4.4	2	20.5	9	16.3
	6	8	26.6	71	7.1	0	41.1	12	58.6
8	1	16	38.2	12	6.8	85	86.7	4	19.6
	2	5	26.6	11	9.9	71	104.8	6	22.3
	3	4	18.9	6	12.8	10	50.7	16	19.4
	4	21	56.8	12	16.4	3	51.1	27	19.8
	5	33	88.2	62	19.7	1	86.0	45	37.4
	6	7	102.0	62	22.9	17	88.0	31	42.6
9	1	102	71.4	260	21.3	49	193.4	15	54.5
	2	289	100.1	697	49.3	4	171.3	18	51.3
	3	50	81.4	137	28.9	1	85.7	22	39.3
	4	33	85.9	366	33.5	0	130.1	29	24.0
	5	187	87.9	1069	31.8	2	138.6	23	43.4
	6	57	133.6	758	58.2	186	152.5	205	47.4
10	1	96	142.6	378	44.9	300	447.5	250	61.3
	2	69	248.7	241	56.5	313	618.1	136	97.3
	3	112	233.6	236	66.0	100	516.8	45	112.4
	4	187	267.9	489	65.3	17	398.6	3	95.5
	5	200	326.5	441	65.8	11	281.9	2	105.3
	6	305	387.2	516	104.1	10	185.0	0	135.0
11	1	432	349.0	511	59.4	438	601.3	2	88.1
	2	345	337.2	345	59.5	548	387.8	2	78.0
	3	282	361.0	160	52.6	439	183.8	1	64.6
	4	78	141.1	66	24.3	192	82.3	1	67.1
	5	58	120.8	44	18.4	4	50.6	1	25.6
	6	48	87.0	25	15.6	93	25.5	0	23.6
12	1	28	33.5	22	7.6	157	43.1	0	11.4
	2	27	19.3	4	2.1	62	29.0	0	9.0
	3	0	11.5	0	3.0	11	20.5	0	6.4
	4	0	1.6	0	0.0	9	4.1	0	5.3
	5	0	0.6	0	0.3	1	3.9	0	6.3
	6	0	0.1	0	0.2	0	3.9	0	4.8
合 計	3104	4147.5	7355	1006.8	3481	5827.7	1204	1714.1	

③シロイチモジヨトウ

(調査単位：頭)

月	半旬	紀の川市		御坊市		印南町 ^{※1}	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	—	—	0	0.2	6	0.0
	2	—	—	0	0.1	3	0.0
	3	—	—	0	0.0	2	0.1
	4	—	—	0	0.0	0	0.1
	5	—	—	0	0.2	1	0.0
	6	—	—	0	0.0	1	0.0
2	1	—	—	0	0.0	1	0.0
	2	—	—	0	0.1	0	0.0
	3	—	—	0	0.2	0	0.1
	4	—	—	1	0.5	0	1.0
	5	—	—	0	0.7	0	0.1
	6	—	—	1	0.3	0	0.3
3	1	—	—	0	0.2	1	0.7
	2	—	—	0	0.2	0	0.4
	3	—	—	0	0.4	0	0.3
	4	—	—	0	0.4	0	0.9
	5	—	—	0	0.6	0	0.6
	6	—	—	0	1.3	4	0.7
4	1	0	0.0	4	0.8	0	3.8
	2	0	0.0	1	1.8	1	4.1
	3	0	0.0	4	2.8	0	4.8
	4	0	0.0	5	2.7	0	6.9
	5	0	0.1	11	8.3	0	6.1
	6	0	0.1	8	7.0	2	5.9
5	1	0	0.0	35	4.2	6	9.1
	2	0	0.3	22	5.9	5	10.6
	3	0	0.4	27	8.2	3	11.9
	4	1	0.7	15	11.2	1	9.8
	5	0	0.8	26	21.0	5	14.5
	6	3	2.9	34	29.7	13	23.3
6	1	2	1.4	26	20.0	20	26.5
	2	1	2.8	31	17.6	6	27.0
	3	1	4.9	43	29.7	1	28.5
	4	1	2.2	38	29.7	1	28.1
	5	1	3.2	54	35.5	11	42.5
	6	5	2.3	11	24.2	29	53.6

※1 印南町の調査は平成15年4月から開始した。
平年値は平成15～22年（8か年）の平均。

(調査単位：頭)

月 半旬	紀の川市		御坊市		印南町 ^{※1}		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
7	1	2	3.5	31	20.3	18	37.1
	2	0	3.1	44	22.3	15	31.9
	3	1	2.0	41	22.6	26	22.4
	4	1	2.3	58	22.3	欠	15.8
	5	0	2.8	20	23.8	6	17.5
	6	2	3.6	2	25.3	8	31.0
8	1	1	2.3	58	27.9	3	27.8
	2	3	3.6	57	22.5	10	23.8
	3	5	4.2	55	24.3	5	21.9
	4	2	5.0	22	20.9	1	25.8
	5	4	10.9	54	22.0	1	22.4
	6	2	13.4	24	16.9	0	22.0
9	1	1	8.3	24	11.6	0	17.9
	2	2	8.8	12	11.9	0	20.4
	3	2	8.0	0	10.3	0	16.4
	4	2	7.9	1	8.6	0	11.5
	5	1	10.3	0	9.3	0	13.5
	6	1	10.4	1	7.2	4	16.6
10	1	2	5.3	0	6.2	4	14.3
	2	0	3.8	2	5.0	1	12.5
	3	0	3.8	3	6.9	1	15.3
	4	0	1.4	6	8.8	2	11.1
	5	0	2.0	6	9.8	0	11.9
	6	0	1.1	6	12.0	3	10.4
11	1	0	0.4	2	5.4	2	8.9
	2	0	0.1	6	3.7	0	8.1
	3	0	0.7	3	6.7	0	6.1
	4	0	0.1	4	5.7	0	4.3
	5	0	0.6	1	4.6	0	6.6
	6	0	0.2	1	7.4	0	7.1
12	1	0	0.3	0	2.6	0	4.1
	2	0	0.1	1	1.0	0	4.9
	3	0	0.1	0	1.2	0	4.0
	4	0	0.0	0	0.7	0	1.9
	5	0	0.0	0	0.6	0	3.0
	6	0	0.0	0	0.7	0	2.3
合 計	49	152.5	942	684.7	233	854.3	

④オオタバコガ

(調査単位：頭)

月	半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年※
1	1	—	—	0	0.0	1	0.6
	2	—	—	0	0.0	0	1.3
	3	—	—	0	0.0	0	1.4
	4	—	—	0	0.0	0	1.1
	5	—	—	0	0.0	0	2.4
	6	—	—	0	0.0	0	3.9
2	1	—	—	0	0.0	0	1.0
	2	—	—	0	0.0	0	0.7
	3	—	—	0	0.0	0	0.7
	4	—	—	0	0.0	0	0.9
	5	—	—	0	0.0	0	0.7
	6	—	—	0	0.0	0	0.0
3	1	—	—	0	0.0	0	0.4
	2	—	—	0	0.0	1	0.4
	3	—	—	0	0.1	0	0.4
	4	—	—	0	0.0	0	0.1
	5	—	—	0	0.0	2	0.3
	6	—	—	0	0.0	2	0.1
4	1	0	0.0	0	0.4	0	0.1
	2	0	0.1	0	0.5	1	0.0
	3	0	0.0	1	0.2	1	0.3
	4	0	0.1	0	1.2	0	0.1
	5	0	0.4	1	0.9	0	0.5
	6	0	0.3	0	0.8	1	0.1
5	1	0	0.1	0	1.8	2	0.4
	2	0	0.5	0	2.4	欠	1.6
	3	1	0.5	1	1.2	0	1.4
	4	2	0.6	0	0.4	0	0.3
	5	0	0.7	0	2.1	1	1.0
	6	0	0.4	0	1.2	0	1.0
6	1	2	0.3	1	0.6	0	1.1
	2	1	0.5	0	0.9	0	0.8
	3	1	0.5	0	0.6	0	0.6
	4	1	0.7	0	1.3	0	1.9
	5	0	0.8	0	2.4	1	2.1
	6	0	0.3	0	1.5	1	1.0

※ 印南町は平成15～22年（8か年）の平均。

(調査単位：頭)

月	半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年※
7	1	0	0.6	0	3.2	4	3.4
	2	0	0.6	1	5.7	0	1.9
	3	0	0.7	0	2.7	0	3.0
	4	1	0.4	0	2.1	0	0.4
	5	0	0.6	6	1.1	0	0.5
	6	2	0.3	1	2.3	0	1.0
8	1	3	0.5	0	3.0	0	1.0
	2	1	1.1	0	1.7	0	0.2
	3	0	0.1	0	0.6	0	0.0
	4	2	1.6	0	0.5	0	0.3
	5	8	0.8	0	1.1	0	0.9
	6	2	2.7	0	0.9	0	1.9
9	1	4	1.8	0	1.3	0	1.6
	2	3	0.9	0	1.6	0	2.1
	3	6	2.0	0	1.6	0	1.0
	4	7	1.5	0	2.0	0	1.3
	5	7	1.8	0	7.7	0	1.6
	6	3	3.9	0	6.1	0	2.4
10	1	3	2.7	1	7.7	0	3.3
	2	1	3.0	4	13.4	3	5.0
	3	4	3.1	2	32.3	2	5.4
	4	5	4.9	4	30.8	1	7.6
	5	3	6.3	7	37.6	2	4.8
	6	6	4.7	11	44.5	0	4.0
11	1	1	4.2	3	18.1	2	6.8
	2	1	2.2	2	20.6	2	7.4
	3	1	2.8	9	8.8	0	5.9
	4	1	1.5	2	7.7	0	7.3
	5	0	1.0	3	5.6	0	2.7
	6	0	1.0	1	3.9	0	2.3
12	1	0	0.7	3	1.8	0	1.9
	2	0	0.2	3	0.9	0	2.1
	3	0	0.4	0	0.7	0	1.0
	4	0	0.0	0	0.1	0	0.1
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.7
	6	0	0.0	0	0.3	0	0.9
合 計		83	67.5	67	300.5	30	124.3

⑤カブラヤガ

		紀の川市	
月	半旬	本年	平年
	1	0	31.2
	2	0	41.0
4	3	1	39.1
	4	0	39.5
	5	3	56.6
	6	3	31.1
<hr/>			
	1	8	24.4
	2	1	21.7
5	3	10	17.5
	4	10	11.0
	5	10	6.6
	6	7	6.0
<hr/>			
	1	2	6.5
	2	0	8.9
6	3	4	17.9
	4	11	16.3
	5	13	15.6
	6	20	11.5
<hr/>			
	1	22	14.5
	2	18	18.4
7	3	16	6.8
	4	5	3.4
	5	2	1.9
	6	0	0.9
<hr/>			
	1	0	0.5
	2	2	0.9
8	3	1	1.8
	4	2	0.7
	5	5	0.6
	6	5	1.3

		紀の川市	
月	半旬	本年	平年
	1	1	3.5
	2	0	8.4
9	3	0	11.0
	4	3	13.7
	5	5	8.8
	6	13	5.1
<hr/>			
	1	10	6.5
	2	10	9.5
10	3	5	11.7
	4	6	12.1
	5	6	7.7
	6	10	11.7
<hr/>			
	1	3	8.9
	2	12	15.7
11	3	11	16.3
	4	7	15.6
	5	4	13.2
	6	2	11.7
<hr/>			
	1	0	12.4
	2	1	9.5
12	3	1	6.4
	4	0	4.0
	5	0	2.6
	6	1	1.3
<hr/>			
合	計	292	681.4

⑥ヨトウガ

		紀の川市	
月	半旬	本年	平年※
	1	2	0.8
	2	3	6.5
3	3	0	6.0
	4	0	1.0
	5	0	0.8
	6	0	7.8
<hr/>			
	1	0	2.8
	2	0	2.2
4	3	0	4.8
	4	0	4.7
	5	5	4.6
	6	7	3.7
<hr/>			
	1	3	0.4
	2	4	1.0
5	3	1	0.8
	4	1	0.5
	5	0	0.5
	6	0	0.1
<hr/>			
	1	0	0.1
	2	0	0.0
6	3	0	0.0
	4	0	0.1
	5	0	0.1
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
7	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.0

		紀の川市	
月	半旬	本年	平年※
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.0
	4	0	0.1
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	1	0.3
9	3	1	0.9
	4	2	1.5
	5	3	1.8
	6	3	2.5
<hr/>			
	1	1	2.1
	2	0	1.1
10	3	1	0.8
	4	2	0.2
	5	1	0.5
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
11	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
合	計	41	61.3

※紀の川市の3月の調査は平成18年から開始した。
3月の平均値は平成18～22年（5か年）の平均。

3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況

月 半旬	紀の川市	
	本年	平年
1	3	3.3
2	2	1.7
1 3	0	1.1
4	0	1.5
5	0	0.1
6	0	1.9
1	0	0.8
2	0	2.2
2 3	0	1.6
4	0	1.2
5	8	4.4
6	0	1.4
1	4	3.2
2	4	6.2
3 3	8	6.9
4	0	6.0
5	12	7.8
6	10	11.0
1	8	10.3
2	17	19.5
4 3	13	23.4
4	8	23.2
5	7	29.0
6	8	39.8
1	12	43.0
2	24	65.1
5 3	14	68.0
4	11	51.3
5	19	51.2
6	18	68.9
1	22	44.5
2	16	53.6
6 3	7	42.6
4	2	20.7
5	2	10.2
6	0	11.5

月 半旬	紀の川市	
	本年	平年
1	5	10.3
2	1	9.2
7 3	5	7.0
4	3	6.5
5	3	4.2
6	12	10.3
1	12	10.3
2	10	8.7
8 3	8	12.4
4	3	9.9
5	5	13.4
6	7	16.8
1	0	22.6
2	2	17.6
9 3	1	21.7
4	3	33.2
5	3	33.8
6	10	22.1
1	12	18.0
2	5	19.3
10 3	12	18.4
4	10	15.0
5	2	20.3
6	10	24.7
1	15	26.3
2	12	28.0
11 3	8	19.0
4	5	14.6
5	1	18.4
6	12	21.0
1	5	9.2
2	4	8.7
12 3	5	7.5
4	1	6.8
5	1	6.7
6	0	3.9
合 計	472	1293.9

Ⅷ. 果樹病害虫の発生状況調査

1. 予察圃場における調査成績

1) カンキツ

(1) 生育状況

a) 生育調査 (県予察ほ場) (月/日)

品種	発芽期	展葉期	開花期			不知火	発芽期	展葉期	開花期		
			初期	最盛期	終期				初期	最盛期	終期
早生温州	4/13	5/2	5/11	5/15	5/20		4/13	4/30	5/13	5/18	5/23
普通温州	4/14	5/2	5/12	5/16	5/21						

b) 果実肥大調査 (ヨコ径, cm)

品種	月日	7/15	8/ 1	8/15	9/ 1	9/15	10/1	10/15	11/1	11/15	12/ 1	12/15
早生温州		3.6	4.6	5.2	5.9	6.3	6.8	7.2	7.7	7.8	7.9	8.0
普通温州		3.1	4.0	4.6	5.2	5.5	6.1	6.5	7.0	7.1	7.4	8.5
不知火		3.7	4.7	5.4	6.2	6.5	7.3	7.6	8.1	8.4	8.6	8.5

摘要：早生温州の発芽期・展葉期及び開花期は平年に比べ7日程度遅かった。
 普通温州の発芽期・展葉期及び開花期は平年に比べ6日程度遅かった。
 不知火の発芽期・展葉期は平年に比べ7日程度遅く、開花期は4日程度遅かった。
 早生温州の果実肥大は、生育期間を通じ、平年に比べ大きく推移した。
 普通温州の果実肥大は、生育期間を通じ、平年に比べ大きく推移した。
 不知火の肥大は、生育期間を通じ、平年並で推移した。

(2) 黒点病

a) 発病状況調査 (県予察ほ場)

区	調査項目	6/中	7/中	8/中	9/中	10/中
無防除区	発病果率%	48.3	100.0	100.0	100.0	100.0
	発病度	8.3	22.4	53.3	58.8	71.0
防除区	発病果率%	0.8	1.7	10.0	25.0	9.2
	発病度	0.4	0.2	1.4	3.8	4.3

(注) 1区4樹, 1樹30果調査, 自然感染

防除区供試薬剤(散布日): エムダ イアー水和剤600倍(6/3)、ジマンダ イェン水和剤600倍(6/22)、
 ペンコゼブ水和剤(8/26、9/2)

摘要：県予察ほ場における果実の初発は5月30日で平年よりやや早かった。
 5月中下旬に集中的な降雨があり、初期発病が多かった。8～9月は少雨で発病は少なく推移した。9月下旬から10月上旬にかけて後期発病がやや多かった。

(3) かいよう病

a) 発病状況調査 (県予察ほ場)

越冬病斑		春葉発病			果実発病		
調査月日	発病葉率	調査月日	発病葉率	発病度	調査月日	発病果率	発病度
3月17日	15.1%	6月10日	16.8%	4.2	10月6日	50.0%	14.8

(注) 15年生ネーブル

摘要：県予察ほ場での越冬病斑の発病葉率は平年並であった。春葉での初発は5月24日で平年並であった。春梢・夏梢及び果実の発病は平年より多かった。

(4) ヤノネカイガラムシ

a) 発生状況調査

県予察ほ場

虫数

調査月日	1令	雌2令	未成熟成虫	成熟成虫	合計
5. 6	0	0	0	16	16
5. 21	12	0	0	5	17
5. 26	0	1	0	5	41

摘要：発生が少ないため、5月5日に成虫の寄生葉をマークし、第1世代1令幼虫の初発状況を調査した。初発は5月24日で、平年よりやや遅く、その後もやや遅く推移した。

(5) ミカンハダニ

a) 発生状況調査

県予察ほ場

100葉当たり雌成虫数

調査月日	無防除園	防除園
4. 5	0	0
15	9	0
26	5	0
5. 6	18	0
15	2	0
25	10	0
6. 6	0	0
14	4	0
25	0	0
7. 5	0	0
15	0	0
25	0	0
8. 5	0	0
15	0	11
25	1	4
9. 5	0	0
15	1	0
26	0	0
10. 5	0	0
15	0	0
25	0	0
11. 4	0	0
15	0	0
24	0	0
12. 5	0	0
15	0	0
26	0	0
1. 5	0	0
16	0	0
26	0	0
2. 8	0	0
15	0	0
24	0	0

摘要：無防除園における発生は、春先から6月中旬まで少発生で経過したが、6月下旬以降、秋期にかけてほとんど発生が見られなかった。防除園における発生は、8月中下旬頃僅かにみられたが、他の時期には見られなかった。

(6) チャノキイロアザミウマ

a) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる捕獲消長)

県予察ほ場

調査期間	No. 1	No. 2	計
4. 8 - 4. 15	2	2	4
15 - 22	3	0	3
22 - 29	1	0	1
29 - 5. 6	0	0	0
5. 7 - 12	7	1	8
13 - 19	6	4	10
19 - 26	5	4	9
26 - 6. 2	25	18	43
6. 2 - 9	0	1	1
9 - 16	16	2	18
16 - 23	12	3	15
23 - 30	12	6	18
30 - 7. 7	75	76	151
7. 7 - 14	89	2	91
14 - 21	100	4	104
21 - 28	84	1	85
28 - 8. 4	33	1	34
8. 4 - 11	21	5	26
11 - 18	10	5	15
18 - 25	19	9	28
25 - 9. 1	6	2	8
9. 1 - 8	11	11	22
8 - 15	5	5	10
15 - 22	10	5	15
22 - 29	6	2	8

摘要：7月上旬までの誘殺数および発生時期は平年並であったが、7月上旬から下旬にかけての誘殺数がやや多い傾向であった。発生のピークは5月6半旬、7月1半旬、7月4半旬、8月5半旬および9月上旬の頃であった。

(7) ミドリヒメヨコバイ類

a) 発生状況調査 (黄色平板粘着トラップによる捕獲消長)

県予察ほ場

調査期間	No. 1	No. 2	計
4. 8 - 4. 15	3	17	20
15 - 22	1	3	4
22 - 29	0	1	1
29 - 5. 6	1	0	1
5. 7 - 12	2	0	2
13 - 19	0	0	0
19 - 26	0	0	0
26 - 6. 2	1	0	1
6. 2 - 9	0	0	0
9 - 16	0	0	0
16 - 23	0	0	0
23 - 30	0	0	0
30 - 7. 7	0	0	0
7. 7 - 14	0	0	0
14 - 21	0	1	1
21 - 28	0	2	2
28 - 8. 4	0	0	0
8. 4 - 11	1	0	1
11 - 18	0	0	0
18 - 25	0	0	0
25 - 9. 1	0	0	0
9. 1 - 8	0	6	6
8 - 15	0	1	1
15 - 22	0	0	0
22 - 29	0	0	0

摘要：平年に比べ4月上旬の発生はやや多かったものの、それ以降の誘殺量は平年と比べ少なかった。

(8) カメムシ類

a. 越冬量調査

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果 (2011年)

採取場所名	採取日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
橋本市北馬場	3/ 7	3/ 7	0	0	0	0	
橋本市市脇	3/ 7	3/ 7	0	0	0	0	
橋本市清水	3/ 7	3/ 7	0	0	0	0	
橋本市学文路	3/ 7	3/ 7	0	0	0	0	
橋本市高野口町竹尾	3/ 2	3/ 2	0	0	0	0	
橋本市高野口町大野	3/ 2	3/ 2	0	0	0	0	
九度山町下古沢	3/ 2	3/ 2	0	0	0	0	
九度山町入郷	3/ 2	3/ 2	0	0	0	0	
かつらぎ町短野	2/28	2/28	0	0	0	0	
かつらぎ町教良寺	2/28	2/28	0	0	0	0	
かつらぎ町御所	2/28	2/28	0	0	0	0	
かつらぎ町東谷	2/28	2/28	0	0	0	0	
紀の川市赤沼田	3/ 9	3/ 9	0	0	0	0	
紀の川市中尾	3/ 9	3/ 9	0	0	0	0	
紀の川市林ヶ峯	3/ 9	3/ 9	0	0	0	0	
紀の川市秋葉山	3/ 9	3/ 9	0	0	0	0	
紀の川市鞆淵	3/ 9	3/ 9	0	0	0	0	
紀の川市桃山町黒川	3/ 9	3/ 9	0	0	0	0	
紀の川市貴志川町高尾	3/ 9	3/ 9	0	0	0	0	
和歌山市大河内	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
和歌山市境原	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
和歌山市吉礼	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
和歌山市伊太祁曽	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
和歌山市黒岩	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
和歌山市黒谷	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
海南市上谷	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
海南市赤沼	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
海南市海老谷	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
海南市東畑	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
海南市別所	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
海南市下津町沓掛	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
海南市下津町小原	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	

(つづき)

採取場所名	採取日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
海南市下津町松尾	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
海南市下津町興	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町西野	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町松瀬 1	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町松瀬 2	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町国木原	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町釜滝	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町大角 1	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町大角 2	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町永谷 1	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町永谷 2	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町津川 1	3/ 4	3/ 4	1	0	1	0	
紀美野町津川 2	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
紀美野町明添	3/ 4	3/ 4	0	0	0	0	
果試場内No. 1	2/ 3	2/ 7	0	0	0	0	
果試場内No. 2	2/ 3	2/ 9	0	0	0	0	
有田郡有田川町修理川	2/10	2/23	0	0	0	0	
有田郡有田川町川口	2/10	2/23	0	0	0	0	
有田郡広川町津木	2/10	2/22	0	0	0	0	
有田郡広川町室川	2/10	2/23	0	0	0	0	
日高郡日高川町千津川	2/18	3/ 2	0	0	0	0	
日高郡印南町白河	2/18	3/ 2	0	0	0	0	
日高郡みなべ町高城	2/ 7	2/17	0	0	0	0	
日高郡みなべ町広野	2/ 7	2/17	0	0	0	0	
日高郡みなべ町清川	2/ 7	2/17	0	0	0	0	
田辺市竹藪	2/ 7	2/17	0	0	0	0	
田辺市上野	2/ 7	2/17	0	0	0	0	
西牟婁郡上富田町岩田	2/ 7	2/17	0	0	0	0	
西牟婁郡白浜町口ヶ谷	2/21	2/23	0	0	0	0	
東牟婁郡串本町重畳山	2/21	2/23	0	0	0	0	
東牟婁郡那智勝浦町井関	2/21	2/25	0	0	0	0	
新宮市木ノ川	2/21	2/23	0	0	0	0	

b) 誘殺状況調査

県予察ほ場（果樹試験場 20W青色蛍光灯1本）

調査月日		チャバネアカカメムシ			ツヤアオカメムシ			クサキカメムシ			アオクサカメムシ			前記4種
月	半旬	♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計	♀	♂	計	の合計
4.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7.	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9.	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
10.	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

摘要：本年の果樹カメムシ類の誘殺数は平年に比べ少なかった。チャバネアカカメムシは8月下旬～9月上旬にかけやや誘殺されたが、他のカメムシ類は4月～10月にかけてほとんど誘殺されなかった。

2) カキ

(1) 生育状況

品 種	発芽期	展葉期	開 花 期			収穫期
			始 期	最盛期	終 期	収穫盛期
平核無 本 年	3月18日	4月6日	5月13日	5月15日	5月18日	10月27日
平年比	+4	+7	+3	+2	+2	+1
富 有 本 年	3月21日	4月11日	5月20日	5月24日	5月27日	11月15日
平年比	+1	+5	+2	+4	+3	-4

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す(単位:日)。

(2) 炭疽病

a) 越冬病斑調査(発病枝率) 県予察ほ場

品 種	3/23
富 有	0 %
平核無	0

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹50枝調査(無防除)

b) 発病状況調査 県予察ほ場

品 種	調査項目	9/28
富 有	発病果率	0%
	発病枝率	0
平核無	発病果率	0
	発病枝率	0

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹26~50果・50枝調査(無防除)

摘要: 越冬病斑および枝病斑は認められず、果実発病も認められなかった。

(3) うどんこ病 県予察ほ場

a) 子のう殻越冬密度調査

品 種	調査月日	子のう殻 附着枝率	1枝当たりの 子のう殻数
富 有	3月23日	0.0 %	0.0
平核無	3月23日	54.0 %	4.0

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹50枝調査(無防除)

b) 発病状況調査 県予察ほ場

品 種	調査項目	9/28
富 有	発病葉率	6.0 %
	発病度	0.9
平核無	発病葉率	71.7 %
	発病度	29.7

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹100葉調査（無防除）

摘要：子のう殻越冬密度は富有では平年より少なく、平核無では平年より多かった。生育期の発病は、富有では平年より少なく、平核無では平年並であった。落葉病の発生により早期に落葉したため、10月の調査を中止した。

(4) 落葉病

a) 発病状況調査 県予察ほ場

品 種	種 類	調 査 項 目	9/28
富 有	角斑落葉病	発病葉率	84.3 %
		発病度	25.3
	円星落葉病	発病葉率	88.0 %
		発病度	35.8
平核無	角斑落葉病	発病葉率	90.7 %
		発病度	28.3
	円星落葉病	発病葉率	95.0 %
		発病度	53.6

注) 富有3樹・平核無3樹平均、1樹100葉調査（無防除）

摘要：富有、平核無ともに、9月における角斑落葉病・円星落葉病の発生は平年よりも多く、早期に落葉したため10月の調査を中止した。

(5) チャノキイロアザミウマ 県予察ほ場

県予察ほ場における誘殺数は平年より多かった（付表4参照）。

	被害果率 (%)	被害度
6月21日	11.3	8.0
7月4日	8.0	7.0

注) 平核無3樹平均、1樹50果調査（無防除）

- (6) カキクダアザミウマ 県予察ほ場
新成虫の6月の誘殺数は平年より少なかった（付表4参照）。

被害果率 (%) 被害度			
6月21日	平核無	0.0	0.0
	富有	0.0	0.0
7月4日	平核無	2.0	0.6

注) 各品種3樹平均、1樹50果調査（無防除）。

- (7) コガシラアワフキ
6月下旬から発生が見られ（付表1参照）、誘殺数は平年より少なかった。

3) モモ

(1) 生育状況

品 種	発芽期	開 花 期			収穫期
		始 期	最盛期	終 期	収穫盛期
白鳳 本年 平年比	3月14日 0	4月8日 +6	4月10日 +6	4月16日 +5	7月14日 +6

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す（単位：日）。

(2) シンクイムシ類

フェロモントラップにおける、ナシヒメシンクイの誘殺数は平年よりも少なかった（付表2参照）。モモシンクイガの誘殺は、一部の園地でみられた（付表3参照）。

付表1) 高圧水銀灯(100W)による害虫誘殺状況

かき・もも研究所(紀の川市粉河)

月	半旬	チャバネ アオカメ ムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギカ メムシ	アオクサ カメムシ	チャハマキ	チャノコカ クモンハ マキ	コガシラ アワフキ
4	1	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	1	0	0
	2	3	8	1	0	11	6	0
	3	6	1	0	0	1	5	0
	4	0	1	0	0	1	1	0
	5	18	5	3	0	3	0	0
	6	0	3	0	0	4	0	0
	計	27	18	4	0	21	12	0
6	1	1	3	0	0	7	0	0
	2	0	2	0	0	6	1	0
	3	0	0	0	0	2	0	0
	4	1	0	4	0	0	2	0
	5	56	9	34	0	12	23	22
	6	37	12	35	0	17	53	41
	計	95	26	73	0	44	79	63
7	1	22	3	26	0	11	22	7
	2	39	1	32	1	21	13	2
	3	10	0	29	1	1	0	0
	4	9	0	19	0	4	1	10
	5	1	0	13	0	1	0	4
	6	4	1	26	0	0	1	2
	計	85	5	145	2	38	37	25
8	1	3	0	23	0	2	4	1
	2	8	1	55	1	4	8	0
	3	3	1	29	1	6	5	0
	4	29	0	26	0	2	12	0
	5	54	2	40	0	2	0	0
	6	68	4	75	0	1	1	0
	計	165	8	248	2	17	30	1
9	1	39	4	28	0	0	0	0
	2	33	2	7	0	0	0	0
	3	27	2	8	0	0	0	0
	4	112	95	5	0	0	0	0
	5	1	1	0	0	3	3	0
	6	12	40	0	0	1	0	0
	計	224	144	48	0	4	3	0
10	1	0	7	0	0	1	0	0
	2	1	3	0	0	0	0	0
	3	5	20	0	0	1	1	0
	4	0	8	0	0	4	0	0
	5	1	9	0	0	3	2	0
	6	0	0	0	0	0	0	0
	計	7	47	0	0	9	3	0
合計		603	248	518	4	133	164	89

付表2)フェロモントラップによる害虫誘殺状況 (SEトラップ使用)

かき・もも研究所(紀の川市粉河)

月	半旬	ナンシメシクイ		モモハモグリガ		コスカシバ		チャハマキ		チャノココクモンハマキ	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4	1	16	9.1	0	6.9	0	0.0	0	2.1	0	0.6
	2	79	15.6	11	7.6	0	0.0	0	4.9	1	1.3
	3	14	10.2	5	4.1	0	0.0	0	4.3	0	3.0
	4	21	8.5	1	3.3	0	0.0	0	6.4	1	8.3
	5	7	4.3	6	0.9	0	0.0	0	6.1	3	17.2
	6	7	3.9	1	2.3	0	0.3	0	5.5	28	20.7
	計	144	51.6	24	25.1	0	0.3	0	29.3	33	51.1
5	1	33	6.5	0	6.9	0	2.1	1	8.6	52	48.6
	2	9	4.3	1	19.6	6	3.5	4	4.5	96	30.1
	3	3	1.7	2	14.5	2	1.5	0	3.2	64	16.8
	4	0	1.8	3	72.5	1	2.0	0	0.7	22	9.6
	5	1	5.4	5	14.5	0	2.2	1	1.1	7	3.4
	6	7	17.7	4	8.3	2	2.4	0	0.7	0	1.8
	計	53	37.4	15	136.3	11	13.7	6	18.8	241	110.3
6	1	0	31.9	0	8.4	1	4.0	0	1.3	0	2.2
	2	1	24.5	0	10.5	0	4.3	0	1.6	0	3.3
	3	3	18.1	4	17.1	4	2.8	0	1.9	0	7.5
	4	1	13.8	17	20.6	1	3.0	0	3.1	4	13.9
	5	3	12.7	15	13.4	1	3.8	0	2.3	13	20.1
	6	2	16.9	4	9.4	0	2.2	0	1.5	13	21.1
	計	10	117.9	40	79.4	7	20.1	0	11.7	30	68.1
7	1	8	29.4	1	11.2	0	2.5	0	1.4	16	20.7
	2	4	18.3	9	23.4	1	3.3	0	1.6	3	11.4
	3	11	24.6	14	37.8	0	2.0	0	0.8	3	4.4
	4	2	26.5	9	15.6	0	1.8	1	0.6	3	4.1
	5	11	30.9	9	16.4	0	2.5	0	0.8	0	4.8
	6	25	50.2	63	39.5	0	2.2	0	1.7	1	8.6
	計	61	177.4	105	140.1	1	14.1	1	6.8	26	53.6
8	1	33	42.9	80	40.6	0	1.8	0	1.6	3	8.7
	2	23	32.6	76	29.8	0	2.8	0	2.3	1	6.3
	3	6	35.8	22	31.2	0	3.6	0	2.1	1	4.4
	4	1	42.1	8	9.7	1	2.4	0	1.7	2	4.5
	5	2	33.9	5	10.3	1	3.3	1	0.9	4	2.2
	6	0	37.1	6	13.9	0	4.1	1	0.8	3	1.4
	計	65	224.4	197	135.5	2	18.0	2	9.4	14	27.5
9	1	10	25.5	4	14.5	0	4.3	0	1.6	1	4.3
	2	7	23.8	3	13.6	0	5.8	0	2.3	1	3.9
	3	6	12.9	8	26.8	1	5.5	1	1.3	1	5.2
	4	3	10.6	16	54.6	1	9.9	0	1.5	2	8.9
	5	1	6.5	13	30.9	1	9.5	0	1.1	3	11.7
	6	3	4.2	3	20.6	1	3.2	0	1.2	19	11.1
	計	30	83.5	47	161.0	4	38.2	1	9.0	27	45.1
10	1	0	2.0	3	16.0	1	3.9	1	2.7	9	15.1
	2	2	1.3	0	9.2	1	2.8	0	5.2	5	16.5
	3	0	0.8	2	4.3	1	4.5	0	5.7	4	14.8
	4	0	0.5	2	1.8	0	1.3	0	6.4	1	17.5
	5	0	0.2	1	0.4	2	0.4	0	4.8	4	9.8
	6	0	0.3	0	0.9	0	0.2	0	5.5	3	15.1
	計	2	4.8	8	32.6	5	13.1	1	30.3	26	88.8
合計	365	697.0	436	710.0	30	117.5	11	115.3	397	444.5	

注) 平年値は平成13~22年の誘殺数から求めた。

付表3)フェロモントラップによる害虫誘殺状況

モモシンクイガ

月 半旬	紀の川市粉河 (モモ園)		紀の川市 桃山町元 (モモ園)		紀の川市杉原 (ナシ園)		紀の川市東野 (ナシ園)		かつらぎ町 東洪田 (モモ園)		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	前年	
4	1	0	0.0	0	0.0	0	—	0	—	0	—
	2	0	0.0	0	0.0	0	—	0	—	0	—
	3	0	0.0	0	0.0	0	—	0	—	0	—
	4	0	0.0	0	0.0	0	—	0	—	0	—
	5	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	—	0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	—	0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	1	2
	6	0	0.1	0	0.0	0	0	0	0	1	1
	計	0	0.1	0	0.0	0	0	0	0	2	3
6	1	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	3	1
	2	0	0.9	0	0.0	0	0	0	0	3	1
	3	0	0.4	0	0.0	0	0	0	0	3	0
	4	0	0.7	0	0.0	0	0	0	0	4	10
	5	0	0.3	0	0.0	0	0	0	0	2	7
	6	0	0.1	0	0.0	0	1.5	0	0	7	3
	計	0	2.4	0	0.0	0	1.5	0	0	22	22
7	1	0	0.0	0	0.0	1	1	0	0	4	0
	2	0	0.0	0	0.0	1	1.5	0	0	0	0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	4	1
	4	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	2	0
	5	0	0.2	0	0.0	1	0.5	0	0	0	1
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0	5	2
	計	0	0.2	0	0.0	3	3.5	0	0	15	4
8	1	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0	0	1
	2	0	0.1	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0.0	0	0.2	0	0	0	0	0	0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0.1	0	0.2	0	0.5	0	0	0	1
9	1	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
10	1	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
合計	0	2.8	0	0.2	3	5.5	0	0	39	30	

供試トラップ : 1CTトラップ(～2006年)、SETトラップ(2007年～)
 紀の川市粉河の平年値は平成10～14年、平成18～22年の平均
 紀の川市桃山町元の平年値は平成18～22年の平均
 紀の川市杉原、紀の川市東野の平年値は平成21～22年の平均。
 かつらぎ町東洪田は平成22年から調査を開始した。

付表4) 黄色粘着トラップによる害虫誘殺状況
かき・もも研究所(紀の川市粉河)

月 半旬	チャノキイロアザミウマ		カキクダアザミウマ		
	本年	平年	本年	平年	
4	1	0	0.5	0	0.7
	2	3	0.5	6	0.7
	3	1	0.1	5	1.0
	4	3	0.0	5	2.2
	5	1	0.0	0	0.7
	6	0	1.5	2	1.3
	計	8	2.6	18	6.5
5	1	0	1.9	1	1.2
	2	0	2.0	1	1.1
	3	0	2.1	1	0.2
	4	6	4.4	0	1.0
	5	3	5.1	0	1.1
	6	10	3.8	0	9.2
	計	19	19.3	3	13.8
6	1	3	2.1	0	14.8
	2	5	3.0	0	27.7
	3	7	7.0	1	31.9
	4	4	14.6	0	24.7
	5	20	11.8	5	9.0
	6	26	12.0	6	4.2
	計	65	50.5	12	112.3
7	1	36	23.9	6	1.4
	2	23	32.2	4	1.0
	3	32	18.9	2	1.2
	4	34	23.8	0	1.3
	5	34	15.2	2	0.2
	6	51	25.1	1	0.1
	計	210	137.2	15	5.1
8	1	89	28.9	2	0.2
	2	59	19.1	0	0.2
	3	91	24.0	2	0.3
	4	76	24.1	3	0.0
	5	75	27.2	3	0.0
	6	36	27.4	2	0.0
	計	426	148.0	12	0.7
9	1	18	20.8	1	0.0
	2	11	22.7	1	0.1
	3	19	21.1	0	0.0
	4	12	19.4	1	0.1
	5	4	18.7	0	0.2
	6	3	15.9	0	0.1
	計	67	116.7	3	0.5
10	1	1	10.9	0	0.0
	2	0	5.1	1	0.0
	3	0	2.1	0	0.0
	4	0	1.0	0	0.0
	5	0	0.6	1	0.0
	6	0	0.3	0	0.0
	計	1	20.0	2	0.0
合計	796	494.3	65	138.9	

注) 20×20cmの黄色粘着板1基当たりの表裏合計の虫数を示す。
平年値は平成13～22年までの平均を示す。

4) ウ メ

(1) 生育状況

品種	開花期			発芽期	収穫期*		
	始期	最盛期	終期		始期	最盛期	終期
南高	2/7	2/20	3/10	3/18	6/15	6/20	6/27

*収穫期は青ウメでの時期

(2) 黒星病

果実発病調査

調査項目	調査月日			
	5月12日	5月22日	6月1日	6月30日
発病果率%	7.2	81.0	98.8	100.0
発病度	1.3	28.0	66.4	82.4

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

摘要：果実での初発は5月中旬で、6月上旬にかけて急激に増加し、6月1日には甚発生となった。

新梢発病調査

調査項目	調査月日		
	6月21日	7月21日	10月25日
発病新梢率%	0.8	68.0	66.0

注) 品種：南高 5樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

摘要：新梢での初発は6月下旬で、7月下旬にかけて増加した。その後、新たな発病はほとんど認められなかった。

(3) かいよう病

果実発病調査

調査項目	果実発病		
	4月22日	5月2日	5月22日
発病率%	0.8	2.8	4.0
発病度	0.1	0.5	1.0

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

摘要：果実での初発は4月下旬であった。その後、5月下旬にかけてやや増加したが、発病果率は4.0%と低かった。2年生枝の潜伏越冬病斑は認められなかった。

新梢発病調査

調査項目	調査月日		
	7月11日	8月11日	10月25日
発病新梢率%	3.2	8.8	9.0

注) 品種：南高 5樹、1樹50新梢(徒長枝)調査(無防除)

摘要：新梢での発病は7月中旬から認められ、8月中旬にかけて増加した。その後、新たな発病はほとんど認められなかった。

(4) すず斑病

果実発病調査

調査項目	調査月日			
	6月1日	6月10日	6月21日	6月30日
発病果率%	15.2	66.8	97.8	100.0
発病度	5.2	40.6	71.4	74.3

注) 品種：南高 5樹、1樹100果調査(無防除)

摘要：初発は6月上旬で、6月下旬にかけて急激に増加し、6月21日には甚発生となった。

(5) ハダニ類

発生状況調査

調査月日	100葉あたり 雌成虫数	調査月日	100葉あたり 雌成虫数
4. 15	1.4	8. 5	0.0
20	1.0	10	0.0
25	1.5	16	0.0
5. 2	0.5	19	0.0
6	0.5	26	0.0
10	0.3	9. 1	0.0
16	0.8	5	0.0
20	0.7	9	0.0
25	0.7	15	0.0
30	0.1	20	0.1
6. 6	0.2	26	0.2
10	0.1	30	0.0
16	0.0	10. 5	0.0
21	0.0	11	0.0
24	0.0	17	0.1
30	0.0	20	0.0
7. 6	0.2	26	0.1
11	0.4	11. 1	0.3
7. 15	0.1	4	0.0
21	0.0	11	0.0
25	0.0	15	0.0
8. 1	0.1		

注) 調査地点：うめ研究所内 品種：南高 5樹平均 無防除

摘要：調査開始時の4月中旬には寄生しており、その後の気象条件により増加することなく、発生期間を通じて極小発生に推移した。

(6) カメムシ類

誘殺状況調査 (病害虫防除所みなべ駐在 100W水銀灯 1本)

調査時期 月・半月	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	前記3種の 合計
4. 1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	0	1	0	1
5. 1	0	0	0	0
2	10	29	0	39
3	5	19	0	24
4	7	16	0	23
5	10	75	1	86
6	3	64	0	67
6. 1	22	45	2	69
2	7	25	0	32
3	6	24	1	31
4	18	63	2	83
5	104	196	5	305
6	74	44	15	133
7. 1	47	18	15	80
2	74	13	34	121
3	21	7	25	53
4	64	4	31	99
5	19	3	7	29
6	30	15	28	73
8. 1	45	23	19	87
2	109	50	127	286
3	152	91	243	486
4	193	128	309	630
5	310	96	186	592
6	437	108	203	748
9. 1	329	82	54	465
2	2140	218	157	2515
3	2688	293	96	3057
4	1324	256	21	1601
5	43	21	0	64
6	399	332	15	746
10. 1	7	43	0	50
2	71	319	0	390
3	8	148	0	156
4	1	28	0	29
5	1	126	0	127
6	0	18	0	18
11. 1	0	14	0	14
2	0	1	0	1
3	0	2	0	2
4	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	0	0	0	0

摘要：チャバネカメムシは5月2半月から10月5半月まで誘殺され、新成虫が9月2・3半月をピークに極めて多く誘殺された。

ツヤカメムシは4月6半月から11月3半月まで誘殺され、新成虫が9月6半月と10月2半月をピークに長期間に多く誘殺された。

(7) ウメシロカイガラムシ

歩行幼虫発生状況調査（両面テープトラップによる）

調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日	調査時期 月・半旬	頭/トラップ/日
4. 1	0.0	7. 1	12.2
2	0.0	2	6.3
3	0.0	3	0.7
4	0.0	4	0.4
5	0.0	5	0.0
6	16.0	6	0.0
5. 1	39.3	8. 1	0.0
2	6.6	2	0.0
3	0.3	3	0.0
4	0.1	4	0.0
5	0.6	5	0.0
6	0.2	6	2.0
6. 1	0.3	9. 1	0.8
2	0.0	2	0.2
3	0.0	3	0.2
4	0.0	4	0.0
5	0.0	5	0.0
6	0.0	6	0.0

注) 調査地点：うめ研究所内 5トラップ平均

摘要：第1世代は4月6半旬から6月1半旬まで、第2世代は7月1半旬から7月4半旬まで、第3世代は8月6半旬から9月3半旬までの発生であった。それぞれの世代の発生ピークは5月1半旬、7月1半旬、8月6半旬であった。

(8) アメリカシロヒトリ

雄成虫誘殺状況調査（フェロモントラップによる）

調査時期 月・半旬	頭/トラップ°	調査時期 月・半旬	頭/トラップ°
5. 1	19	7. 4	150
2	20	5	37
3	88	6	20
4	66	8. 1	15
5	15	2	7
6	7	3	10
6. 1	1	4	15
2	0	5	17
3	1	6	29
4	0	9. 1	34
5	0	2	1
6	6	3	4
7. 1	1	4	1
2	8	5	0
3	33	6	0

注) 調査地点：みなべ町西本庄現地

摘要：第1世代は5月1半旬から6月3半旬、第2世代は6月6半旬から8月1半旬まで、第3世代は8月3半旬から9月4半旬までの発生であった。第1、第2、第3世代の発生ピークはそれぞれ5月3半旬、7月4半旬、9月1半旬であった。

2.巡回調査結果

1)カンキツ
(1)6月調査
(15～16日)

2011年

品種	地区	調査園数	黒点病		灰色かび病	かいよう病				ミカンハ			イロアザ	ミウマ	アブラムシ	ハナムグリ	カミキリ	ゴマダラ	ナメクジ	コハン症
			発病果率	発病度	発病果率	発病果率	発病度	発病葉率	発病度	寄生葉率	100葉♀成虫	春葉被害度	寄生果率	100果当寄生虫	寄生枝率	被害果率	食害	成虫数	被害果率	発生果率
ウンシュウ	下津	8	1.3	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	121	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	1.1	0.2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	8.1	57	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	0.8	0.1	3.3	0.0	0.0	1.1	0.3	7.5	14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	1.7	0.4	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.7	25	0.0	0.0	0.0	3.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
ウンシュウ平均	34	1.2	0.3	1.7	0.0	0.0	0.3	0.1	9.6	56	0.0	0.0	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
ほ場率			20.6		35.3	0.0		5.9		17.6		0.0		14.7	2.9		0.0		0.0	0.0

ハッサク	平均	5	10.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		60.0		0.0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0		0.0		0.0
ナツダイダイ	平均	7	1.9	0.3	1.0	1.0	0.1	11.4	2.8	8.1	14	0.0	0.0	4.8	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		28.6		28.6	28.6		100.0		14.3		0.0		14.3	14.3		0.0		0.0
ネーブル	平均	3	3.3	0.5	3.3	2.2	0.3	16.2	5.7	0.0	0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		66.7		66.7	33.3		100.0		0.0		0.0		33.3	0.0		0.0		0.0
日カン	平均	4	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	2.0	0.5	18.3	36	0.0	0.0	0.8	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		0.0		0.0	25.0		50.0		25.0		0.0		25.0	50.0		0.0		0.0
キヨミ	平均	7	7.6	1.1	1.9	0.0	0.0	0.4	0.2	0.5	0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		42.9		42.9	0.0		14.3		14.3		0.0		14.3	0.0		0.0		0.0
シラヌイ	平均	5	2.0	0.5	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		20.0		20.0	0.0		0.0		0.0		0.0		20.0	0.0		0.0		0.0
中晩柑平均	平均	31	2.4	0.4	0.9	0.3	0.1	1.9	0.7	2.5	5	0.0	0.0	0.5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		35.5		25.8	12.9		41.9		9.7		0.0		16.1	9.7		0.0		0.0
柑橘総平均	平均	65	1.7	0.3	1.3	0.2	0.1	1.0	0.3	6.2	32	0.0	0.0	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		27.7		30.8	6.2		23.1		13.8		0.0		15.4	6.2		0.0		0.0

(2)7月調査
(12~13日)

2011年

品種	地区	調査園数	黒点病		そうか病		かいよう病				ミカンハダニ		ミウマ	チャノキイロアザ	ハナムグリ	カミキリ	ゴマダラ	ナメクジ	コハン症	
			発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	寄生葉率	100葉♀成虫数	寄生率	100果当寄生虫	被害果率	食害	成虫数	被害果率
ウンシュウ	下津	8	0.0	0.0	2.1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.3	68	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.6	48	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	5.8	1.0	6.3	3.2	0.8	0.2	1.7	0.3	10.8	29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	17.2	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.7	13.3	67	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウンシュウ平均		34	4.6	0.8	2.0	1.0	0.2	0.1	1.0	0.2	15.8	52	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ほ場率			20.6		5.9		2.9		8.8		38.2		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0

ハッサク	平均	5	4.7	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.3	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		40.0		0.0		0.0		40.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
ナツダイダイ	平均	7	0.5	0.1	0.5	0.1	6.7	2.0	22.8	4.6	11.9	36	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		14.3		14.3		42.9		85.7		14.3		0.0		0.0		0.0		0.0
ネーブル	平均	3	25.6	7.8	0.0	0.0	4.4	1.6	30.5	6.6	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		100.0		0.0		66.7		100.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
イロカン	平均	3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.4	4.0	6.8	1.4	11.1	21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		0.0		0.0		66.7		66.7		33.3		0.0		0.0		0.0		0.0
キヨミ	平均	7	6.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.5	24.8	148	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		42.9		0.0		0.0		14.3		42.9		0.0		0.0		0.0		0.0
シラヌイ	平均	5	1.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.3	0.7	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		20.0		0.0		0.0		40.0		20.0		0.0		0.0		0.0		0.0
中晩柑平均	平均	30	4.3	1.0	0.0	0.0	1.9	0.6	4.5	1.0	7.0	37	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		33.3		3.3		23.3		53.3		20.0		0.0		0.0		0.0		0.0
柑橘総平均	平均	64	4.5	0.9	1.0	0.5	1.0	0.3	2.6	0.5	11.7	45	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		26.6		4.7		12.5		29.7		29.7		0.0		0.0		0.0		0.0

(3)8月調査
(18~19日)

2011年

品種	地区	調査園数	黒点病		そうか病		かいよう病				ミカンハ			ミウマ		イロアザ		チヤノキ		ハナムグリ		カミキリ		ゴマダラ		ナメクジ		コハン症	
			発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	寄生葉率	100当雌虫	春葉被害度	寄生果率	100当寄生中	被害果率	食害	成虫数	被害果率	発生果率	被害果率	発生果率					
ウンシュウ	下津	8	18.8	2.9	1.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8	47	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	5.6	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.2	32	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	10.8	1.5	6.3	1.6	1.7	0.6	2.3	0.4	40.4	171	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	32.8	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.6	46.7	124	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウンシュウ平均		34	14.7	2.2	1.8	0.4	0.4	0.1	1.1	0.2	28.7	85	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ほ場率			52.9		5.9		2.9		11.8		61.8		2.9		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	

ハッサク	平均	5	22.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	34.0	81	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		60.0		0.0		0.0		0.0		60.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
ナツダイダイ	平均	7	1.4	0.2	0.0	0.0	19.0	6.7	23.1	5.6	30.0	62	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		28.6		0.0		71.4		100.0		71.4		0.0		14.3		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
ネーブル	平均	3	28.9	6.3	0.0	0.0	3.3	1.4	26.7	4.4	25.6	123	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		100.0		0.0		33.3		100.0		33.3		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
イロカン	平均	4	8.3	2.4	0.0	0.0	13.3	6.2	10.3	3.6	30.0	78	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		50.0		0.0		50.0		75.0		75.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
キヨミ	平均	7	29.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.7	6.2	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		57.1		0.0		0.0		42.9		28.6		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
シラヌイ	平均	5	3.3	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3	1.6	7.3	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		60.0		0.0		0.0		80.0		20.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
中晩柑平均		31	11.0	2.7	0.0	0.0	2.0	0.9	5.7	1.3	8.9	28	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		54.8		0.0		25.8		64.5		48.4		0.0		3.2		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
柑橘総平均		65	12.9	2.5	0.9	0.2	1.2	0.5	3.3	0.7	19.3	57	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		53.8		3.1		13.8		36.9		55.4		1.5		1.5		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0

(4)10月調査 病害
(13、17日)

2011年

品種	地区	調査園数	黒点病		そうか病		かいよう病				褐色腐敗病	緑かび病
			発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病葉率	発病度	発病果率	発病果率
ウンシュウ	下津	8	27.5	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	12.5	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	8	19.2	5.5	5.4	2.3	0.8	0.7	1.9	0.4	0.0	0.0
	西牟婁	6	32.8	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.5	0.0	0.0
ウンシュウ平均		34	21.2	7.3	1.3	0.5	0.2	0.2	0.9	0.2	0.0	0.0
ほ場率			79.4		2.9		2.9		8.8		0.0	0.0

ハッサク	平均	5	9.3	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		60.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
ナツダイダイ	平均	7	2.9	1.0	0.0	0.0	23.8	7.6	6.4	2.7	0.0	0.0
	ほ場率		42.9		0.0		71.4		85.7		0.0	0.0
ネーブル	平均	3	23.3	10.0	0.0	0.0	26.7	9.5	21.5	4.3	0.0	0.0
	ほ場率		100.0		0.0		100.0		100.0		0.0	0.0
イロカン	平均	4	9.2	3.0	0.0	0.0	17.5	2.6	4.5	1.0	0.0	0.0
	ほ場率		50.0		0.0		75.0		75.0		0.0	0.0
キヨミ	平均	7	14.8	7.0	0.0	0.0	2.4	1.4	1.6	0.3	0.0	0.0
	ほ場率		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
シラヌイ	平均	5	6.7	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0
	ほ場率		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0
中晩柑平均	平均	31	7.8	3.2	0.0	0.0	5.4	1.6	3.1	0.6	0.0	0.0
	ほ場率		35.5		0.0		35.5		38.7		0.0	0.0
柑橘総平均	平均	65	14.8	5.3	0.7	0.3	2.7	0.8	1.9	0.4	0.0	0.0
	ほ場率		58.5		1.5		18.5		23.1		0.0	0.0

(4)10月調査 虫害
(13、17日)

2011年

品種	地区	ミカンハ			チャノキ アザミウマ				ハナムグリ	ヤノネカイ ガラムシ	夜蛾	コナカイガ ラムシ	ゴマダラ カミキリ	ナメクジ	ヤニ果	コハン症
		寄生葉率	100 葉当 成虫	春葉 被害度	果頂部		果梗部									
					被害果率	被害度	被害果率	被害度								
ウンシュウ	下津	2.9	6	52.3	13.3	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	0.0	0	37.9	3.3	1.2	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	日高	0.0	0	40.5	9.6	5.2	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	0.0	0	50.8	7.2	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウンシュウ平均		0.7	1	44.2	7.8	3.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ほ場率		8.8			52.9		5.9		0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

ハッサク	平均	0.0	0	18.4	36.0	10.9	6.7	3.3	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0
	ほ場率	0.0			80.0		40.0		0.0	20.0	0.0	0.0	0.0		20.0	0.0	0.0
ナツダイダイ	平均	0.5	0	33.7	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ほ場率	14.3			0.0		14.3		0.0	14.3	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
ネーブル	平均	0.0	0	56.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ほ場率	0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
イロカン	平均	0.0	0	66.5	1.7	0.3	0.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	
	ほ場率	0.0			25.0		25.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	25.0
キヨミ	平均	2.4	5	28.3	8.1	1.7	2.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.5	
	ほ場率	0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
シラヌイ	平均	0.0	0	36.3	7.3	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ほ場率	0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
中晩柑平均	平均	0.5	1	26.3	3.2	0.7	0.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3	
	ほ場率	3.2			16.1		12.9		0.0	6.5	0.0	0.0	0.0		3.2	0.0	3.2
柑橘総平均	平均	0.6	1	35.7	5.6	2.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	
	ほ場率	6.2			35.4		9.2		0.0	3.1	1.5	0.0	0.0		1.5	0.0	1.5

2)かき

(1)5月調査(11、12日)

「富有」

地区名	園番号	調査場所		炭そ病 発病新梢率 %	うどんこ病		灰色かび病 発病新梢率 %	フジコナ *1 寄生花蕾率 %	カキクダ *2 被害葉率 %	マイマイガ 被害葉率 %	ハダニ *3 被害葉率 %
		市町村	字		発病葉率 %	発病度					
伊都	1	橋本市	柏原	0	0	0.0	0	0	0	2	1
	2		市脇	0	0	0.0	0	0	0	1	0
	3		有岡	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	4		山田	0	0	0.0	0	0	0	2	0
	5	九度山町	広良	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	6		入郷	0	0	0.0	0	0	1	0	0
	7	橋本市	嵯峨谷	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	8	かつらぎ町	広浦	0	0	0.0	0	2	1	0	0
	9		丁ノ町	0	0	0.0	0	0	0	0	1
	10		西飯降	0	0	0.0	0	2	0	2	0
	11		西渋田	0	0	0.0	0	0	0	0	0
那賀	1	紀の川市	野上	0	0	0.0	0	6	0	0	3
	2		最上月	- ^{*5}	-	-	-	-	-	-	-
	3		調月	0	0	0.0	0	4	0	1	0
海草	1	紀美野町	赤木	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	2		鎌滝	0	0	0.0	0	12	0	0	0
	3		三尾川	0	0	0.0	0	0	0	0	0
平均				0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.1	0.5	0.3
発生園数				0	0	0	0	5	2	5	3
園率(%)				0.0	0.0	0.0	0.0	31.3	12.5	31.3	18.8

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	調査場所		品種	うどんこ病		灰色かび病 発病新梢率 %	フジコナ *1 寄生花蕾率 %	カキクダ *2 被害葉率 %	チャノキ *4 被害果率 %	マイマイガ 被害葉率 %	ハダニ *3 被害葉率 %	ハダニ *3 被害花蕾率 %
		市町村	字		発病葉率 %	発病度							
伊都	1	橋本市	柏原	刀根	0	0.0	0	4	0	0	3	0	0
	2		市脇	平核無	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	3		有岡	刀根	0	0.0	2	0	0	0	0	0	0
	4		南馬場	平核無	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	5	九度山町	広良	刀根	0	0.0	0	8	0	0	1	0	0
	6		入郷	刀根	0	0.0	2	2	0	0	0	0	0
	7	橋本市	嵯峨谷	平核無	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	8	かつらぎ町	広浦	平核無	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	9		柏木	刀根	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	10		丁ノ町	平核無	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	11		兄井	平核無	0	0.0	0	0	0	0	1	0	0
	12		西渋田	刀根	0	0.0	0	4	0	0	0	0	0
那賀	1	紀の川市	野上	刀根	0	0.0	0	2	0	0	0	0	0
	2		最上月	平核無	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	3		調月	平核無	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
海草	1	紀美野町	赤木	平核無	0	0.0	0	0	0	0	1	0	0
	2		鎌滝	刀根	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
平均				0.0	0.0	0.3	1.3	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	
発生園数				0	0	2	5	0	0	4	0	0	
園率(%)				0.0	0.0	12.5	31.3	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	

100葉、50果、50新梢調査

*1：フジコナカイガラムシ

*2：カキクダアザミウマ

*3：カンザワハダニ

*4：チャノキイロアザミウマ

*5：園番号那賀2は霜害のため調査を中止した。

(2)6月調査(13、15日)

「富有」

地区名	園番号	調査場所		炭そ病 発病果率	うどんこ病		灰色かび病		ヘタムシ 被害果率	フジコナ 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カキクダ 被害葉率	さび果症 被害果率
		市町村	字		発病葉率	発病度	発病果率	発病葉率					
伊都	1	橋本市	柏原	0	0	0.0	52	0	0	0	6	0	0
	2		市脇	0	0	0.0	32	0	0	0	0	0	0
	3		有岡	0	0	0.0	74	0	0	2	0	0	0
	4		山田	0	0	0.0	34	0	0	0	0	0	0
	5	九度山町	広良	0	0	0.0	62	0	0	0	0	0	0
	6		入郷	0	1	0.1	74	0	0	0	0	0	0
	7	橋本市	嵯峨谷	0	0	0.0	6	0	0	0	0	0	0
	8	かつらぎ町	広浦	0	0	0.0	40	0	0	0	4	1	0
	9		丁ノ	0	1	0.1	42	0	0	0	0	0	0
	10		西飯降	0	5	0.7	60	0	0	2	4	0	0
	11		西洪田	0	0	0.0	44	0	0	0	6	0	0
那賀	1	紀の川市	野上	0	4	0.4	58	1	0	0	0	0	0
	2		切畑	0	3	0.3	14	0	0	0	0	0	0
	3		調月	0	0	0.0	46	0	0	14	2	0	0
海草	1	紀美野町	赤木	0	2	0.2	52	1	0	14	0	0	0
	2		鎌滝	0	0	0.0	50	1	0	30	0	0	0
	3		三尾川	0	0	0.0	72	0	0	0	2	1	0
平均				0.0	0.9	0.1	47.8	0.2	0.0	3.7	1.4	0.1	0.0
発生園数				0	6		17	3	0	5	6	2	0
園率(%)				0.0	35.3		100	17.6	0.0	29.4	35.3	11.8	0.0

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	調査場所		炭そ病 発病果率	うどんこ病		灰色かび病		フジコナ 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カキクダ 被害葉率	チャノキ 被害果率	ハダニ 被害果率
		市町村	字		発病葉率	発病度	発病果率	発病葉率					
伊都	1	橋本市	柏原	0	0	0.0	6	0	0	2	0	0	0
	2		市脇	0	0	0.0	6	0	0	0	0	0	0
	3		有岡	0	0	0.0	2	0	0	0	0	0	0
	4		南馬場	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	5	九度山町	広良	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	6		入郷	0	0	0.0	8	0	0	0	0	0	0
	7	橋本市	嵯峨谷	0	0	0.0	2	0	0	4	0	0	0
	8	かつらぎ町	広浦	0	1	0.1	6	0	0	2	0	0	0
	9		柏木	0	0	0.0	6	0	0	2	0	0	0
	10		丁ノ	0	1	0.1	0	0	0	0	0	0	0
	11		兄井	0	0	0.0	6	1	0	0	0	0	0
	12		西洪田	0	0	0.0	2	0	0	0	0	0	0
那賀	1	紀の川市	野上	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	2		切畑	0	0	0.0	4	0	0	0	0	0	0
	3		調月	0	0	0.0	6	0	0	0	0	0	0
海草	1	紀美野町	赤木	0	0	0.0	8	0	0	0	0	0	0
	2		鎌滝	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
平均				0.0	0.1	0.01	3.7	0.1	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
発生園数				0	2		12	1	0	4	0	0	0
園率(%)				0.0	11.8		70.6	5.9	0.0	23.5	0.0	0.0	0.0

100葉、50果調査

*1 : カキノヘタムシガ

*2 : フジコナカイガラムシ

*3 : カキクダアザミウマ

*4 : チャノキイロアザミウマ

*5 : カンザウハダニ

(3)7月調査(11、14日)

「富有」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		すす点病 発病果率	ヘタムシ *1 被害果率	フジコナ *2 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カキクダ *3 被害果率	コガシラ *4 被害果率	さび果症 被害果率	カメムシ類 被害果率
			発病葉率	発病度								
		%	%		%	%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	0	0	10	4	0	0	0	0
	2	0	2	0.2	0	0	0	4	0	0	4	0
	3	0	1	0.1	2	0	4	2	0	0	2	0
	4	0	0	0.0	0	0	0	0	0	6	0	0
	5	0	0	0.0	0	0	4	0	0	0	0	0
	6	0	8	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	0	0	0.0	18	0	0	0	0	0	0	0
	8	0	9	1.9	2	0	18	2	0	2	0	0
	9	0	2	0.2	2	0	2	0	0	0	0	0
	10	0	41	7.2	0	0	18	4	0	2	0	0
	11	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0
那賀	1	0	13	1.5	0	0	30	4	0	0	0	0
	2	0	59	11.2	0	0	14	0	0	0	0	0
	3	0	41	7.1	0	0	6	2	0	0	0	0
海草	1	0	11	1.1	0	0	30	0	0	0	0	0
	2	0	3	0.3	0	0	44	4	0	0	0	0
	3	0	0	0.0	24	0	10	0	0	0	0	0
平均		0.0	11.2	1.9	2.8	0.0	11.2	1.5	0.0	0.6	0.4	0.0
発生園数		0	11		5	0	12	8	0	3	2	0
園率(%)		0.0	64.7		29.4	0.0	70.6	47.1	0.0	17.6	11.8	0.0

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		すす点病 発病果率	フジコナ *2 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カキクダ *3 被害果率	チャノキ *5 被害果率	ハダニ *6 被害果率	カメムシ類 被害果率
			発病葉率	発病度							
		%	%		%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	7	0	0	0.0	2	0	0	0	0	0	0
	8	0	5	1.2	0	2	0	0	0	0	0
	9	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	10	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	11	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	12	0	0	0.0	0	4	0	0	0	0	0
那賀	1	0	0	0.0	0	2	0	0	0	0	0
	2	0	12	1.8	0	2	2	0	0	0	0
	3	0	6	1.1	0	4	4	0	24	2	0
海草	1	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0.0	0	2	0	0	0	0	0
平均		0.0	1.4	0.2	0.1	0.9	0.4	0.0	1.4	0.1	0.0
発生園数		0	3		1	6	2	0	1	1	0
園率(%)		0.0	17.6		5.9	35.3	11.8	0.0	5.9	5.9	0.0

100葉、50果調査

- *1 : カキノヘタムシガ
- *2 : フジコナカイガラムシ
- *3 : カキクダアザミウマ
- *4 : コガシラアワフキ
- *5 : チャノキイロアザミウマ
- *6 : カンザウハダニ

(4)8月調査(11、12日)

「富有」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		角斑落葉病 発病葉率	円星落葉病 発病葉率	すす点病 発病果率	ヘタムシ ^{*1} 被害果率	フジコナ ^{*2} 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	コガシラ ^{*3} 被害果率	さび果症 被害果率	カメムシ類 被害果率
			発病葉率	発病度									
伊都	1	0	0	0.0	0	0	32	6	8	6	0	0	0
	2	0	0	0.0	0	0	12	0	0	0	2	2	0
	3	0	2	0.2	0	0	18	0	12	0	0	8	0
	4	0	1	0.1	0	0	14	0	6	4	2	0	0
	5	0	0	0.0	0	0	2	0	18	2	0	0	0
	6	0	4	0.4	0	0	4	0	0	4	0	0	0
	7	0	1	0.1	0	0	68	0	0	0	0	0	0
	8	0	8	0.8	0	0	40	0	52	0	0	0	0
	9	0	0	0.0	0	0	30	0	8	2	0	0	0
	10	0	64	15.4	0	0	4	0	20	6	0	0	0
	11	0	0	0.0	0	0	0	0	0	16	0	0	0
那賀	1	0	15	1.7	0	0	2	0	40	6	0	0	0
	2	0	55	7.9	0	0	0	0	32	4	0	0	0
	3	0	44	8.6	0	0	8	0	26	0	0	0	0
海草	1	0	8	1.3	0	0	0	0	60	2	0	0	0
	2	0	1	0.1	0	0	2	0	38	8	0	0	0
	3	0	3	0.7	0	0	82	2	4	10	0	0	0
平均	0.0	12.1	2.2	0.0	0.0	18.7	0.5	19.1	4.1	0.2	0.6	0.0	
発生園数	0	12		0	0	14	2	13	12	2	2	0	
園率(%)	0.0	70.6		0.0	0.0	82.4	11.8	76.5	70.6	11.8	11.8	0.0	

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		角斑落葉病 発病葉率	円星落葉病 発病葉率	すす点病 発病果率	フジコナ ^{*2} 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	ヘタムシ ^{*1} 被害果率	チャノキ ^{*4} 被害果率	カメムシ類 被害果率
			発病葉率	発病度								
伊都	1	0	0	0.0	0	0	0	10	0	0	4	2
	2	0	0	0.0	0	0	10	0	2	0	2	0
	3	0	0	0.0	0	0	2	0	0	0	0	0
	4	0	0	0.0	0	0	4	0	0	0	0	0
	5	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0.0	0	0	2	0	2	0	10	0
	7	0	0	0.0	0	0	12	0	0	0	6	0
	8	0	0	0.0	0	0	4	2	0	0	0	0
	9	0	0	0.0	0	0	4	0	0	0	0	0
	10	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	4	0
	11	0	0	0.0	0	0	8	2	0	0	0	0
	12	0	0	0.0	0	0	0	6	6	0	2	0
那賀	1	0	3	0.3	0	0	0	2	0	0	0	0
	2	0	2	0.2	0	0	0	6	0	0	0	0
	3	0	4	0.4	0	0	2	8	0	0	32	0
海草	1	0	0	0.0	0	0	0	2	0	0	6	0
	2	0	0	0.0	0	0	6	2	0	0	0	0
平均	0.0	0.5	0.1	0.0	0.0	3.2	2.4	0.6	0.0	3.9	0.0	
発生園数	0	3		0	0	10	9	3	0	8	0	
園率(%)	0.0	17.6		0.0	0.0	58.8	52.9	17.6	0.0	47.1	0.0	

100葉、50果調査

*1 : カキノヘタムシガ

*2 : フジコナカイガラムシ

*3 : コガシラアワフキ

*4 : チャノキイロアザミウマ

(5)9月調査(12、13日)

「富有」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		角斑落葉病		円星落葉病		すす点病 発病果率	ヘタムシ ^{*1} 被害果率	フジコナ ^{*2} 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カメムシ類 被害果率	ヨトウ ^{*3} 被害葉率
			発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度						
		%	%		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	1	0.1	69	19.8	0	0.0	40	12	6	6	0	0
	2	0	0	0.0	11	3.0	0	0.0	18	0	2	4	0	0
	3	0	0	0.0	27	7.5	0	0.0	12	0	8	6	0	2
	4	0	0	0.0	18	3.2	0	0.0	24	0	0	4	0	0
	5	0	0	0.0	7	1.2	0	0.0	12	0	26	0	0	1
	6	0	2	0.4	14	2.8	0	0.0	2	0	14	4	0	1
	7	0	0	0.0	37	10.2	0	0.0	72	2	4	2	0	0
	8	0	6	1.0	22	5.0	0	0.0	64	0	28	4	0	0
	9	0	2	0.2	6	1.2	0	0.0	40	0	2	6	0	2
	10	0	47	9.1	3	0.5	0	0.0	6	0	28	4	0	1
	11	0	1	0.1	38	10.2	0	0.0	0	0	8	8	0	0
那賀	1	0	30	6.7	4	0.7	0	0.0	2	0	48	0	0	0
	2	0	62	13.5	9	2.5	0	0.0	6	2	28	0	0	0
	3	0	44	13.5	4	0.8	0	0.0	20	0	52	2	0	0
海草	1	2	5	0.5	0	0.0	0	0.0	44	0	70	0	0	0
	2	0	2	0.2	1	0.2	0	0.0	2	0	32	2	0	0
	3	2	0	0.0	78	34.5	0	0.0	96	8	20	2	0	0
平均	0.2	11.9	2.7	20.5	6.1	0.0	0.0	27.1	1.4	22.1	3.2	0.0	0.4	
発生園数	2	11		16		0		16	4	16	13	0	5	
園率(%)	11.8	64.7		94.1		0.0		94.1	23.5	94.1	76.5	0.0	29.4	

「平核無」「刀根早生」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率	うどんこ病		角斑落葉病		円星落葉病		すす点病 発病果率	ヘタムシ ^{*1} 被害果率	フジコナ ^{*2} 寄生果率	ハマキムシ類 被害果率	カメムシ類 被害果率	ヨトウ ^{*3} 被害葉率
			発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度						
		%	%		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
伊都	1	0	0	0.0	5	1.0	0	0.0	8	12	2	4	0	0
	2	0	0	0.0	9	1.7	0	0.0	16	0	0	4	0	0
	3	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	2
	4	0	1	0.1	0	0.0	0	0.0	16	0	0	0	0	2
	5	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	6	2	0	0
	6	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0	0	2	0	1
	7	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	40	0	0	0	0	1
	8	0	1	0.1	0	0.0	0	0.0	38	0	0	0	0	1
	9	0	1	0.1	0	0.0	0	0.0	12	0	4	0	0	0
	10	0	0	0.0	3	0.5	0	0.0	6	0	0	2	0	17
	11	0	1	0.1	21	4.8	0	0.0	42	0	0	0	0	0
	12	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	8	0	0	0
那賀	1	0	6	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	2	0	34	11.4	0	0.0	0	0.0	4	0	2	0	0	0
	3	0	9	1.1	10	1.7	0	0.0	28	0	22	0	0	0
海草	1	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0	4	2	0	0
	2	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	48	0	4	4	0	0
平均	0.0	3.1	0.8	2.8	0.6	0.0	0.0	15.4	0.7	3.1	1.2	0.0	1.4	
発生園数	0	7		5		0		13	1	8	7	0	6	
園率(%)	0.0	41.2		29.4		0.0		76.5	5.9	47.1	41.2	0.0	35.3	

100葉、50果調査

*1 : カキノヘタムシガ

*2 : フジコナカイガラムシ

*3 : ハスモンヨトウ

(6)10月調査(12、14日)
「富有」

地区名	園番号	炭そ病 発病果率 %	うどんこ病		角斑落葉病		円星落葉病		すす点病 発病果率 %	ヘタムシ ^{*1} 被害果率 %	フジコナ ^{*2} 寄生果率 %	ハマキムシ類 被害果率 %	カメムシ類 被害果率 %
			発病葉率 %	発病度	発病葉率 %	発病度	発病葉率 %	発病度					
伊都	1	0	1	0.1	80	44.8	84	70.2	50	4	0	12	0
	2	0	0	0.0	25	10.3	20	8.8	32	0	0	0	0
	3	0	4	0.4	42	16.2	29	16.7	14	0	2	2	6
	4	0	0	0.0	31	18.2	46	28.5	16	0	0	12	0
	5	0	2	0.2	8	2.3	1	0.2	4	0	50	4	0
	6	0	5	0.7	30	11.0	8	2.8	2	0	10	6	0
	7	8	0	0.0	61	33.7	46	23.8	90	0	0	4	0
	8	0	17	3.7	51	21.0	3	0.5	88	0	6	4	0
	9	0	2	0.2	59	25.8	12	6.0	46	0	4	6	0
	10	12	65	19.8	18	5.2	1	0.2	20	0	22	8	0
	11	0	0	0.0	44	13.3	2	0.5	0	0	2	16	0
那賀	1	0	51	23.2	29	8.0	4	1.5	12	0	16	4	0
	2	0	70	24.9	31	8.5	5	1.7	6	2	20	4	6
	3	0	63	25.9	35	9.5	1	0.2	24	0	46	0	0
海草	1	2	5	0.5	4	0.7	0	0.0	36	0	48	0	0
	2	2	5	1.2	0	0.0	0	0.0	6	0	20	2	0
	3	0	2	0.2	78	49.5	55	25.8	94	4	22	12	0
平均	1.4	17.2	5.9	36.8	16.4	18.6	11.0	31.8	0.6	15.8	5.6	0.7	
発生園数	4	13		16		15		16	3	13	14	2	
園率(%)	23.5	76.5		94.1		88.2		94.1	17.6	76.5	82.4	11.8	

100葉、50果調査

*1 : カキノヘタムシガ

*2 : フジコナカイガラムシ

3) もも
(1) 4月調査(12日)

地区名 園番号	調査場所		品 種	せん孔細菌病 発病枝率	モモハモグリガ 被害葉率	ナシ ^{*1} 被 害 枝 率	ア ブ ラ ム シ 類 寄 生 新 梢 率	カイガ ラ ム シ 寄 生 枝 率
	市町村	字						
那賀	1	紀の川市	杉原	紅清水	0	0	0	0
	2		遠方	日川白鳳	0	0	0	5
	3		嶋	白鳳	0	0	0	0
	4		長田中	白鳳	0	0	0	0
	5		元	清水白桃	0	0	0	0
	6		市場	清水白桃	0	0	0	0
	7		段	清水白桃	0	0	0	1
	8		段	清水白桃	0	0	0	9
伊都	9	かつらぎ町	兄井	白鳳	0	0	0	0
	10		東浜田	白鳳	0	0	0	0
平均				0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
発生園数				0	0	0	0	3
園率(%)				0.0	0.0	0.0	0.0	30.0

100葉、100枝調査

*1 : ナシヒメシンクイ

*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ

(2) 5月調査(11,12日)

地区名 園番号	調査場所		品 種	せん孔細菌病 発病枝率	うどんこ病 寄生果率	モモハモグリガ 被害葉率	ハダニ類 寄生葉率	ナシ ^{*1} 被 害 枝 率	ア ブ ラ ム シ 類 寄 生 新 梢 率	カイガ ラ ム シ 寄 生 枝 率	コス カ シ バ 被 害 箇 所 数
	市町村	字									
那賀	1	紀の川市	杉原	紅清水	0	0	2	0	0	0	0.3
	2		遠方	日川白鳳	0	0	0	0	0	2	1.7
	3		嶋	白鳳	0	0	0	0	0	0	0.7
	4		長田中	白鳳	2	0	0	0	0	2	0.5
	5		元	清水白桃	0	0	0	0	2	0	0.7
	6		市場	清水白桃	0	0	0	0	0	4	3.3
	7		段	清水白桃	0	0	0	5	0	0	16.0
	8		段	清水白桃	1	0	0	1	0	0	16
伊都	9	かつらぎ町	兄井	白鳳	0	0	0	0	0	0	0.0
	10		東浜田	白鳳	0	0	0	6	0	6	0.5
平均				0.3	0.0	0.0	1.4	0.0	0.2	3.2	2.5
発生園数				2	0	0	4	0	1	6	9
園率(%)				20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	10.0	60.0	90.0

100葉、50果、50新梢 コスカシバ: 樹高1m以下調査

*1 : ナシヒメシンクイ

*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ

(3)6月調査(13、15日)

地区名	園番号	せん孔細菌病		モモハモグリガ 被害葉率	ハダニ類 寄生葉率	ナシヒメ ^{*1} 被害枝率	アブラムシ類 寄生新梢率	カイガラムシ ^{*2} 寄生枝率	カメムシ類 被害果率
		発病葉率	発病果率						
		%	%	%	%	%	%	%	%
那賀	1	0	-	0	7	0	0	0	0
	2	0	-	0	6	0	0	0	0
	3	0	-	0	0	0	0	0	0
	4	1	-	0	32	0	0	0	0
	5	3	0	0	8	0	0	0	0
	6	3	0	0	13	0	0	0	0
	7	0	0	0	37	0	0	0	0
	8	11	0	0	2	0	0	0	0
伊都	9	0	-	0	41	0	0	0	0
	10	2	-	0	13	0	0	0	0
平均		2.0	0.0	0.0	15.9	0.0	0.0	0.0	0.0
発生園数		5	0	0	9	0	0	0	0
園率(%)		50.0	0.0	0.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査 - は有袋のため未調査

*1 : ナシヒメシンクイ

*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ

(4)7月調査(11、14日)

地区名	園番号	せん孔細菌病		黒星病 発病果率	灰星病 被害果率	モモハモグリガ 被害葉率	ハダニ類 寄生葉率	ナシヒメ ^{*1} 被害枝率	アブラムシ類 寄生新梢率	カイガラムシ ^{*2} 寄生枝率	カメムシ類 被害果率
		発病葉率	発病果率								
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
那賀	1	3	0	0	0	0	80	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0
	3	2	2	0	0	0	82	0	0	0	0
	4	10	12	0	0	0	71	4	0	0	0
	5	12	0	0	0	0	29	0	0	0	0
	6	5	2	0	0	0	32	2	0	0	0
	7	0	0	0	0	0	92	2	0	0	0
	8	29	6	0	0	0	60	0	0	0	0
伊都	9	0	0	0	0	0	76	2	0	0	0
	10	0	0	0	0	0	21	6	0	0	0
平均		6.1	2.2	0.0	0.0	0.0	57.2	1.6	0.0	0.0	0.0
発生園数		6	4	0	0	0	10	5	0	0	0
園率(%)		60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	100	50.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

*1 : ナシヒメシンクイ

*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ

(5)8月調査(11、12日)

地区名 園番号	せん孔細菌病	モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシ ^{*1} 被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ ^{*2} 寄生枝率
	%	%	%	%	%	%
那	1	2	0	99	14	0
	2	1	0	87	28	0
	3	1	0	93	14	0
	4	9	0	98	28	0
賀	5	7	0	34	40	0
	6	4	2	72	68	0
	7	0	0	64	36	0
	8	48	0	64	14	0
伊都	9	2	0	65	28	0
	10	0	0	21	22	0
平均	7.4	0.2	69.7	29.2	0.0	0.4
発生園数	8	1	10	10	0	1
園率(%)	80	10.0	100	100	0.0	10.0

100葉、50果、50新梢調査。

*1 : ナシヒメシンクイ

*2 : クワシロカイガラムシ、ウメシロカイガラムシ

5) ウメ

(1) 4月調査(7、8日)

調査品種：南高

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		すす斑病	アブラムシ類	ウメカガラムシ	その他の病害虫等
	園No.	字名	発病枝率	病斑数 /発病枝	発病枝率	病斑数 /発病枝	発病枝率	被害 新梢率	寄生 枝率	
みなべ町	1	東岩代1	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	10.0	
みなべ町	2	東岩代2	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	4.0	
みなべ町	3	東岩代3	2.0	1.0	0.0	0.0	90.0	0.0	0.0	せん孔病有、鱗翅目被害果、葉
みなべ町	4	東本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	0.0	26.0	ツノロウムシ
みなべ町	5	東本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	46.0	0.0	2.0	
みなべ町	6	東本庄3	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	0.0	2.0	せん孔病有
みなべ町	7	西本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	0.0	6.0	
みなべ町	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	44.0	0.0	12.0	
みなべ町	9	井戸が谷1	0.0	0.0	0.0	0.0	74.0	0.0	0.0	
みなべ町	10	井戸が谷2	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	2.0	鱗翅目被害果、クワゴマミノムシ
みなべ町	11	埴田1	2.0	2.0	0.0	0.0	94.0	0.0	2.0	
みなべ町	12	埴田2	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	0.0	0.0	せん孔病有
みなべ町	13	晩稲1	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	0.0	0.0	
みなべ町	14	晩稲2	0.0	0.0	0.0	0.0	72.0	0.0	22.0	
みなべ町	15	晩稲3	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	0.0	24.0	ミノムシ
みなべ町	16	晩稲4	0.0	0.0	0.0	0.0	74.0	0.0	0.0	
みなべ町	17	岩代1	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0	0.0	20.0	こうやく病少
みなべ町	18	岩代2	0.0	0.0	0.0	0.0	72.0	0.0	16.0	
みなべ町	19	高城1	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	4.0	
みなべ町	20	高城2	0.0	0.0	0.0	0.0	68.0	0.0	2.0	
みなべ町	21	清川1	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	14.0	モモノハナムシ被害葉
みなべ町	22	清川2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	6.0	
田辺市	1	下三栖1	0.0	0.0	0.0	0.0	46.0	0.0	24.0	せん孔病有
田辺市	2	下三栖2	0.0	0.0	0.0	0.0	86.0	0.0	28.0	ツノロウムシ
田辺市	3	上秋津1	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0	0.0	0.0	ミノムシ
田辺市	4	上秋津2	2.0	2.0	0.0	0.0	96.0	0.0	8.0	ミノムシ
田辺市	5	団栗	0.0	0.0	0.0	0.0	64.0	0.0	4.0	ミノムシ
田辺市	6	中芳養	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	24.0	
田辺市	7	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	20.0	
田辺市	8	秋津川1	2.0	3.0	0.0	0.0	100.0	0.0	12.0	こうやく病有
田辺市	9	秋津川2	2.0	2.0	0.0	0.0	84.0	0.0	0.0	
田辺市	10	秋津川3	6.0	2.3	0.0	0.0	84.0	0.0	14.0	
田辺市	11	上芳養1	4.0	1.0	0.0	0.0	90.0	0.0	14.0	
田辺市	12	上芳養2	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	0.0	6.0	ミノムシ、鱗翅目被害果
	平均		0.6	0.4	0.0	0.0	77.2	0.0	9.6	
	発生園数		7		0		34	0	27	
	発生園率(%)		20.6		0.0		100	0.0	79.4	

(2) 6月調査(7、8日)

調査品種：南高

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		うどんこ病	灰色かび病	すす斑病	ウツロカラムシ	ハダニ類		コスカシハ	アブラムシ類	その他の病害虫等
	園No.	字名	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病果率	発病枝率	寄生枝率	被害葉率	虫数/100葉	被害カ所数/5樹	被害新梢率	
みなべ町	1	東岩代1	0.0	0.0	2.0	0.5	0.0	0.0	80.0	0.0	4.0	4.0	0.0	1.0	
みなべ町	2	東岩代2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	3	東岩代3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	せん孔病有
みなべ町	4	東本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	5	東本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	6	東本庄3	1.0	0.2	1.0	1.0	0.0	0.0	78.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	環紋葉枯病有
みなべ町	7	西本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	
みなべ町	8	西本庄2	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	34.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	マイマイガ幼虫
みなべ町	9	井戸が谷1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	3.0	2.0	0.0	0.0	
みなべ町	10	井戸が谷2	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	56.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	サクラサルハムシ
みなべ町	11	埴田1	2.0	1.3	2.0	0.3	0.0	0.0	88.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	12	埴田2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	6.7	20.0	5.0	1.0	0.0	せん孔病有
みなべ町	13	晩稲1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.0	
みなべ町	14	晩稲2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	68.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	15	晩稲3	0.0	0.0	31.0	19.2	0.0	0.0	50.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	16	晩稲4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	マイマイガ幼虫
みなべ町	17	岩代1	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	26.0	0.0	84.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	18	岩代2	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	19	高城1	3.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	48.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
みなべ町	20	高城2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	36.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	サクラサルハムシ
みなべ町	21	清川1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	
みなべ町	22	清川2	0.0	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	36.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
田辺市	1	下三栖1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	2.0	
田辺市	2	下三栖2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.0	13.3	11.0	9.0	0.0	0.0	サクラサルハムシ、アズメテフ(若齢幼虫多)、アズアケハダニ多
田辺市	3	上秋津1	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	96.0	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	マイマイガ、アズアケハダニ
田辺市	4	上秋津2	0.0	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	90.0	3.3	2.0	0.0	0.0	0.0	アズアケハダニ
田辺市	5	団栗	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	80.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	チャノキイロアザミウマ
田辺市	6	中芳養	4.0	2.0	1.0	0.7	0.0	0.0	62.0	26.7	6.0	0.0	0.0	0.0	
田辺市	7	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	3.3	3.0	0.0	0.0	0.0	シャクトリムシ
田辺市	8	秋津川1	0.0	0.0	10.0	1.8	0.0	0.0	70.0	3.3	1.0	0.0	0.0	0.0	
田辺市	9	秋津川2	8.0	4.2	3.0	1.5	0.0	0.0	92.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
田辺市	10	秋津川3	26.0	17.7	1.0	0.3	0.0	0.0	88.0	0.0	4.0	1.0	0.0	9.0	
田辺市	11	上芳養1	1.0	0.2	1.0	0.2	0.0	0.0	96.0	13.3	0.0	0.0	2.0	0.0	
田辺市	12	上芳養2	0.0	0.0	2.0	0.3	1.0	0.0	80.0	10.0	0.0	2.0	0.0	8.0	
	平均		1.4	0.8	1.8	0.8	0.0	0.0	65.2	2.5	5.4	1.0	0.1	0.7	
	発生園数		8		17		1	1	34	9	24		2	6	
	発生園率(%)		23.5		50.0		2.9	2.9	100	26.5	70.6		5.9	17.6	